

150

312

奥野賢二君編纂

現
行
度量衡法規全書

攝津茨木 周山堂藏版

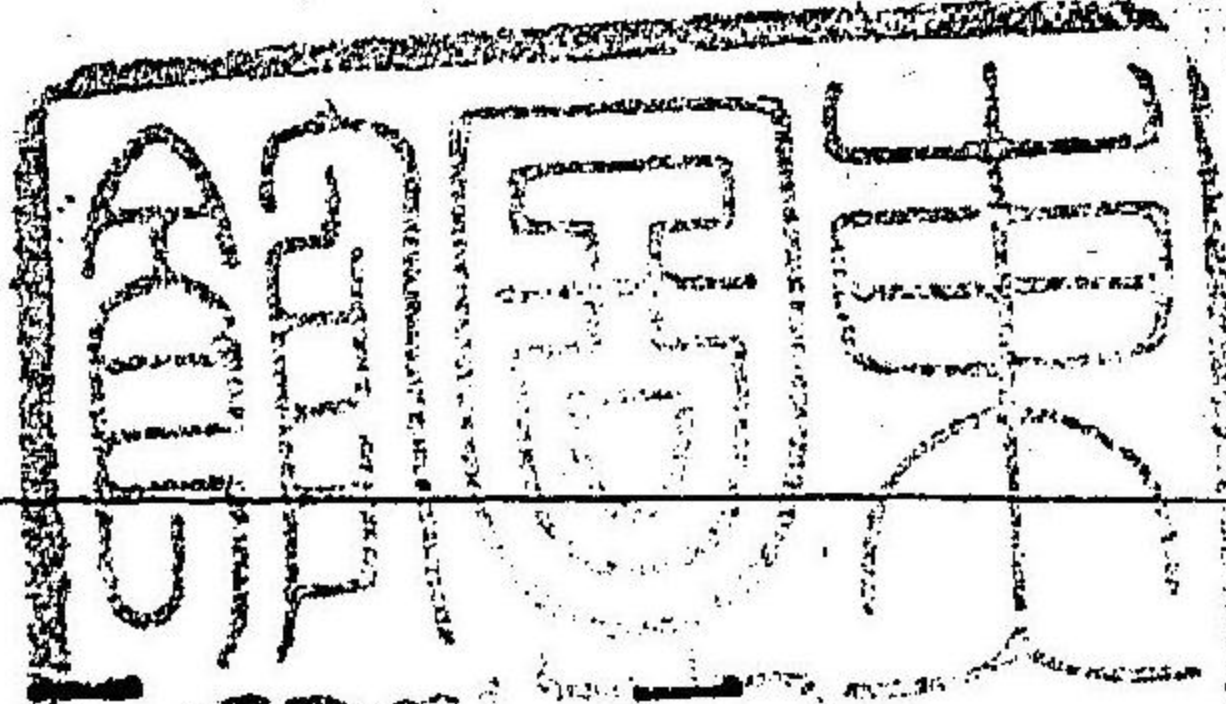
特16
579

米山 鋤太郎 君 校閱
奥野 賢二 君 編纂

現
仍
度
量
衡
法
規
全
書

周山堂藏版

CZ
1462
73-01



凡 例

- 一 本書ハ明治九年ヨリ本年八月ニ至ル十數年間ノ度量衡ニ關スル中央政府及ヒ大阪府ノ現行令達舊規則等ヲ蒐集シ尙之レガ取扱ニ係ル編者ノ管見ヲ掲ク
- 一 第四章ハ編者ニ於テ伺指令等ヲ根據トシテ日々實務ニ該ル市町村長ニ器營業者及ヒ使用者タル一般商人諸君ノ參考トナル可キ要項ヲ叙述ス
- 一 訂正増補ニ係ルモノハ本文ヲ修補シ其事由ヲ上部ニ掲記ス
- 一 上部ニ加除欄ノ設ケアレハ將來令達ノ改正又ハ追補ノ場合ハ諸君ニ於テ加除ヲ怠ラザルトキハ長ク現行法規タルヲ得

ハシ

明治廿六年九月

編者識

現行 度量衡法全書目錄

第一章 度量衡法及附隨諸法令

度量衡法

一頁

度量衡器ノ制限、製作販賣免許等並其檢定ニ關スル規則

九頁

度量衡法施行規則

二六頁

度量衡檢定所、檢定用具等及檢定成績表ニ關スル規程

四三頁

度量衡器ノ製作修復原器拂下代徴收方

五一頁

度量衡檢定規定

五二頁

西洋形權衡檢査手續書

七一頁

第二章 度量衡檢査規則及附隨諸規則

度量衡取締條例並檢査規則種類表

七三頁

度量衡改定規則

七九頁

水量秤組

一〇八頁

第三章 大阪府度量衡諸規則

度量衡取締規則

全

市區長委任事項ノ内度量衡検査ノ件刪除
 度量衡法施行ニ付心得方
 常置度量衡檢定所開始
 度量衡取締主任証票
 度量衡器ヲ免許者外ノ者製作修覆販賣スル者アリ
 不都合ニ付取締

第四章 編者管見

検査補助官吏ニ必要ナル事項
 營業者ニ必要ナル事項
 使用者ニ必要ナル事項

一一五頁
 全
 一一七頁
 全
 一一八頁
 一一九頁
 一二一頁
 一二二頁

加除欄

現行 度量衡法規全書

附市町村長及營業者心得

米山 錮太郎 校閱
 奥野 賢二 編纂

第一章 度量衡法及附隨諸法令

● 度量衡法 明治二十四年三月
 法律第三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ此ノ度量衡法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 度量衡ノ尺、寸、分、厘、毫、絲、忽、微、纖、塵、沙、渺、漠、比、以テ基本トス

第二條 度量衡ノ原器ハ白金、一イリヂウム、合金製ノ棒及分銅トス其棒ノ面ニ記シタル標線間ノ攝氏〇、一五度ニ於ケル長サ三十三分ノ十チ尺トシ分銅ノ質量四分ノ十五チ貫トス

第三條 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ
 度
 毛尺ノ万分ノ一

厘 尺ノ千分ノ一
 分 尺ノ百分ノ一
 寸 尺ノ十分ノ一
 尺
 丈 十尺
 間 六尺
 町 三百六十尺(六十間)
 里 一万二千九百六十尺(三十六町)
 地積
 勻 歩ノ百分ノ一
 合 歩ノ十分ノ一
 步 或ハ坪 六尺平方
 畝 三十歩
 段 三百歩
 町 三千歩
 量

勻 升ノ百分ノ一
 合 升ノ十分ノ一
 升 六万四千八百二十七立方分
 斗 十升
 石 百升
 衡
 毛 貫ノ百万分ノ一
 厘 貫ノ十万分ノ一
 分 貫ノ万分ノ一
 匁 貫ノ千分ノ一
 貫
 斤 百六十匁

第四條 從來慣用ノ鯨尺ハ布帛ヲ度ルトキニ限り之ヲ用キルコトヲ得
 鯨尺一尺ハ一尺二寸五分トシ其ノ十倍ヲ鯨尺一丈、十分ノ一ヲ鯨尺一寸、百分
 ノ一ヲ鯨尺一分トス
 第五條 「メートル」法、度量衡ハ左ニ掲グル比較ニ依リ之ヲ適法ノモノトシ本

明治廿六年二月法
律第三号ヲ以テ度
量衡法第八條第三
項全第九條第三項
追加セラル

貫 三七五〇、〇〇〇〇〇
「デカグラム」 (二、六六六六七
一、五五五分ノ四万)
斤 六〇〇、〇〇〇〇〇
「ヘクトグラム」 (二六、六六六六七
一、五五五分ノ四十七)
「キログラム」 (二六六、六六六六七
一、五五五分ノ四百方)

六

第六條 度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保管ス
農商務大臣ハ度量衡ノ原器ニ依リ副原器二組ヲ製作セシメ原器ノ代用ニ供ス
副原器ノ一組ハ農商務大臣之ヲ保管シ他ノ一組ハ文部大臣之ヲ保管ス
第七條 農商務大臣ハ副原器ニ依リ地方原器ヲ製作セシムベシ
地方原器ハ地方長官之ヲ保管シ度量衡器檢定ノ標準ニ供スルモノトス
第八條 度量衡器ヲ製作シ修覆シ若クハ販賣セント欲スル者ハ地方長官ヲ經由シ
農商務大臣ニ願出免許ヲ受クベシ
製作ノ免許ヲ得タル者ハ修覆及販賣ヲナスコトヲ得
販賣ノ免許ヲ得タル者ハ桿秤ノ取緒及錘絲ニシテ金屬ニアラザルモノニ限り修
覆ヲ爲スコトヲ得
免許ニ關スル年限、身元保證金其他必要ナル制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第九條 度量衡器ヲ製作シ修覆シ若クハ輸入シテ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用ス
ル者ハ豫メ其檢定ヲ受クベシ

製作者、修覆者、販賣者、桿秤ノ取緒及錘絲ニシテ金屬ニアラザルモノ、修覆ヲ
爲シタルキハ其檢定ヲ受クルコトヲ要セズ
官廳、公署、官立、公立ノ諸建設場又ハ貧院、病院其他之ニ類スル建設場ニ於テ賣
買、授受及證明ノ爲ニ使用スル度量衡器ハ營業ノ目的ニ使用スルモノニ準ス
第十條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、檢定ノ定期及公差、檢定スベキ目盛及分銅ノ
最小定限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十一條 度量衡器ノ檢定及取締ハ地方長官之ヲ管理ス
地方長官ハ市長、町村長ヲシテ其市町村内ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ行ハシメ
及其檢定ニ關スル事務ヲ補助セシムルコトヲ得
第十二條 度量衡器ノ製作者、修覆者、販賣者及使用者ハ取締ノ爲ニ行フ當該吏員
ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス、但シ吏員ハ主任タルノ證票ヲ携帯シテ之ヲ示スベシ
第十三條 度量衡器ノ製作、修覆及販賣ノ免許ヲ受クル者ハ免許料ヲ、檢定ヲ受ク
ル者ハ檢定料ヲ納ムベシ
免許料及檢定料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十四條 度量衡器ノ製作者、修覆者若クハ販賣者ニシテ度量衡ニ關スル法律命
令ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其營業免許ヲ取消スコトヲ得

七

第十五條 免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ製作シ若クハ修復シテ販賣シタル者ハ貳拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ販賣シ又ハ檢定ヲ受ケザル度量衡器ヲ販賣シ若クハ之ヲ營業ノ目的ニ使用シ及吏員ノ臨檢ヲ拒ミタル者ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

差狂アル度量衡器ナルコトヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用シタル者亦前項ニ同シ

第十六條 本法施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附 則

第十七條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 度量衡器ノ製作ニ限り本法施行前六箇月以内ニ之ヲ免許スルコトヲ得此場合ニ於テハ本法中製作ニ關スル條項ハ之ヲ適用ス

第十九條 從來度量衡製作及賣捌ノ免許ヲ受ケタル者ハ更ニ免許ヲ受クルコトヲ要セズ本法ノ規定ニ從ヒ其營業ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條 從來ノ度量衡器ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年以内ニ本法ノ規定ニ依リ其ノ檢定ヲ受クベシ檢定ヲ經ザルモノハ其期限ヲ過クル後之ヲ販賣シ若クハ營業

ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第二十一條 從來ノ度量衡器ニシテ修復シタルモノ、檢定ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年ヲ限り從來ノ檢査規則ニ依ル

第二十二條 明治八年太政官第三百三十五號達度量衡取締條例並ニ檢査規則同九年第十七號布告度量衡改定規則及西洋形權衡ニ係ル從來ノ法令ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但度量衡取締條例附屬檢査規則ハ前條ノ場合ニ限り明治三十二年十二月三十一日マテ其効力ヲ有ス

●度量衡器ノ制限製作販賣免許等並其檢定ニ關スル

規則 明治二十四年八月 勅令第七十七號

朕度量衡器ノ制限、其ノ製作、修復及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 度量衡器ノ種類形狀及物質ヲ定ムルコト左ノ如シ

度 器
形 狀
物 質
種 類

物	秤	線若板 クハ状	圓形及形					形 狀	衡 器	形
			圓形	及形	形	形	形			
秤	秤	同 (鐵ヲ除ク)	白金、金、銀、 「アルミニウム」洋銀、 白銅、青銅、真鍮、 銅、鐵	十匁及五十 グラム未滿 ハ鐵ヲ除ク	五百匁	五百匁	五十匁	五分	五升、 十「リットル」	大
			種	五匁	一匁	一匁	一匁	一匁	一斗、 二十「リットル」	二〇、 一三〇、
秤	秤	同 (鐵ヲ除ク)	十「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
			種	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
秤	秤	同 (鐵ヲ除ク)	二十「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
			種	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
秤	秤	同 (鐵ヲ除ク)	五十「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
			種	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
秤	秤	同 (鐵ヲ除ク)	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
			種	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
秤	秤	同 (鐵ヲ除ク)	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
			種	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
秤	秤	同 (鐵ヲ除ク)	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
			種	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
秤	秤	同 (鐵ヲ除ク)	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」
			種	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」	一「キログラム」

第二條 營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ明治三十二年ニ之ヲ檢定シ爾後五年目
毎ニ之ヲ檢定ス

第三條 度量衡器ノ公差ヲ定ムルコト左ノ如シ
但シ分銅ハ内減ヲ許サス

度量器ノ公差		全長	
全長	金属製	竹、木、骨、象牙製	全長
一尺 未滿	〇、五〇	一、〇	五「メートル」未滿
一尺 以上	〇、七五	一、五	五「メートル」以上
二尺 未滿	一、五〇	三、〇	一「メートル」以下
二尺 以上	二、〇〇	四、〇	一「メートル」以上
五尺 未滿	三、〇〇	五、〇	五「メートル」以下
五尺 以上	四、〇〇	六、〇	五「メートル」以上
十尺 未滿	五、〇〇	七、〇	十「メートル」以上
十尺 以上	六、〇〇	八、〇	十「メートル」以上
三十尺 以上	全長ノ千分ノ一	全長ノ千分ノ一	全長ノ千分ノ一

金属、象牙、骨、黒檀、紫檀、檜

天 秤
臺 秤
桿 秤

量器容量及寸法ノ公差		餘尺	
量器(各種ノ木製、鐵葉製ノ物及二升又ハ五リットル以上ノ金屬製ノモノ)ノ容量		一尺	二、〇
量器(各種ノ木製、鐵葉製ノ物及二升又ハ五リットル以上ノ金屬製ノモノ)ノ容量		二尺	四、〇
量器(各種ノ木製、鐵葉製ノ物及二升又ハ五リットル以上ノ金屬製ノモノ)ノ容量		三尺	四、〇
一升以下	一厘		
二升以上	二厘		
一リットル以下	〇、三 <small>(ミリメートル)</small>		
五リットル以上	〇、八 <small>(ミリメートル)</small>		
各種斗概ノ徑及長サ			
一分			
量器(鐵葉製ヲ除キ他ノ金屬製一升以下ノモノ)ノ水重ノ公差			
一 勺	〇、〇五	一「センチリットル」	〇、一
二 勺	〇、〇五	二「センチリットル」	〇、二
五 勺	〇、一〇	五「センチリットル」	〇、三
一 合	〇、二〇	一「デシリットル」	〇、五
二 合	一、〇〇	二「デシリットル」	一、〇

量器(玻璃製)ノ水重ノ公差		衡器ノ公差	
量器(玻璃製)ノ水重ノ公差		分銅 一匁以上	
量器(玻璃製)ノ水重ノ公差		分銅 五匁又ハ十又ハハ	
量器(玻璃製)ノ水重ノ公差		分銅 十又ハハ以上	
量器(玻璃製)ノ水重ノ公差		分銅 五分又ハ一分	
一 勺	〇、三	一「デシリットル」	一、〇
二 勺	〇、五	二「デシリットル」	二、〇
五 勺	一、〇	五「デシリットル」	五、〇
一 合	一、二	一「リットル」	一、二
二 合	一、五	二「リットル」	二、五
一 升	三、〇		
分銅 五分			
〇、〇〇五			
分銅 一匁以上			
〇、〇一〇			
分銅 五匁又ハ十又ハハ			
全重ノ千分ノ一			
分銅 十又ハハ以上			
全重ノ百分ノ一			
分銅 五分又ハ一分			
全重ノ百分ノ一			

目盛

一度目ノ二分ノ一ニ相當スル重サ

度器ノ各目盛ノ公差ハ前項定限ノ二分ノ一トス

第四條 檢定スベキ度器ノ目盛及分銅ノ最小定限ヲ定ムルコト左ノ如シ但量器ハ其全量ノ外他ノ目盛ヲ檢定セス

度器ノ目盛

五厘

(二尺以下ノ度器)

一分

(十尺未滿ノ度器)

一寸

(十尺以上ノ度器)

鯨尺一分

(各種鯨尺度器)

一「ミリメートル」

(一「メートル」以下ノ度器)

五「ミリメートル」

(五「メートル」未滿ノ度器)

五「センチメートル」

(五「メートル」以上ノ度器)

分銅

一厘

一「センチグラム」

第五條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許年限ハ十五箇年トス

第六條 度器衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ヲ願出ル者ハ其願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ

タル營業ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スベシ
製作、修覆ヲ願出ル者

一 製作場、修覆場ノ位置及構造

二 製作、修覆セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質

三 資本金

四 製作、修覆ニ使用スベキ技師、職工ノ員數及其職業別並ニ諸器械ノ種類

販賣ヲ願出ル者及製作者ニシテ販賣ヲ兼スル者

一 販賣所ノ位置及構造

二 販賣セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質

三 資本金

四 販賣セントスル度量衡器ノ製作者修覆者又ハ輸入者ノ住所、姓名及營業所

農商務大臣前項營業ノ設計ヲ不適當ト認ムルトキハ其願書ヲ却下スベシ

第七條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受タル者其營業ノ設計ヲ變更セ

ントスルトキハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第八條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受クル者ハ左ノ免許料ヲ納ムベシ

度器、量器又ハ衡器ノ製作 金拾五圓

度器、量器又ハ衡器ノ修復 金拾貳圓

度器、量器又ハ衡器ノ販賣 金五圓

第九條 度量衡器ノ檢定ヲ受シルモノハ左ノ檢定料ヲ納ムベシ
二段以上目盛シタル度器ハ一段毎ニ其檢定料ヲ納ムベシ

檢定料

度器	一尺以下(一分目)	〇、五
竹	一尺以下(五厘目)	一、〇
	三尺以下(一分以上ノ目)	一、〇
木	七尺以下	四、〇
	半「メートル」以下	二、五
骨	一「メートル」以下	四、〇
	二「メートル」以下	五、〇

象牙	鯨尺 一尺	〇、五
	鯨尺 二尺	一、〇
	鯨尺 三尺	一、〇
金	一尺以下	二、五
	三尺以下	二、五
	七尺以下	五、〇
	十八尺以下	五、〇
	六十尺以下	二五、〇
	六十尺以上	五〇、〇
	曲リ尺各種	三、五
	半「メートル」以下	五、〇
	一「メートル」以下	六、〇
	二「メートル」以下	七、五
	五「メートル」以下	七、五
	十「メートル」以上	五〇、〇

明治廿四年十一月
勅令第百三十三号ヲ
以テ量器ノ部斗概
以下追加セラレ

檜、栴、	斗概	玻璃	屬除	金葉鐵	鐵葉、	姫子松	銀杏、	檜、栴、	銀杏、	姫子	松、	鐵葉、	量器	屬
五「デシリットル」以下	各種	一斗	五升	二升	一升以下	二合五勺以下	二合五勺以下	二升以下	二升以下	五升	一斗	二合五勺以下	二尺	一尺
一、五	〇、五	七、五	五、〇	三、〇	四、〇	三、〇	五、〇	三、五	二、〇	一、〇	二、五	二、五	二、五	二、五

分	衡器	玻璃	屬除	金葉鐵	鐵葉、	姫子松	銀杏、
五分未滿	一箇	二十「リットル」	十「リットル」	五「リットル」	二「リットル」以下	五「デシリットル」以下	二「リットル」以下
二十匁以下	一組(分銅ノ數八箇以下)	十「リットル」	五「リットル」	二「リットル」以下	五「デシリットル」以下	二「リットル」以下	二「リットル」以下
五百匁以下	一箇	二十「リットル」	十「リットル」	五「リットル」	二「リットル」以下	五「デシリットル」以下	二「リットル」以下
五百匁以下	一箇	二十「リットル」	十「リットル」	五「リットル」	二「リットル」以下	五「デシリットル」以下	二「リットル」以下
一貫以上	一箇	二十「リットル」	十「リットル」	五「リットル」	二「リットル」以下	五「デシリットル」以下	二「リットル」以下
一、〇	二、〇	一、五	八、〇	四、〇	五、〇	三、五	二、〇

秤	臺	天秤	銅
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサル下ノ)	五十貫以下	其他ノモノ	一「グラム」未滿 一箇
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)	百五十貫以下	一厘又ハ五「センチグラム」未滿ヲ感スルモノ	五十「グラム」以下 一組(分銅ノ數八箇以下)
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)	以上百貫、テヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	一「キログラム」以下	一「キログラム」以下 一組(分銅ノ數十三箇以下)
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)	二百「キログラム」以下	一「キログラム」以下	一「キログラム」以下 一箇
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)	五百「キログラム」以下	二「キログラム」以上	二「キログラム」以上 一箇
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)	以上三百「キログラム」マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	一厘又ハ五「センチグラム」未滿ヲ感スルモノ	一厘又ハ五「センチグラム」未滿ヲ感スルモノ
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)	七貫以上三十貫マテ	五十貫以下	五十貫以下
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)	以上十貫マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	百五十貫以下	百五十貫以下
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)	七「キログラム」以下	其他ノモノ	其他ノモノ
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)	七「キログラム」ヲ超ヘ百「キログラム」マテ	五十貫以下	五十貫以下
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナルモノ)	以上十「キログラム」マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	百五十貫以下	百五十貫以下

秤	臺	天秤	銅
二貫ヲ超ヘ十貫未滿	五十貫以下	其他ノモノ	一「グラム」未滿 一箇
七貫以上三十貫マテ	百五十貫以下	一厘又ハ五「センチグラム」未滿ヲ感スルモノ	五十「グラム」以下 一組(分銅ノ數八箇以下)
以上十貫マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	二百「キログラム」以下	一「キログラム」以下	一「キログラム」以下 一組(分銅ノ數十三箇以下)
七「キログラム」以下	五百「キログラム」以下	一「キログラム」以下	一「キログラム」以下 一箇
七「キログラム」ヲ超ヘ百「キログラム」マテ	以上三百「キログラム」マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	二「キログラム」以上	二「キログラム」以上 一箇
以上十「キログラム」マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	七貫以上三十貫マテ	一厘又ハ五「センチグラム」未滿ヲ感スルモノ	一厘又ハ五「センチグラム」未滿ヲ感スルモノ

第十條 第八條ノ免許料及第九條ノ檢定料ハ登記印紙ヲ以テ納ムベシ
 第十一條 度量衡器ノ製作、修葺又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ左ノ身元保證金
 ナ納ムベシ

- 度量衡器製作 金三百圓
- 量器製作 金二百圓
- 衡器製作 金三百圓
- 木材、象牙、骨製桿秤 金五百圓
- 天秤、分銅、臺秤及金屬製桿秤 金二百圓
- 度量衡器修葺

量器修葺

金二百圓

衡器修葺

木材、象牙、骨製桿秤

金二百圓

天秤、分銅、臺秤及金屬製桿秤

金三百圓

度量器販賣

金百圓

量器販賣

金百圓

衡器販賣

金百圓

●度量衡法施行規則

明治二十四年八月
農商務省令第十一號

度量衡法施行規則左ノ通定ム

度量衡法施行規則

第一章 檢定

第一條 度量衡檢定所ハ常置、特設ノ二トシテ定置檢定所ニ於テハ製作、修葺若ハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定シ特設檢定所ニ於テハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定ス

常置檢定所ハ地方廳所在地ニ一箇所ヲ置キ特設檢定所ハ定期檢定ヲ施行スルト

明治廿六年二月農
務省令第一號ヲ
以テ第一條第三項
ヲ追加セラル

キ地方長官便宜其場所ヲ指定スベシ

地方長官ニ於テ地方ノ狀況ニ依リ該廳所在地外ニ常置檢査所ヲ設置スベキ必要アリト認ムルキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項特設檢定所場所及檢定ノ期日ハ其檢定ヲ施行スル期日ヨリ少クモ一箇月以前ニ之ヲ告示スベシ

第二條 度量衡器ノ檢定ヲ受ケントスルキハ製作、修葺若ハ輸入シタル者ハ左ノ

甲 號書式ニ營業ノ目的ニ使用スル者ハ乙 號書式ニ依リタル檢定請求書ニ明治二十四年勅令第七十七號第九條ニ定ムル檢定料相當ノ登記印紙ヲ貼用シ之ヲ器物ニ添ヘ度量衡檢定所ニ差出スベシ

(甲號式用紙
美濃)

度量衡器檢定請求書

此處ニ登記
印紙ヲ
貼用シ
消スベシ

(度量器)

形状	物	質	種		製	作	又	ハ	輸入	番	號	箇	數
			全	目									
直	形	竹	何	直尺何尺又ハ	何	分	又	ハ	何	何	何	何	何
			何	「メートル」	何	分	又	ハ	何	何	何	何	何
			何	「メートル」	何	分	又	ハ	何	何	何	何	何
			何	「メートル」	何	分	又	ハ	何	何	何	何	何

(但シ種類ノ欄中自盛 記入ヲ要スルハ三尺以下ノ度器ニ限ル)

(量器)

形状	物	質	種	製	作	又	ハ	輸入	番	號	箇	數
方	形	楡	何	升	又	ハ	何	リ	ットル	何	何	何
			何	升	又	ハ	何	リ	ットル	何	何	何

(手概)

種類	製	作	又	ハ	輸入	番	號	箇	數
大、中又ハ小	何	號	又	ハ	至	自	何	何	何
	何	號	又	ハ	至	自	何	何	何

(分銅)

形状	物	質	種	製	作	又	ハ	輸入	番	號	箇	數
圓	溝	形	眞	鐘	何	何	何	何	何	何	何	何
			何	鐘	何	何	何	何	何	何	何	何

(秤)

種類	秤	量	感	度	又	ハ	目	盛	製	作	又	ハ	輸入	番	號	箇	數
桿	秤	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
		何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

年月日

何製作、修葺又ハ輸入者 宿所 何

某

(乙號書式用紙)

度量衡器檢定請求書

此處ニ壹
記印紙ヲ
貼用シテ
印スベシ

(度量器)

物	質	全種		目盛	筒數
		長	尺		
竹		直尺	何何	何	何
		曲尺	何	何	何

(但シ種類ノ欄中目盛ノ記入ヲ要スルハ三尺以下ノ度量器ニ限ル)

(量器)

物	質	種	類	筒數
斗	概	何		筒

(分銅)

種	類	筒數	及	組數
何	何	何		何

(秤)

至	何	何	何	幾	組	何	筒
何	何	何	何				

種	類	秤	量	感量	又	目盛	筒數
		何	何	何	何	何	何

年月日

宿所 何 某 印

第三條 五分若クハ「グラム」未滿ノ分銅ノ檢定ハ常置度量衡檢定所ニ於テ之ヲ行フ

第四條 檢定所ニ度量衡器ヲ差出シ難キトキハ其事由及度量衡器ノ種類、箇數等ヲ詳記シ特ニ其所在地ニ於テ檢定ヲ受ケンコトヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得
地方長官前項ノ請求ヲ許可シタルキハ請求者ハ檢定吏員ノ爲メニ成規ノ旅費日當共他檢定ニ要スル費用ヲ負擔シ檢定吏員ノ指示ニ從ヒ諸般ノ準備ヲナスベシ
但シ旅費其他ノ費用ハ之ヲ前納スベシ

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ請求書ヲ出張吏員ニ差出スベシ
 第五條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、度量器ノ目盛及分銅ノ最小定限並ニ公差ハ明治廿四年勅令第百七十七號第一條第二條第三條及第四條其構造ハ本令第二章ノ規定ニ依リ檢定スベシ

第六條 度量衡器ヲ檢定シタルトキハ其合格ノ者ニハ檢定ノ證印ヲ附シ、證印ヲ附シ難キモノニハ證書ヲ附シ、證印又ハ證書アル者ニシテ不合格ノキハ之ニ消印ヲ附スベシ

第七條 證印、證書、消印及年號印、廳府縣印ノ種類、雛形ヲ定ムルヲ左ノ如シ

一 證印 正

- 打込ミ印
 - 大 四分平方
 - 中 二分平方
 - 小 六厘平方
- 烙キ印
 - 大 四分平方
 - 小 二分平方

檢定之證	製作人
	廳府縣 某

一 證書

年 號	何 年
番 號	第 何 號
物 質	何 々
形 狀	何 々
種 類	何 々
年 月	廳 府 縣
	度量衡檢定所 印

大 〔長〕三寸五分
〔横〕五寸

小 〔長〕一寸二分
〔横〕一寸五分



打込ミ印
 大 〔長〕四分
〔短〕二分六厘
 中 〔長〕二分
〔短〕一分三厘
 小 〔長〕一分
〔短〕四厘

烙キ印
 大 〔長〕四分
〔短〕二分六厘
 小 〔長〕二分
〔短〕一分三厘

押シ印
 〔長〕六分
〔短〕四分

一 廳府縣印

打込ミ印、烙キ印共
 廿六

(明治二十六年)

廳府縣名
 北海道廳

印

廳府縣名
 北 大阪府

印
 サカ

東京府	京都府	長崎縣	新潟縣	埼玉縣	群馬縣	千葉縣	茨城縣	栃木縣	奈良縣	三重縣	愛知縣	靜岡縣	山梨縣	滋賀縣
東	京	ナガサキ	ニガタ	サイタマ	グンマ	チバ	チバ	チバ	ナラ	ミエ	アイ	シズカ	ヤマナシ	シズカ
神奈川縣	兵庫縣	岐阜縣	長野縣	福島縣	宮城縣	巖手縣	青森縣	秋田縣	山形縣	石川縣	富山縣	福井縣	島根縣	鳥取縣
神	兵	岐	ノナガ	フク	シマ	イワ	アオ	アキ	カヤマ	イシ	トヨ	フク	シマ	ト

岡山縣	廣島縣	山口縣	和歌山縣	德島縣	香川縣	愛媛縣	高知縣
岡	廣	クヤマ	和	徳	香	メエヒ	高
福岡縣	大分縣	佐賀縣	熊本縣	宮崎縣	鹿兒島縣	沖繩縣	
フク	オ	サ	クマ	ミヤ	キ	チ	

第八條 汚染、磨滅、毀損等ニ依リ證印證書ノ識別シ難キモノ又ハ證書ノ紛失シタルモノハ更ニ其器ノ檢定ヲ受クベシ

第二章 構造

第九條 度器ハ表面ニ其全長ヲ表記スベシ但シ細帶狀ノ度器ニシテ函ニ連結シタルモノハ其函ニ表記スルモ妨ナシ

鐘狀ノ度器ハ其一端ノ環ニ其全長ヲ表記スベシ

第十條 量器ハ外側ニ其全量ヲ表記シ斗概ハ切口ニ其種類ノ大中小ヲ表記スベシ

第十一條 鐵葉ヲ以テ五合及一「リットル」以上ノ量器ヲ製作スルトキハ之ヲ二重ニスベシ

第十二條 鐵、銅若ハ眞鍮ヲ以テ製作シタル量器ハ其内面ニ錫又ハ白銅ヲ鍍着スベシ

第十三條 木製ノ量器ハ鐵板ヲ以テ口縁ヲ被フベシ

一升及二「リットル」以上ノ木製ノ方形量器ニハ其側及底ノ四隅ノ外面ニ鐵帶ヲ曲ケテ附加スベシ其圓形量器ニハ一箇又ハ交叉シタル二箇ノ鐵帶ヲ曲ケ其側及底ノ外面ニ沿フテ附加スベシ

酒、酢、醬油、食鹽等ノ如キ鉄ヲ腐蝕スベキ物料ヲ量ルニ用キル量器ニハ其鉄ニ錫又ハ白銅ヲ鍍着シ若ハ腐蝕セザル他ノ堅牢ナル物質ヲ以テ前二項ノ鉄ニ代フベシ

鐵板又ハ鐵帶ヲ量器ニ附着スルニ螺旋釘ヲ以テシタルキハ其捻戻シヲナシ得ザル丈ケ釘頭ヲ削去スベシ

斗概ハ鉄葉ヲ以テ其側面ヲ包ムベシ但シ本條第三項ノ量器ニ附屬スル斗概ハ此限ニアラス

第十四條 量器ニハ注口、趾及把ヲ附スルコトヲ得

注口ヲ附スルキハ其容量ノ割合ニ應シ量器ノ深サヲ減スベシ

注口ノ口面ハ量器ノ上面ト其高サヲ同一ニスベシ但シ玻璃製ノモノハ此限リニアラス

第十五條 圓形量器ノ口徑ハ其深サト同一ニスベシ但シ金屬製一升及二「リットル」以下ノモノハ其深サノ二分ノ一トスベシ

第十六條 筒器ノ重點及支點ニハ鋼鐵若ハ堅石ヲ用キ緒紐ニハ金屬、革又ハ強韌ナル絹絲麻絲等ヲ用キルヘシ

第十七條 錘及増錘ノ物質ハ分銅ノ物質ト同一ノモノニ限ル但シ其重量五十匁又ハ二百「グラム」以上ノモノニアラサレハ鐵ヲ以テ製作スルコトヲ得ス

第十八條 分銅、錘及増錘ノ重サヲ齊整スル爲メ鉛ヲ用キルトキハ分銅及増錘ハ上面ノ一部、錘ハ側面又ハ底面ノ一部ヲ穿テ此ニ鉛ヲ填充シ金屬片ヲ以テ之ヲ塞クヘシ但シ分銅ノ把手ヲ螺旋ニナシテ其ノ穿口ヲ塞クトキハ釘ヲ以テ之ニ緊著スヘシ

前項ノ穿口ヲ塞クニハ鐵及螺旋釘ヲ用キルコトヲ得ス

第十九條 鐵製ノ分銅、錘及増錘ノ鉛ヲ填充セサルモノハ分銅及増錘ハ上面ノ一部、錘ハ側面ノ一部ニ眞鍮片ヲ挿入シ檢印ヲ附スルノ便ニ供スヘシ

第二十條 分銅、錘及増錘ニ填充スル鉛ノ量ハ其ノ全量ノ二十分ノ一ニ超コルコトヲ得ス

第二十一條 天秤、臺秤、桿秤ハ其ノ最大重ヲ掛ケタル量ヲ秤量トシ左ノ定限以下ノ量ヲ感スルコトヲ要ス

天秤 秤量ノ千分ノ一

臺秤 秤量ノ二千分ノ一

桿秤 秤量ノ二百分ノ一

第二十二條 臺秤ハ秤量十貫若ハ三十「キログラム」以上ノモノニ限ル

第二十三條 臺秤ノ目盛ハ秤量ノ二千分ノ一以内、桿秤ノ目盛ハ秤量ノ二百分ノ一以内トス但シ其ノ感量ヨリ小ニスルコトヲ得ス

第二十四條 二段以上目盛シタル桿秤ノ感量ハ毎段ニ就キ之ヲ定ムヘシ

第二十五條 桿秤ノ取緒ハ一緒若ハ二緒トス其ノ二緒ノモノハ之ヲ表裏ニ附著スヘシ

第二十六條 分銅ハ其ノ重量、増錘ハ其ノ掛量ヲ其ノ上面ニ表記スヘシ但シ線狀ノ分銅ハ此限ニアラス

第二十七條 錘、増錘、皿等ニシテ其ノ附属スル秤桿ト分離シ得ルモノハ其秤桿ト

同一ノ符號ヲ表記スベシ

第二十八條 天秤ハ其秤量及感量ヲ支柱、臺又ハ其他ノ部ニ表記スベシ

第二十九條 臺秤ハ其臺ノ縁ニ桿秤ハ其桿ノ目盛ノ各段ニ秤量ヲ表記スベシ

第三十條 度量衡器ニハ製作者若シハ輸入シテ販賣スル者ノ記號及製作若ハ輸入ノ年号、番号ヲ併列シテ表記スベシ

修葺シタル度量衡器ニシテ前項ノ記號、年號又ハ番號ヲ識別シ難キモノニハ修葺者ノ記號及修葺ノ年號、番號ヲ表記スベシ

表記ノ方法ハ左ノ例ニ依ルベシ

明治二十六年製(輸入若ハ修葺)ノ第千八十號ハ

「記號26 一〇八〇」又ハ「記號26 一〇八〇」

第三十一條 數箇ノ分銅ヲ一組トナスキハ箱ニ納メ各箇ニ同一ノ記号、年号及番号ヲ附スヘシ之ヲ各箇ニ附シ難キトキハ箱ニ表記スルヲ得

第三十二條 度量衡器ノ目盛ハ度及衡ノ名稱ノ一倍、二倍、五倍若ハ此倍數ノ十倍、百倍タルヘシ但シ斤ノ目盛ハ其二分ノ一、四分ノ一又ハ一倍、二倍、五倍タル

～シ

第三章 免許

明治廿六年三月農商務省令第五號ヲ以テ本條第二項追加セラル

第三十三條 度量衡器ノ製作、修復若ハ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ明治廿四年勅令第百七十七號第六條ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ但輸入販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其旨ヲ願書ニ記スヘシ
度量衡法第八條第三項ニ依リ桿秤ノ取締及錘絲ノ修復ヲサントスル者ハ本條ニ依リ豫メ其設計ノ承認ヲ受クヘシ

第三十四條 農商務大臣ハ免許ヲ與ヘントスルキハ其通知書ニ免許料納入用紙ヲ添ヘ出願者ニ送付スヘシ

出願者ハ前項ノ免許料納入用紙ニ明治廿四年勅令第百七十七號第八條ノ免許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ其通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ農商務省ニ納ムヘシ

第三十五條 免許料ノ納入ヲ成シタルキハ免許狀ヲ下付スヘシ

免許狀ヲ受領シタルキハ免許狀受領ノ日ヨリ三十日以内ニ明治廿四年勅令第百七十七號第十一條ノ身元保證金ヲ納ムヘシ
免許ヲ取消サレ若ハ營業ヲ廢止シタルキハ免許狀ヲ返納スヘシ又之ヲ紛失シタ

明治廿六年四月農商務省令第九號ヲ以テ本條第二項ノ免許狀ノ口附トアリシヲ受領ノ日ヨリト改メラル

ルキハ更ニ其下付ヲ請フベシ

第三十六條 第三十四條ノ免許料及第三十五條ノ身元保證金ヲ規定ノ期限内ニ差出サハルキハ其出願又ハ免許ヲ無効トス

第三十七條 身元保證金ハ通貨若ハ公債證書ヲ國立銀行ニ預ケ入レ其預リ證券ヲ地方廳ニ納メ置クベシ但シ公債證書ハ時價ニ依リ其二割ヲ増シテ納ムベシ

地方長官前項ノ預リ證券ヲ受取タルキハ其旨ヲ農商務大臣ニ具申スベシ
第三十八條 身元保證金ノ金額ニ減少ヲ生シタルキハ地方長官其旨ヲ納入者ニ通知シ完納セシムベシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ完納セザルトキハ地方長官ハ其旨ヲ農商務大臣ニ具申シ處分ヲ請フベシ

第三十九條 度量衡器ノ製作、修復若ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者其營業ヲ廢止シタルキハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届出ベシ

第四十條 度量衡器ノ製作若ハ修復ノ免許ヲ受ケタル者ハ其原器ヲ備フベシ但其實渡ヲ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ請求スルヲ得
製作ノ免許ヲ受ケタル者ハ其原器ヲ製作スルヲ得此場合ニ於テハ地方長官ノ檢定ヲ受クベシ

明治廿六年三月農務省令第五號ヲ以テ本條第三項追加同條末項中原器ノ下ニ「及前項ノ分銅」ノ六字ヲ加ヘラル

明治廿六年四月農務省令第九號ヲ以テ本條第二項「下付ノ日ヨリ」ヲ「受領ノ日ヨリ」ト改メラル

明治廿六年三月農務省令第五號ヲ以テ本條ヲ加ヘラル以下順次繰下ケラル

桿秤ノ取緒及錘絲ノ修復ヲナス販賣者ハ其修復ニ要スル分銅及秤架ヲ備フベシ
製作若ハ修復ニ用サル原器及前項ノ分銅ハ毎年一回以上地方長官ノ檢定ヲ受クベシ

第四十一條 度量衡器ノ製作、修復若ハ輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ其表記ニ用サル記號ヲ定メ豫メ地方長官ニ届出ベシ

第四十二條 從來度量衡製作若ハ賣捌ノ免許ヲ受ケタル者其營業ヲ繼續セントスルニハ明治廿五年九月三十日迄ニ明治廿四年勅令第百七十七號第六條ニ定ムル設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届出テ繼續免許狀ヲ受クベシ
繼續營業者ハ第三十七條ノ手續ニ依リ繼續免許狀受領ノ日ヨリ三十日以内ニ身元保證金ヲ納ムベシ

前二項ノ期限内ニ届出及身元保證金ノ納入ヲナサザル者ハ其營業ヲ繼續スルコト不得ス

第四十三條 前條届出ノ設計不適當ナルニハ農商務大臣ハ期限ヲ定メテ其變更ヲ命スベシ

第四十四條 度量衡法第八條第三項ニ依リ桿秤ノ取緒及錘絲ノ修復ヲナシタルニハ差狂アリト認ムルニ於テハ其旨ヲ地方廳若ハ市長町村長ニ届出スベシ

第四章 罰則

第四十五條 第八條第三十三條第二項及第四十四條ニ違背シタル者ハ拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第三十五條第三項第三十九條若ハ第四十一條ニ違背シタル者ハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第四十條ニ違背シタル者ハ五圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

● 度量衡檢定所檢定用具等及檢定成績表ニ關スル規程

明治廿四年八月 農商務省訓令第三十五號

北海道廳 府縣

度量衡檢定所、地方原器、檢定用具、檢定補助用具及度量衡檢定成績表ニ關スル規程左ノ通定ム

第一條 常置度量衡檢定所ハ火災ノ虞少ナシ、氣温ノ外成ルベシ温度ノ劇變ナキ乾燥靜穩ナル場所ヲ選フベシ

第二條 特設度量衡檢定所ハ官廳公署其他便宜ノ場所ヲ以テ之ニ充ツベシ

第三條 度量衡器ヲ檢定スル場所ハ敲キ土間其他堅牢ニシテ平坦ナル土間ヲ用フ

明治廿六年三月農務省令第五號ヲ以テ本條中第八條ノ下ニ「第三十三條第二項及第四十四條」ノ十四字ヲ加ヘラル

明治廿六年三月
農務省訓令第四號

ルベシ

第四條 地方原器ハ濕氣少ク溫度ノ劇變、火災及塵埃ヲ避クベキ場所ニ堅牢ナル臺ヲ据ヘテ其上ニ平置シテ保管スヘシ

第五條 地方原器ヲ使用スルトキハ成ルヘク其保管シアル場所ニ於テシ且ツ直接ニ手ヲ觸レザル様注意スヘシ

第六條 地方長官ハ農商務大臣ノ指揮ニ從ヒ地方原器ノ檢定ヲ受クヘシ但シ臨時檢定ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シテ農商務大臣ニ申請スヘシ

第七條 農商務大臣ハ附錄第一號ノ檢定用具ヲ地方長官ニ交付スヘシ

第八條 檢定用具ノ修補、引替若クハ増加ヲ要スルハ地方長官其事由ヲ具シ農商務大臣ニ請求スヘシ

第九條 檢定用具ハ特設檢定所ニ於テ用ヰル時ノ外常置檢定所ニ備ヘ置クベシ

第十條 地方長官ハ毎年檢定用ニ供スル度量衡器ヲ檢定スヘシ

第十一條 地方長官ハ附錄第二號ノ檢定補助用具ヲ備フヘシ

第十二條 地方長官ハ左ノ書式ニ依リ前年四月ヨリ其年三月ニ至ル一箇年間ノ度量衡檢定成績表ヲ調製シ毎年五月十日マテニ農商務大臣ニ報告スヘシ

地方長官ハ桿秤ノ取繕ノ修復ヲナシタル箇數ヲ各製作所、修復所及販賣所ニ區

明治廿四年八月
農務省訓令第三十五號
第十二條第二項
追加セラル

別シ前項ニ定ムル期限ニ農商務大臣ニ報告スヘシ
(用紙美濃)

種別	度	檢定報告		廳府縣
		至何年何月	何年何月	
直尺	尺	メートル		
疊尺	尺	メートル		
卷尺	尺	メートル		
鈍尺	尺	メートル		
總尺				
曲リ尺				
計				
檢定料計				
量器				

明治廿五年七月
 商務省訓令第二十
 三號ヲ以テ、廿四年
 八月全省訓令第三
 十五號附録第一號
 第四項乃至第七號
 改正セラレ

- 一 長サ鯨尺二尺ト六厘トシ其二尺ハ鯨尺一分目ヲ附シ一端ノ度目ノ内外鯨尺六厘ニハ鯨尺二厘目ヲ附ス
- 一 第一卷尺
 - 長サ十八尺ト四分六厘トシ其十八尺ハ一寸目一端ノ六尺ハ一分目ヲ附シ又其端ノ度目ノ内外四分六厘ニハ二厘目ヲ附ス
- 一 第二卷尺
 - 長サ五「メートル」ト十五「ミリメートル」トシ其五「メートル」ハ五「センチメートル」目、一端ノ一「メートル」ハ一「ミリメートル」目、其次ノ一「メートル」ハ五「ミリメートル」目ヲ除シ又其端ノ度目ノ内外十五「ミリメートル」ニハ十分ノ五「ミリメートル」目ヲ附ス
- 一 第一量器
 - 自一斗至一勺
- 一 第二量器
 - 自二十「リットル」至一「センチリットル」
- 一 第一分銅
 - 自五貫至一毛ノ十分ノ一

- 一 第二分銅
 - 自二十「キログラム」至一「ミリグラム」
- 一 大形天秤
 - 秤量十貫、感量五分
- 一 中形天秤
 - 秤量一貫、感量一厘
- 一 小形天秤
 - 秤量五十匁、感量一毛ノ十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ十分ノ一
- 一 度器檢定器
- 一 重サ檢定補助具
- 一 顯微鏡
- 一 水準器
- 一 證印
- 一 證書
- 一 消印
- 一 年號

一 廳府縣印

附錄第二號

檢定補助用具

- 一 秤架 支柱ナキ天秤及桿秤ヲ
懸クルニ用井ルモノ
- 第一秤架 第一圖ノ如シ
- 第二秤架 第二圖ノ如シ
- 第三秤架 第四圖ノ如シ
- 取緒缺 桿秤ノ取緒ヲ缺ミテ之
ヲ釣ルニ用井ルモノ
- 第二秤架ニ附属スルモノ 第三圖ノ如シ
- 第三秤架ニ附属スルモノ 第五圖ノ如シ
- 秤臺 小形ノ天秤及支柱アル桿秤(書狀
掛ケノ類)ヲ載スルニ用井ルモノ 第六圖ノ如シ
- 鉛丸 分銅ヲ檢定シ又ハ水重ヲ以テ
量器ヲ檢定スルニ用井ルモノ
- 鉛板 前同様ノ場合ニ於テ適宜削リ
取り小片トナシテ用井ルモノ
- 精粟量器ノ容量ヲ檢定
サスルニ用井ルモノ
- 粟泮粟ヲ量器ニ容ル、ニ用ユルモノ 第七圖ノ如シ

- 一 水泮 水重ヲ以テ量器ヲ檢定スルトキ
水ヲ量器ニ注入スルニ用井ルモノ
- 一 吸水管 前同様ノ場合ニ於テ小量
水ヲ注クニ用井ルモノ 第八圖ノ如シ
- 一 机 度器檢定器及天秤其ノ他檢定スル
器ヲ載スルニ用井ルモノ 第九圖ノ如シ
- 一 打印盤 檢定ノ印ヲ附ス
ルニ用井ルモノ 第十圖ノ如シ
- 一 錠 前同
様 第十一圖ノ如シ
- 一 烙印ノ柄 第十二圖ノ如シ
- 一 右ノ外檢定ノ執行ニ要スル物品
(第一圖乃至第十二圖解略ス)

● 度量衡器ノ製作、修覆、原器拂下代徵収方

明治廿四年九月十一日
農商務省令第四十號

北海道廳 府 縣

本年當省令第十一號度量衡法施行規則第四十條ニ據ル度量衡器ノ製作、修覆、原器
拂下代ノ徵収方ハ其廳ニ委任候條廿三年當省訓令第六號及第二十九號ニ據リ取扱
フベシ

但二十五年度概算書ハ送附ニ及ハス

(參照)

明治二十三年二月農商務省訓令第六号ハ農商務省所管免許料手数料鑛山借區稅徵收順序ナリ
明治廿三年六月農商務省訓令第二十九號ハ農商務省所管免許料手数料鑛山借區稅及森林收入ニ關シ會計
規則ニ據リ檢査ス可キ事項取扱方ナリ

●度量衡檢定規程

明治廿五年七月
農商務省訓令第二十二號

北海道廳 府 縣

度量衡檢定規定左ノ通之ヲ定ム

度量衡檢定規定

第一章 檢定スヘキ度量衡器並檢定ノ方法

第壹條 檢定スヘキ度量衡器ハ明治廿四年法律第三號度量衡法、勅令第七十七

號度量衡器ノ制限、其製作、修覆及販賣ノ免許並其檢定ニ關スル規則及農商務省

令第十一號度量衡法施行規則ノ規定ニ遵由シタルモノニ限ル

第二條 度量衡器ノ檢定ハ左ニ掲ケル三回ノ檢査ヲ經ルヲ要ス

第一 度量衡器檢定請求書ノ當否ノ檢査

第二 度量衡器ノ種類、形狀、物質及構造ノ檢査

第三 度器ノ目盛、量器ノ寸法及容量、衡器ノ感量、目盛及重量ノ檢査

第三條 第一回檢査ニ於テハ度量衡法第三條第四條第五條及度量衡法施行規則第

二條第三條ノ規定ニ照校シテ一ノ抵觸ナキモノヲ合格トシ其他ハ不合格トス

第四條 第二回檢査ニ於テハ度量衡器ノ制限、其製作、修覆及販賣ノ免許並其檢定

ニ關スル規則第一條及度量衡法施行規則第二章第十五條第廿一條
及第廿四條ヲ除クノ規定ニ照校シテ

一ノ抵觸ナキモノヲ合格トシ其他ハ不合格トス

第五條 第三回檢査ニ於テハ度量衡器ノ制限、其製作、修覆及販賣ノ免許並其檢定

ニ關スル規則第三條第四條及本規則第二章ノ規程ニ照校シテ一ノ抵觸ナキモノ

ヲ合格トシ其他ハ不合格トス

第二章 檢査ノ方法

第六條 卷尺及鏈尺ヲ檢査スルニハ檢定用卷尺ヲ用キ其他ノ度器ヲ檢査スルニハ

檢定用直尺若ハ鯨尺ヲ用ユベシ

第七條 檢定用直尺又鯨尺ヲ用キルキハ其目盛ヲ施シタル邊ヲ檢査スル者ノ方ニ

向ケ箱ノ儘度器檢定臺(第一圖)ノ後段「甲」「乙」ニ載セ臺縁ニ附シタル抑へ具

「丙」「丁」「戊」ヲ以テ其移動ヲ防クベシ

第八條 度器ノ目盛ヲ檢査スルニハ其檢定スベキ各最小目盛ヲ之ニ相當スル檢定

用度器ノ目盛ニ對照スベシ

前項ノ場合ニ於テ受檢器ノ目盛線及文字ノ記入方ニ錯誤ナク且ツ兩度器ノ各目盛線互ニ並行シテ一致スルカ又ハ一致セザルモ其差、公差以内ニ在ルモノヲ合格トスベシ

一器ニ二段以上ノ目ヲ盛リタルモノハ其ノ一段毎ニ目盛ヲ檢査スルヲ要ス

第九條 卷尺ヲ除キ他ノ度器ノ目盛ヲ檢査スルニハ顯微鏡ヲ用ヰルヲ要ス但シ其ノ構造ニ因リ顯微鏡ヲ用ヰ難キモノハ此ノ限ニ非ス

第十條 度器ノ構造ニ因リ其ノ目盛ヲ檢定用度器ノ目盛ト接合セシメ難キモノハ目渡シ器(第二圖)ヲ用ヰテ檢査スベシ

第十一條 直尺又ハ鯨尺ノ全長及目盛ヲ檢査スルニハ受檢度器ヲ度器檢定臺ノ前段「己」「庚」ニ載セ其ノ構造ニ因リ載セ難キモノハ前段ノ上部ヲ撤去シ之ヲ其ノ下部「辛」「壬」ニ載セ其ノ目盛ヲ檢定用度器ノ目盛ト同シ高サニ於テ對照セシメ本條第二項若ハ第三項ノ手續ヲ行フヘシ但シ玉尺(球、圓錐等ノ徑ヲ度ル直尺)ハ其ノ全長及目盛ヲ檢査シタル後更ニ第十二條ノ手續ニ依リ其ノ内直角ヲ檢査スルヲ要ス

受檢度器ノ全長檢定用度器ニ均シキ種類ノ物ハ兩器ノ左方目盛ノ起線ヲ正シ

合セ又受檢度器ノ全長檢定用度器ヨリ短キ種類ノモノハ受檢度器ノ左方目盛ノ起線ヲ檢定用度器ノ右方ヨリ數ヘタル受檢度器ノ全長相當ノ目盛線ニ正シ合ヒ受檢度器ノ目盛ヲ左方ヨリ右方ニ及ホシ逐次之ニ相當スル檢定用度器ノ目盛ニ對照シ又其全長ヲ右端ノ目盛線ニ對照シテ其差ヲ視定シ之ヲ目盛及全長ノ公差ニ照校スベシ

受檢度器ノ全長檢定用度器ヨリ長キ種類ノモノハ檢定用度器ニ相當スル長サ毎ニ及其ノ殘餘ノ部分ニ就キ前項ノ手續ヲ行ヒ每次視定シタル差ヲ差引キシタルモノヲ全長ノ差トシ之ヲ公差ニ照校スベシ

第十二條 曲リ尺ハ前條第一項及第二項ノ手續ニ依リ兩枝ノ全長及目盛ヲ檢査シ其合格シタルモノハ更ニ其内外二角ヲ檢査スヘシ但シ此場合ニ於テハ抑ヘ具ヲ用ヰルヲ要セス

角ヲ檢査スルニハ平板面又ハ厚紙面ニ兩脚規ヲ以テ直角ヲ畫キ之ニ受檢度器ノ内外二角照校シ俱ニ正シク合ヒタルモノヲ合格トスベシ

第十三條 疊尺ハ之ヲ延長シテ第十一條ノ手續ニ依リ其全長及目盛ヲ檢査スヘシ但シ其ノ目盛ノ同一平面ニ在ラサルモノハ之ヲ構成スル各直尺毎ニ其目盛ヲ檢査シ次項ノ手續ニ依リ其ノ全長ヲ檢査スヘシ

首位ノ直尺ハ其全長ヲ檢シ次位以下ノ各直尺ハ其ノ前位ニ在ル直尺ノ最終目盛線ト接續スヘキ目盛線ヨリ他ノ一端ノ最終目盛線マテノ寸法ヲ檢シ其各接續部ニ於テ一致スヘキ兩直尺ノ目盛線一致セザルトキハ其差ヲ視定シ之ト各直尺ニ就テ視定シタル差ヲ差引シタルモノヲ量尺全長ノ差トシ之ヲ公差ニ照校スヘシ

第十四條 卷尺又ハ鏈尺ノ全長及目盛ヲ檢査スルニハ檢定用度器ノ目盛ヲ施シタル邊ヲ檢査スル者ノ方ニ向ケ拘臺抑臺(第二圖)ヲ用井テ之ヲ其ノ間ニ渡シ張り下部ニ木片ヲ布キ水平ヲ保タシメ鎖子ヲ其臺ニ載セ更ニ他ノ抑臺拘臺ヲ前ノ拘臺抑臺ニ並べ之ヲ用井テ受檢度器ヲ渡シ張り檢定用度器ト相接シテ並行セシメ鎖子ヲ其臺ニ載セ俱ニ第十一條第二項第三項ノ手續ニ依ルヘシ

第十五條 量器ハ量器用尺(第四圖)ヲ用井テ其寸法ヲ檢査シ木材製、鐵葉製及二升又ハ五「リットル」以上ノ金屬製ノモノハ善ク乾キテ粒ノ揃ヒタル精粟ヲ其他ノ量器ハ善ク漉シテ清潔ナル冷水ヲ用井テ其容量ヲ檢査スヘシ

第十六條 量器ノ寸法ヲ檢査スルニハ其形狀ニ應シ左ノ手續ニ依ルヘシ

一 方形量器ハ第三量器用尺ノ「甲」ヲ逐次四隅ニ當テ各方ノ寸法ヲ視定シ其差ヲ公差ニ照校スヘシ

二 圓形量器ハ第一若ハ第二量器用尺ノ「甲」又ハ「乙」ヲ逐次内面二箇所以上ニ

當テ徑ノ寸法ヲ視定シ其ノ差ヲ公差ニ照校スヘシ

三 斗概ハ之ヲ平板上ニ轉轉シテ其面ニ密着セザルモノハ不合格トシ其ノ密着スル物ハ更ニ側面及切口ヲ第三量器用尺ノ内直角ノ二邊ニ當テ「丙」及「乙」ノ目盛ニ依テ其徑ト長サトヲ視定シ其ノ差ヲ公差ニ照校スヘシ

第十七條 量器檢定臺ハ粟粒ヲ以テ量器ノ容量ヲ檢定セントスルトキ土間ニ据ヘテ用キルモノトス

檢定用斗概及漏斗ノ注口ハ受檢量器五升又ハ十「リットル」以上ノモノニハ其大ヲ五合又ハ一「リットル」以上ノモノニハ其中ヲ二合又ハ五「デシリットル」以下ノモノニハ其小ヲ用キルヘシ

第十八條 粟粒ヲ以テ量器ノ容量ヲ檢査スルニハ逐次左ノ四段ノ手續ヲ行フヘシ

一 受檢量器ニ相當スル檢定用量器及容量比較器(第五圖ノ甲)ヲ量器檢定臺(第五圖ノ乙)上適宜ノ位置ニ据ヘ其上位ニ漏斗ヲ裝置シテ粟ヲ注シノ用ニ供スベシ漏斗ノ高サハ斗概ヲ使用スルニ差支ナキヲ度トシ且ツ檢定用量器ト受檢量器ノ深サ相同シキ場合ニ於テハ漏斗ノ下口ヨリ兩量器ノ内底面マテノ高サヲ同一ニシ其同シカラザル場合ニ於テハ其深サノ差ノ二分ノ一ヲ度トシテ檢定用量器ニ對シ其高サヲ増スヲ要ス

一斗及五升二十「リットル」及十「リットル」ノ容量比較器ハ函ニ裝置シタル儘使用スベシ

二 粟粒ヲ量器上ノ漏斗ニ盛り其下口ヲ開テ之ヲ量器ニ注入セシメ之ニ相當ナル檢定用斗概(第六圖)ノ稜「甲」「乙」ヲ検査スル者ノ方ニ向ケ靜ニ量器ノ一隅ニ當テ「丙」ノ面ヲ下ニ向ケ少シク斜ニ極メテ輕快ニ之ヲ引キ其上面ニ餘リタル粟粒ヲ拂ヒ去ルベシ此場合ニ於テ量器ノ縁ニ尙粟粒ノ殘留スルカ又ハ斗概ト量器ノ衝突若ハ其他ノ原因ノ爲メニ量器ヲ震動シタルトキハ更ニ其施行ヲ新タニス可シ但シ使用ニ要スル粟粒ノ量ハ方形ノ受檢量器ニ在テハ五割増圓形ノモノニハ三割増トスベシ

三 量器ノ粟粒ヲ容量比較器上ノ漏斗ニ盛り移シ其ノ下口ヲ開テ之ヲ容量比較器ニ注入セシメ其ノ粟ノ上面ニ當ル目盛ヲ視定スヘシ但粟粒ヲ漏斗ニ移スニハ務メテ器物ノ接觸漏斗ノ震動及粟粒ノ飛散ヲ防キ又便宜粟注キヲ使用スヘシ

四 檢定用量器ヲ除キ之ニ代フルニ受檢量器ヲ以テシ更ニ前三段ノ手續ヲ施行シ其ノ前後ニ視定シタル容量比較器ノ目盛ニ依リ兩者ノ容量ノ差ヲ視定シ之ヲ其ノ公差ニ照校スヘシ

同量ノ器ヲ検査スルトキト雖モ每器ニ付本條ノ手續ヲ行フヘシ

第十九條 水ヲ以テ量器ノ容量ヲ検査スルトキハ二合又ハ五「デシリットル」以上ノモノニハ檢定用大形天秤一合又ハ二「デシリットル」以下ノモノニハ中形天秤ヲ用サルヘシ但シ天秤ノ用法ハ第二十三條第三項ニ依ルヘシ

量器ニ水ヲ盛ルニハ先ツ其ノ内面ヲ濕シ次ニ水ヲ注入シ充分水ヲ含ミタル小刷毛ヲ以テ其ノ内面ニ附着スル氣泡ヲ搔キ取り次ニ蓋ノ一部ヲ量器ニ載セ緊壓シ徐ニ之ヲ進メテ密閉シ若シ蓋ノ下ニ氣泡ヲ殘ストキハ更ニ少量ノ水ヲ注入シ再ヒ其蓋ヲ密閉シ其ノ外面周圍ノ水濕ヲ拭ヒ去ルヲ要ス但シ玻璃製量器ニ水ヲ盛ルニハ之ヲ水平面上ニ置キ水ヲ注入シ全量ノ目盛線ニ達セシメ内面ヲ善ク拭フヘシ水面ヲ目盛線ニ達セシムルニハ視線ヲ下方ノ水際ニ注キ水面ト一致セシメ水ヲ少シツ、加減シテ視定スヘシ

第二十條 水ヲ以テ量器ノ容量ヲ検査スルニハ逐次左ノ五段ノ手續ヲ行フヘシ
一 受檢量器及ヒ之ニ相當ナル檢定用量器ヲ其ノ蓋ヲ除キ天秤ニ載セ其ノ輕重ヲ檢スヘシ

二 檢定用量器受檢量器ヨリ重キトキハ之ヲ右皿ニ載セ輕キトキハ其差ヨリ少シク重キ鉛ヲ添ヘ之ヲ載セ又他ノ鉛ヲ受ケ皿ニ盛り之ヲ左皿ニ載セ左右平

等ナラシムヘシ

三 檢定用量器ニ水ヲ盛り之ニ公差相當ノ分銅ヲ加ヘ又他ノ鉛ヲ他ノ受皿ニ盛
リ之ヲ左皿ニ載セ左右平等ナラシムヘシ

四 右皿ノ檢定用量器、分銅、鉛、及左皿ニ後ニ載セタル鉛ヲ其受ケ皿ト共ニ撤
去シ更ニ右皿ニ受檢量器ヲ載セ之ニ鉛ヲ加ヘ左右平等ナラシムヘシ

五 受檢量器ニ水ヲ盛り前ニ左皿ヨリ撤去シタル鉛及其受ケ皿ヲ再ヒ左皿ニ載
スヘシ此場合ニ於テ左右平等ナルカ又ハ右皿偏輕ヲ表スルモ之ニ其公差二
倍ニ相當スル分銅ヲ加ヘ平等若ハ偏重ヲ表スルトキハ之ヲ合格トスヘシ

第二十一條 同量ノ受檢量器二箇以上ヲ引續キ檢査スル場合ニ於テハ其輕重ヲ秤
リ最モ重キモノニ就テ前條各段ノ手續ヲ行ヒ其他ハ同條第四段及第五段ノ手續
ノミヲ行フヘシ

第二十二條 玻璃製量器ヲ檢査スルニハ之ニ相當スル檢定用量器ヲ其蓋ト共ニ天
秤ノ右皿ニ載セ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ第二十條第三段以下ノ手續ニ依ル
ヘシ

第二十三條 衡器ハ其重量目盛及減量ヲ檢査ス
受檢分銅ノ種類一貫又ハ二「キログラム」以上ノモノニハ檢定用大形天秤ヲ、五十

又又ハ百「グラム」以上ノモノニハ中形天秤ヲ二十又又ハ五十「グラム」以下ノモ
ノニハ小形天秤ヲ用ウヘシ

檢定用大形天秤ハ第一秤架ニ懸ケ中形及小形天秤ハ机上ニ載セ其臺ヲ水平ナラ
シメ俱ニ土間ニ据ヘテ用ウヘシ

第二十四條 分銅ヲ檢査スルニハ其公差ニ相當スル分銅ヲ檢定用分銅ニ添ヘ天秤
ノ右皿ニ又鉛ヲ左皿ニ載セ之ヲ平等ナラシメ次ニ右皿ノ分銅ヲ悉皆撤去シ之ニ
受檢分銅ヲ載スヘシ此場合ニ於テ左右平等ナルカ又ハ右皿偏輕ヲ表スルモ之ニ
其公差相當ノ分銅ヲ加ヘ平等若ハ偏重ヲ表スルトキハ之ヲ合格トスヘシ

數箇ノ分銅ヲ合セテ一組トナシタルモノハ其中ノ一箇不合格ナルトキハ其組全
體ヲ不合格トスヘシ

第二十五條 天秤ヲ檢査スルニハ逐次左ノ三段ノ手續ヲ行フヘシ

一 天秤ノ臺ナキモノハ秤架ニ懸クヘシ其臺アルモノハ土間ニ据ヘタル机又ハ
秤臺ニ載セ其机又ハ秤臺ニ載セ難キモノハ直ニ土間ニ据ヘテ共ニ水平ナラ
シムヘシ

二 水平ヲ得タルモノニ微振ヲ與ヘ其指針正當ノ標點ヲ指スカ又ハ指サザルモ
調子玉ヲ以テ之ヲ正スコトヲ得ルトキハ之ヲ合格トスヘシ又鈎、皿等ノ桿

ト分離シ得ルモノニシテ之ヲ懸クル桿ノ左右ニ符合ナキモノハ其分離シ得ヘキ部分ヲ逐次交換シ其都度平等ヲ得ルモノヲ合格トスヘシ

三 秤量ニ相當スル檢定用分銅ヲ右皿ニ又鉛ヲ左皿ニ懸セ平等ナラシメ更ニ其分銅及鉛ヲ左右交換シテ其平等ヲ得タルモノ及平等ヲ得サルモ其傾斜度表ノ半度目ヲ超ヘサルモノハ更ニ其感量相當ノ分銅ヲ一方ノ皿ニ懸セ度表ノ設ケナキモノニ在テハ其感動ヲ目撃シ得ルモノ又度表ノ設ケアルモノニ在テハ一度目以上ノ感動ヲ起スモノヲ合格トスヘシ

第二十六條 臺秤及臺アル桿秤ヲ検査スルニハ臺秤ハ臺脚ヲ平坦ナル位地ニ密着セシメテ据ヘ桿秤ハ水平ナル秤臺ニ載セ逐次左ノ三段ノ手續ヲ行フヘシ

一 錘ヲ直點ニ懸ケ桿秤桿息メノ中間ニ靜メ之ニ微振ヲ與ヘ其振動上下一様ナルトキ又ハ一様ナラサルカ若ハ桿息メニ寄着スルモ調子玉ヲ以テ之ヲ正スコトヲ得ルモノヲ合格トスヘシ

二 錘ヲ適宜五箇所以上ノ目盛ニ懸ケ尙其中二三箇所ニ於テハ隣接ノ目盛ニ懸ケ其各目盛ニ相當スル分銅ヲ室又ハ皿ニ載セ終リニ錘ヲ盛リ止メニ懸ケ之ニ相當スル分銅ヲ逐次臺又ハ皿ノ四隅ニ移シ載セ其都度平等ヲ得ルカ若ハ平等ヲ得サルモ公差相當ノ分銅ヲ増減シテ平等ヲ得ルモノヲ合格トスヘシ

但シ皿ヲ垂下シタル桿秤ニ在テハ盛止メノ検査ニ於テ分銅ヲ皿ノ中央ニ載セ唯一回ノ平等ヲ得ルヲ以テ足レリトス

三 増錘ナキ桿秤ハ錘ヲ盛リ止メニ懸ケ平等ヲ得タルトキ最小目盛相當ノ分銅ヲ皿ニ加ヘ感動ヲ起スモノヲ合格トスヘシ又増錘アル桿秤若ハ臺秤ハ其増錘ヲ少量ノモノヨリ漸次大量ノモノニ及ホシ各別ニ桿端ニ懸ケ又之ヲ悉皆同時ニ桿端ニ且ツ錘ヲ盛リ止メニ懸ケ毎次之ニ相當スル分銅ヲ臺又ハ皿ニ載セ平等セサルモノハ直ニ不合格トシ平等ヲ得タルモノハ尙其最小目盛相當ノ分銅ヲ臺又ハ皿ニ加ヘ其感動ヲ起スモノヲ合格トスヘシ但シ秤量百五十貫又ハ百五十「キログラム」ヲ超ルモノハ増錘ヲ悉皆同時ニ懸クルノ手數ヲ省キ單ニ其量ニ相當スル重量ヲ懸ケテ平等ヲ得タルトキ其感動ヲ檢スヘシ

第二十七條 臺ナキ桿秤ヲ検査スルニハ其器ノ大小ニ應ジ第二秤架若ハ第三秤架ニ裝置シ錘ヲ逐次直點及盛り出シニ懸ケ桿ノ水平ヲ得サルモノ若ハ睨ミノ一致セサルモノハ直ニ不合格トシ其他ハ各段ノ目盛ニ就キ更ニ前條第二段以下ヲ適用スヘシ

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ検査ヲ行フニ當リ目盛線及文字ノ記入方

ニ錯誤アルモノハ不合格トスヘシ

第三章 證印、證書、消印、年號印及廳府縣印ノ用法

第二十九條 證印、年號印及廳府縣印ハ受檢器ノ同一局部ニ一行又ハ二行ニ竝ヘテ之ヲ同時ニ附スヘシ其例ハ左ノ如シ

例 明治二十六年東京府檢定ハ「二十六東正」又ハ「二十六東正」

第三十條 證印、年號印及廳府縣印ヲ附スルニハ受檢器ノ種類、形狀、物質竝之ヲ附スヘキ局部ノ廣狹ニ應シテ其大小ヲ擇ヒ消印ノ大小ハ己ニ附シアル證印ニ準スヘシ

第三十一條 打込ニ印ハ金屬製ノ度量衡器又ハ木製ノ度量器、衡器ニ用ウヘシ烙キ印ハ象牙若ハ骨製ノ度量器、衡器、竹製ノ度量器及木製ノ量器ニ用ウヘシ押シ印ハ度量衡器ニ附シアル證書ニ用サルヘシ

第三十二條 度量衡器ノ證印、消印、年號印及廳府縣印ヲ附スヘキ局部ハ左ノ如シ

一 度量器

- 一 直尺、鯨尺、曲リ尺及疊尺ハ全長又ハ記號ヲ表記セル部
- 二 卷尺ハ其一端但シ函ニ連結シアルモノハ其函
- 三 鏈尺ハ其一端ノ環

二 量器

- 一 樽ハ全量又ハ記號ヲ表記セル部及把手若ハ注口ヲ附シアルモノハ其把手若ハ注口ノ一部但シ第二回以後ノ檢定ニ於テハ把手及注口ニ附印スルヲ要セス
- 二 斗概ハ其一端

三 衡器

- 一 分銅ハ其上面
 - 二 天秤ハ桿ノ中央部
 - 三 臺秤ハ桿ノ末端
錘ハ其側面又ハ底面、増錘ハ其上面但シ第二回以後ノ檢定ニ於テハ附印スルヲ要セス
 - 四 金屬製桿秤ハ直點ノ傍若ハ桿ノ末端又木製ノモノハ其木材ノ部及端ニ金具ヲ附シアルモノハ其金具但シ第二回以後ノ檢定ニ於テハ木材ノ部若ハ端ノ金具錘及増錘ハ臺秤ノモノニ同シ
 - 五 皿アル衡器ニシテ桿ニ附印シ難キモノハ其ノ皿
- 第三拾三條 證書ハ適宜其ノ大小ヲ擇ヒ左ノ三項ノ一ニ該當スル度量衡器ニ附ス

ルモノトス

- 一 小形又ハ硬質ノ爲メ附印シ難キモノ
- 二 附印スルトキハ毀損若ハ差狂チ生スルノ虞アルモノ
- 三 附印スヘキ局部チ有セザルモノ

第四章 検定用ニ供スル度量衡器ノ検定方法

第三拾四條 検定用ニ供スル度量衡器ノ検定ハ之チ地方原器ニ照校シテ其ノ固有ノ差チ検査スルモノトシ其ノ手續ハ本章及第二章ノ規定ニ據ルヘシ
 此検査ニ於テ固有ノ差チ超ユルモノ及分銅ノ検査ニ於テ平等チ得サルモノハ檢定ニ使用スルチ得ス

第三拾五條 度器ハ左ノ手續ニ據ル

- 一 直尺ハ度器檢定臺ニ地方原器ト對接シテ之チ載セ第一直尺ハ每一尺ノ長サヲ第二直尺ハ全長チ各其ノ左方ヨリ右方ニ及ホシテ之チ檢シ地方原器ノ右端ニ盛リタル目盛ニ照校シテ其差チ視定スヘシ
- 二 鯨尺ハ度器檢定臺ニ第一直尺ト對接シテ之チ載セ鯨尺ノ左方目盛ノ起線チ第一直尺ノ右方ヨリ數ヘタル鯨尺二尺ニ相當スル目盛ニ正シク合セ第一直尺ノ右方ニ盛リタル目盛ニ照校シテ其ノ差チ視定シ更ニ地方原器ニ對スル

差チ算定スヘシ地方原器ニ對スル差チ算定スルニハ第一直尺ノ右方二尺チ地方原器ニ比シタル差ニ其左方一尺ノ差ノ二分一チ加ヘタルモノト第一直尺ニ對スル鯨尺ノ差トチ差引スヘシ

- 三 卷尺ハ度器檢定臺ニ直尺ト對接シテ之チ載セ卷尺ノ目盛ノ起線チ直尺ノ左方目盛ノ起線ニ正シク合セ其ノ直尺ニ對スル差チ視定シ更ニ同様ノ手續ニ依リ直尺ニ相當スル卷尺ノ長サト直尺ノ差チ視定シ其差チ差引シテ卷尺全長ノ差ヲ求メ更ニ地方原器ニ對スル差チ算定スヘシ

第三拾六條 量器ハ左ノ手續ニ據ル

- 一 量器用尺ハ鯨尺チ検査スルノ手續ニ依リ次ニ掲ケル寸法チ直尺ニ比シ其差ト直尺ノ地方原器ニ對スル差トチ差引シテ之チ其ノ固有ノ差ニ照校スヘシ
 第一及第二量器用尺 「甲」及「乙」ノ外側間ノ距離 一尺五寸
 第三量器用尺 「甲」ノ外側ト「乙」ノ内側ノ間ノ距離 一尺五寸
- 二 容量ハ總テ水重チ以テ検査シ次表ニ掲グル重量ニ比シ其差チ各器固有ノ差ニ照校スヘシ
 五合又ハ一「リットル」以上ノ量器ニハ大形天秤チ二合五勺又ハ五「デシリットル」以下ノモノニハ中形天秤チ用サルチ要ス

容量	水	重量	容量	水	重量
一斗	四八一〇、四二七	二十「リットル」			二〇、〇〇〇 <small>(キログラム)</small>
五升	二四〇五、二一三	十「リットル」			一〇、〇〇〇
二升	九六二、〇八五	五「リットル」			五、〇〇〇
一升	四八一、〇四三	二「リットル」			二、〇〇〇
五合	二四〇、五二一	一「リットル」			一、〇〇〇
二合五勺	一二〇、二六一	五「デシリットル」			〇、五〇〇
二合	九六、二〇九	二「デシリットル」			〇、二〇〇
一合	四八、一〇四	一「デシリットル」			〇、一〇〇
五勺	二四、〇五二	五「センチリットル」			〇、〇五〇
二勺	九、六二一	二「センチリットル」			〇、〇二〇
一勺	四、八一〇	一「センチリットル」			〇、〇一〇

第三十七條 天秤ハ單ニ第二章ノ規定ニ據リ分銅ハ二貫以上又ハ五「キログラム」ノモノニハ大形天秤ヲ百匁又ハ二百「グラム」以上ノモノニハ中形天秤ヲ五十匁又ハ百「グラム」以下ノモノニハ小形天秤ヲ用キ左ノ三項ノ手續ニ據ル

一 五毛又ハ五「ミリグラム」以下毎組ノ分銅

一毛十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ分銅一箇ヲ天秤ノ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ一毛十分ノ二又ハ二「ミリグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其平等ヲ檢スヘシ

一毛十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ分銅二箇ヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ一毛十分ノ二又ハ二「ミリグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其平等ヲ檢スヘシ
 一毛十分ノ二又ハ二「ミリグラム」ノ分銅一箇ト一毛十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ分銅一箇トヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ一毛十分ノ五又ハ五「ミリグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其平等ヲ檢スヘシ
 一毛十分ノ五ノ分銅一箇十分ノ二ノ分銅二箇及十分ノ一ノ分銅一箇ヲ合セテ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ一毛ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其平等ヲ檢スヘシ

二 二毛以上ノ分銅ハ前諸項ノ例ニ準スベシ

一厘又ハ一「センチグラム」以上毎組ノ分銅
 一厘又ハ一「センチグラム」ノ分銅一箇ヲ天秤ノ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等

ナラシメ更ニ他ノ鉛ヲ以テ左皿ノ鉛ニ載セ換ヘ平等ナラシメ之ニ撤去シタル鉛ヲ添載シテ二厘又ハ二「センチグラム」ノ各分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其平等ヲ檢スベシ

二厘又ハ二「センチグラム」ノ分銅二箇及一厘又ハ一「センチグラム」ノ分銅一箇ヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ五厘又ハ五「センチグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其平等ヲ檢スベシ

五厘又ハ五「センチグラム」以下ノ分銅ヲ合セテ一分又ハ一「デシグラム」ノ重ヲ相當セシメ之ヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ更ニ一分又ハ一「デシグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其平等ヲ檢スベシ

二分又ハ二「デシグラム」以上ノ分銅ノ檢査ハ一分又ハ一「デシグラム」ノ分銅ノ檢査ノ例ニ準スハシ

最後ニ檢シタル一貫又ハ一「キログラム」分銅ノ固有ノ差相當ノ分銅ヲ地方原器ニ添ヘ之ト其一貫又ハ一「キログラム」分銅ノ平等ヲ檢スベシ

三 二貫又ハ二「キログラム」以上ノ分銅

分銅固有ノ差ニ相當スル分銅ト地方原器トヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ右皿ヨリ其固有ノ差相當ノ分銅ノミヲ左皿ヨリ其鉛ヲ撤去シ更ニ他

ノ鉛ヲ左皿ニ載セ之ヲ平等ナラシメ又左皿ニ撤去シタル鉛ヲ添載シテ二貫又ハ二「キログラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ原器ニ載セ換ヘ其平等ヲ檢スベシ
五貫又ハ五「キログラム」ノ分銅ニ在テハ四回、十「キログラム」分銅ニ在テハ九回、二十「キログラム」分銅ニ在テハ十九回、鉛ヲ載セ換ヘ前項ノ手續ヲ行フベシ

第五章 製作、修復原器ノ檢査

第三十八條 製作、修復原器ノ檢査ハ檢定用度量衡器ト同一ノ手續ニ依ルベシ但シ檢査ノ成績ハ檢査ヲ受ケタル者ノ請求ニ依リ之ヲ書面ニ認メ交付スベシ

(第一圖乃至第六圖略ス)

●西洋形權衡檢査手續書

明治二十五年十一月
農商務省訓令第三十五號

北海道廳 府縣

度量衡法第二十一條ノ規定ニ適用スヘキ從來ノ西洋形權衡檢査手續ハ左ノ如シ

西洋形權衡檢査手續書

一 檢査ノ際錘ノ量ヲ増減スルニ便ナラシメンカ爲メ豫メ錘ノ上面若クハ側面ニ穴ヲ穿テ鉛屑ヲ納メテ螺旋ヲ以テ其口ヲ塞キ置クベシ而シテ檢印ハ其螺旋ノ合セ

目ニ打込ムヘシ

但錘質鐵ナレハ上面若クハ側面ノ一部ニ黃銅片ヲ埋メ茲ニ穴ヲ穿テ其内ニ鉛屑ヲ納ムルコト本文ノ如クスヘシ又錘形小ニシテ穴中ニ鉛屑ヲ納ムルコト充分ナラサルモノハ穴ハ唯錘量ヲ増ストキ鉛ヲ納ムルノ豫備ニ供スルノミトシテ初ヨリ鉛屑ヲ納メ置カス而シテ其量ヲ減セントスルトキハ錘ノ底面ヲ削リ取リ然ル後檢印ヲ捺スヘシ

一 檢査ノ際増錘ノ量ヲ増減スルニ便ナラシメンカ爲メ豫メ錘ノ表面ニ穴ヲ穿テ鉛屑ヲ納レ螺旋ノ合セ目ニ打込ムヘシ

但増錘ノ質鐵ナレハ表面ニ黃銅ヲ埋メ云々前項但書ノ如シ

一 増錘ヲ載スル臺モ亦増錘ト同シ

一 増錘ヲ附スル權衡ノ檢査ハ第一星點量ヲ檢シ第二最大星點量ニ於テ感シテ檢シ第三各錘ヲ懸ケテ其量ヲ檢スヘシ

第二ノ感シテ檢スルニハ最小目盛り量ニ均シキ分銅ヲ以テ之ヲ檢スヘシ

但臺秤ニアリテハ其最大星點量ヲ檢スルトキ檢査分銅ヲ逐次臺ノ四隅ニ轉置シテ桿ノ水平ヲ檢スヘシ

○第二章 度量衡檢査規則及附隨諸規則

●度量衡取締條例並檢査規則種類表

明治八年八月 太政官達第百三十五号

使 府 縣

〔度量衡取締條例及ヒ種類表ハ廢止又ハ改正セラレ掲載スルノ必要ナキヲ以テ省キ單リ檢査規則ノミヲ掲ク〕

度量衡檢査規則

尺度檢査

尺度ノ檢査ハ舊器新器其^{コソニス}淨發ヲ以テ之ヲ檢査スヘシ其法淨發ヲ以テ檢査スル所ノ尺度ヲ挾ミ其挾ム所ノ長サヲ檢査スル所ノ尺度ノ長サトシ之ヲ曲尺及ヒ鯨尺ノ原器ニ當テ、試驗スルニ其挾ム所ノ長サ曲尺ノ原器ニ適合スル者ハ檢査スル所ノ尺度之ヲ曲尺ト定メ其挾ム所ノ長サ鯨尺ノ原器ニ適合スル者ハ之ヲ鯨尺ト定メ乃チ其器ヲ正當トシ以テ各々檢印ヲ捺押シ且尺名印^{曲尺ハ曲字ノ印 鯨尺ハ鯨字ノ印}ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其挾ム所ノ長サ曲尺及ヒ鯨尺ノ原器ニ適合セス長短差等ヲ生スル者ハ檢査スル所ノ尺度之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

舊器斗量檢査

舊器斗量ノ檢査ハ斗量ノ原器ト漏斗トナ用ヒ春キ精ケタル粟粒ヲ以テ之ヲ檢査ス

へシ其法検査スル所ノ器（原器）一斗料ナレハ左圖ノ如ク先ツ一斗料ノ原器ヲ採リ漏斗ノ前位ニ於テ之ヲ盆上ニ据へ櫛ノ中心ト漏斗口トヲシテ上下相向ハシメ受斗ヲ以テ料ノ正上ニ据へ兼テ漏斗口ノ蓋ヲ鎖シ粟粒ヲ漏斗ニ入レ置クへシ尤モ其量ハ本量ニ凡ソ二割ヲ増シ凡一斗ニ升タルへシ（但五升ニハ六升一升ニハ一升ニ合）如此シテ漏斗ノ蓋ヲ開キ受斗ヲ以テ其漏下スル所ノ粟粒ヲ受ケ且其受クル所ノ粟粒ヲ原ノ底隙ヨリ櫛ニ漏移スへシ尤モ此際徐々ニ受斗ヲ轉廻シ粟粒ヲシテ櫛ノ中央並四隅ニ遍滿セシムルヲ要ス既ニ之ヲ漏移シ終レハ斗概ヲ以テ其溢粒ヲ搔キ去リ之ヲ原量ト定ムへシ尤モ此際斗概ノ使用ニ於ケル其量面ヲシテ毫モ凸凹ナク斗邊ト相水平ナラシムルヲ要ス（但盆上ニ散スル所ノ余粒ハ櫛ヲ擦シ盆ヲ覆シテ以テ之ヲ他器ニ移スべシ）次ニ檢器ノ容量ヲ求ムル亦原器ニ於テナル法ノ如クシテ檢器ノ容量ヲ得之ヲ檢量ト定ムへシ次ニ此原檢器其量ヲ互移換容センカ爲メ檢量ヲ他器ニ移シ置キ以テ原量ヲ檢器ニ移シ檢量ヲ原器ニ移スへシ其法都テ前法ノ如ク漏斗及受斗ヲ用テ之ヲ各器ニ漏移シ既ニ之ヲ漏移シ終レハ原檢器共斗概ヲ以テ徐々ニ其量面ノ凸凹ヲ平均スへシ此際斗概ノ使用ニ於ケル前後ノ手續キ輕重緩急極メテ不同ナキヲ要ス（相斗概ヲ用フルノ後粟粒斗内ニ充實シ量面斗邊ト相平クニシテ溢粒盆ニ散スル者アレハ之ヲ拾取シテ原檢器試驗ノ参照ニ充ツべシ）既ニ之ヲ平均シ終リ乃チ原檢器相並へテ之ヲ試驗スルニ其量各有餘不足ヲ生セサル者ハ檢査スル所ノ器之ヲ正當トシ以テ檢印ヲ捺押スへシ然ルニ若シ其量各有余

不足ヲ生スル者ハ檢査スル所ノ器之ヲ不正トシ以テ捺印スへカラス此余各種ノ舊器斗量其檢査法皆之ニ準ムへシ

但漏斗ノ製作左ノ圖面寸法ノ如クスレハ漏斗口ト一斗櫛面ト距離凡ソ三寸許ナルへシ故ニ余種モ此距離ニ準セシメンカ爲メ五升料ヨリ以下ハ其高サニ隨ヒ適宜ニ之ガ臺ヲ設クへシ

（舊器斗量檢査器械並檢査法ノ圖之ヲ略ス）

右漏斗並漏斗架ハ第一第二圖ノ如ク各管應ニ於テ製作ノ上備へ置クへシ

新器斗量檢査

新器斗量檢査ハ斗量尺度ヲ以テ之ヲ檢査スへシ其法斗量尺度ヲ檢査スル所ノ斗量ノ方深及弦鐵ノ幅厚ニ當テ、精密ニ之ヲ檢査スルニ其方深及弦鐵ノ幅厚斗量尺度ニ適合スル者ハ之ヲ正當トシ以テ檢印ヲ捺押スへシ然ルニ若シ其方深及弦鐵ノ幅厚斗量尺度ニ適合セス長短差等ヲ生スル者ハ之ヲ不正トシ以テ捺印スへカラス

新器斗概檢査

新器斗概ノ檢査ハ斗概ノ原器ヲ以テ之ヲ檢査スへシ其法斗概ノ原器ヲ以テ檢査スル所ノ斗概ノ圓徑及長サニ當テ、之ヲ試驗スルニ其寸法原器ニ適合スル者ハ之ヲ正當トシ以テ檢印ヲ捺押スへシ然ルニ若シ其寸法原器ニ適合セス長短差等ヲ生スル

者ハ之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

桿秤検査

桿秤ノ検査ハ舊器新器共先其直點ノ正否ヲ検査スヘシ其法錘緒ヲ以テ其直點ニ當テ、錘ヲ垂レ上緒ヲ執テ衡ヲ釣リ之ヲ試験スルニ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ其直點ヲ正當トスヘシ次ニ其大小諸量點ノ正否ヲ検査スルニ各種ノ分銅自一厘至七厘ノ原器ヲ以テスヘシ其法検査スル所ノ器五百匁掛銚皿秤ナレハ先ツ其最小量一匁ノ分銅即原器ヲ以テ之ニ掛ケ錘緒ヲ以テ其量點ニ當テ、錘ヲ垂レ上緒ヲ執テ衡ヲ釣リ之ヲ試験スルニ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ其量點ヲ正當トスヘシ次ニ二匁ノ分銅其次五匁ノ分銅其次十匁ノ分銅其次二十匁ノ分銅ト次々逐テ各種ノ分銅ヲ掛ケ前法ノ如クシテ各之ヲ試験スヘシ如此上緒ニテ衡ヲ釣リ既ニ各種ノ分銅ヲ掛ケ終レハ更ニ前緒并元緒ニテ衡ヲ釣リ都テ上緒ニ於ケル法ノ如クシテ各種ノ分銅ヲ掛ケ之ヲ試験スヘシ上緒前緒元緒共ニ之ヲ掛ケテ試験スルニ直點及ヒ何レノ量點ニ於テモ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ直點及各量點ヲ正當トシ乃チ其器ヲ正當トシ以テ捺印ヲ押捺スヘシ然ルニ若上緒前緒元緒ノ中其釣ル所ノ衡水平ナラス左右偏重ノ生スル者アルトキハ其直點又ハ其量點ヲ不正トシ乃チ其器ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス此餘各種ノ桿秤其検査法皆之ニ準スヘシ

但桿秤種類掛量二貫匁ニ過ル者ハ三十二貫匁掛二十六貫匁掛十六貫匁掛十一貫匁掛六貫匁掛三貫匁五百匁掛ノ六種ナリ然ルニ分銅ノ原器其量二貫匁ニ止マレハ大小ノ量點其半ハチ試験スルニ足ラス故ニ此六種ノ秤ニハ掛出ノ量點ヨリ二貫匁ノ量點迄試験既ニ終レハ二貫匁ヨリ數十貫匁ニ至ル其間ノ量點ハ試験之ヲ略スヘシト雖モ上緒並ニ元緒ノ極點上緒並元緒最重ノ量點假令ハ三十二貫匁掛秤ハチ試験スル爲メ分銅原器ニ準シテ兼テ四貫匁ノ分銅八箇ヲ製シ之ヲ假原器トシ然シテ或ハ原器種類ヲ相併セ或ハ假原器數箇ヲ相併セ或ハ原器種類ト假原器數箇ト相併セ各秤ニ掛ケテ上緒並元緒ノ極點ヲ試験スルコト假令ハ三十二貫匁掛秤ニハ假原器四箇相併セ掛ケテ上緒ノ極點ヲ試験シ假原器八箇相併セ掛ケテ元緒ノ極點ヲ試験シ六百匁掛秤ニハ二貫匁ノ原器一箇一貫匁ノ原器一個相併セ掛ケテ上緒ノ極點ヲ試験シ假原器一箇二貫匁ノ原器一箇相併セ掛ケテ元緒ノ極點ヲ試験シ都テ其極點ノ量ノ如ク原器假原器ヲ合併交加シテ之ヲ掛ケ本文ニ示ス法ノ如クシテ之ヲ試験シ以テ其器ノ正否ヲ判スヘシ

右四貫匁ノ分銅假原器ハ銅或ハ鉛ヲ以テ之ヲ製スヘシ然シテ其形狀ノ如キハ隨意タリト雖トモ其量製作法ハ先ツ二貫匁ノ分銅原器二個相併セ合量四貫匁トシ銅或ハ鉛凡四貫匁量ノ者ヲ以テ之ニ對シ天秤ヲ以テ之ヲ量ルコト其法次分銅檢

查ノ條ニ說所ノ如クタルヘシ然シテ銅或ハ鉛其量輕重アル者ハ之ヲ増減シテ二貫匁ノ原器二個ト等量ナラシメ以テ之ヲ四貫匁ノ原器ト定ムヘシ但分銅ヲ掛クルニ緒紐ノ類ヲ以テ之ヲ掛ンニハ其緒紐ノ類ハ所謂風袋ニテ全ク量外ナルカ故ニ別ニ之ヲ量テ量數ト分クヘシ

天秤検査

天秤ノ検査ハ舊器新器共分銅ノ原器ヲ以テ之ヲ検査スヘシ其法板數又ハ机等平坦ノ地位ヲ擇ミテ検査スル所ノ天秤ヲ据ヘ象眼儀ノ類ヲ以テ其天秤臺ニ當テ、之カ高低ヲ檢シ若シ高低アルトキハ片板ヲ假リ之ヲ矯メテ水平ナラシメ然シテ分銅ノ原器ヲ其左右ノ皿ニ掛クルハ左ニ百匁ノ分銅一個ヲ掛ケ右ニ五拾匁ノ分銅一個二十匁ノ分銅二個十匁ノ分銅一個ヲ掛ケ左右等量ナラシメ左右ノ皿ニ掛ル分銅ノ重トモ天秤ノ大小ト分銅種類組合ニ便宜トニ隨テ適宜ニ増減スヘシ然シテ其針口ノ感搖ヲ鏡シセシカ爲メニ扣棒ヲ以テ微々ニ其針口ノ感搖ヲ鏡シセシカ爲メニ扣棒ヲ以テ精密ニ之ヲ試驗スルニ其針口上下正直ニ相接シ其衡水平ニシテ左右偏重ナキ者ハ其器ヲ正當トシ以テ捺印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其針口上下直接セシ其衡水平ナラスシテ左右偏重ヲ生スル者ハ其器ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

分銅検査

分銅ノ検査ハ舊器新器共分銅ノ原器ト天秤ノ原器トヲ以テ之ヲ検査スヘシ其法板數又ハ机等平坦ノ地位ヲ擇ミテ検査スル所ノ天秤ヲ据ヘ象眼儀ノ類ヲ以テ其天秤臺ニ當テ、之カ高低ヲ檢シ若シ高低アルトキハ片板ヲ假リ之ヲ矯メテ水平ナラシメ然シテ検査スル所ノ分銅ヲ其左皿ニ掛ケ之ト同量ナル分銅ノ原器ヲ其右皿ニ掛ケ然シテ其針口ノ感搖ヲ鏡シセシカ爲メニ扣棒ヲ以テ微々ニ其衡銅箱ノ柱ニ掛ケテ天秤ヲ釣ルモノノ甲所ヲ連扣スヘシ連扣シ終リ眼ヲ注テ精密ニ之ヲ試驗スルニ其針口上下正直ニ相接シ其衡水平ニシテ左右偏重ナキトキハ分銅之ヲ正當トシ以テ捺印スヘカラストキハ其検査スル所ノ分銅之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス

附則

權衡ノ各取リ緒ニ就テ盛出シニ錘ヲ懸ケテ桿ノ水平ヲ得タルトキ其取リ緒ニ就テ一度目ニ相當スル分銅ヲ皿又ハ鈎ニ加フルトキ感動ヲ起スモノヲ合格トシ感動セサルモノハ之ヲ不合格トスヘシ

度量衡改定規則

明治九年二月 布告第十七號

度量衡三器別紙種類表ノ通改定候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事

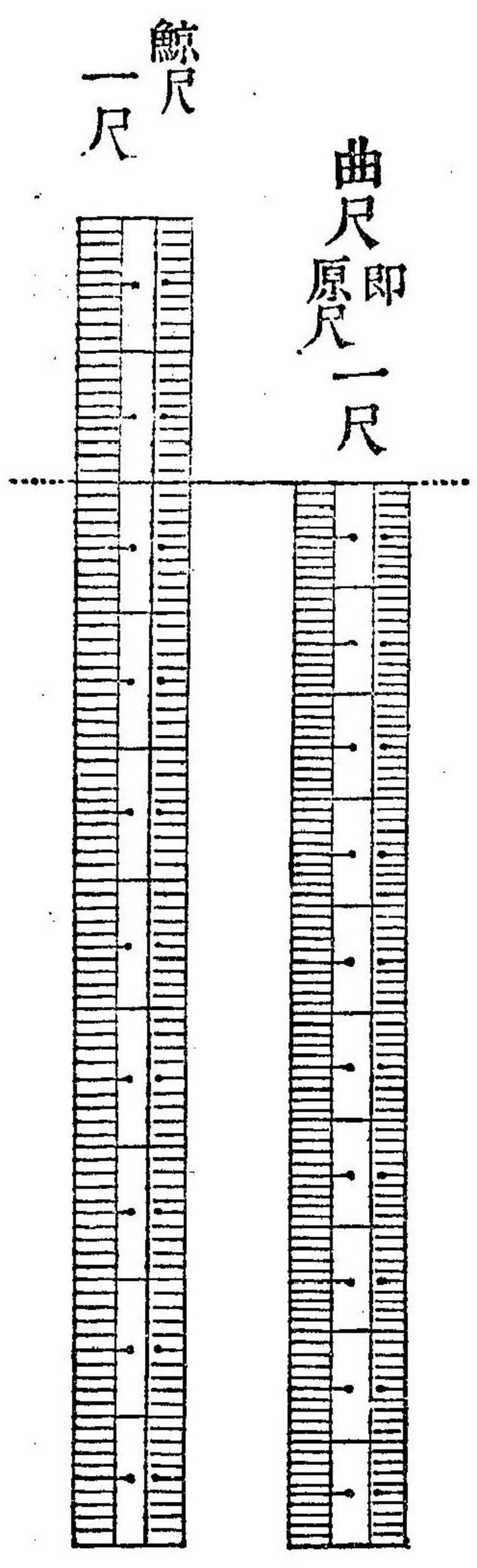
明治廿四年七月
商務省令第七号ヲ
以テ附則ヲ追加セ
ラル

度量衡改定規則

- 第一條 三器改定ニ付キ各地方ニ三器製作所並ニ賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ秤座秤座ハ同日ヨリ廢止候事
- 第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ケ條例從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月二十五日マテニ右改所へ差出檢査ヲ請クヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルコトヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察スヘキ事
但シ改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ
- 第三條 製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事
但シ尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ目盛致シ枴ハ芋鳥芋等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラズ
- 第四條 尺度秤量ノ目ヲ盛直シ枴ノ緣鐵弦鐵ヲ打替ヘ斗概ヲ修復スル等ハ必ス製作所へ差出スヘシ秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致候儀不相成事
- 第五條 舊新器共檢印アルヲ賣捌度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事

但シ秤ノ錘皿又ハ枴ノ緣鐵弦鐵等ヲ取離シ古鐵トシテ賣買スルハ苦シカラズ
第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上律ニ照シテ處斷スヘキ事
度斗衡種類表
尺度種類表

尺斗圖 本尺二分(本尺二分ノ縮圖トアルハ原書ノ儘ヲ記ス)之縮圖(但本圖ハ原書ヨリ猶縮少セシモノナリ)



右表面之通り尺度ハ曲尺ヲ以テ原尺ト定メ尤種類ハ右曲尺鯨尺ノ二種ニ限リ候事
 但製作器品ハ竹木鍔^{シヤ}銅^{チヤ}其外等各業ノ便利ニ就キ相製シ尤其寸尺或ハ三寸五寸
 或ハ一尺二尺各其寸法ヲ以テ相製シ候等之事
 附木匠曲尺ノ裏目ハ曲尺一尺ノ方斜ニテ一尺四寸一分四厘ニ毛餘ヲ一ト相立テ
 勾倍等定候ニ使用致候儀ニ付其規矩ヲ以テ目盛致候等之事

尺度比較

曲尺ヲ鯨尺ニ較ス

曲尺一尺

鯨尺八寸

鯨尺ヲ曲尺ニ較ス

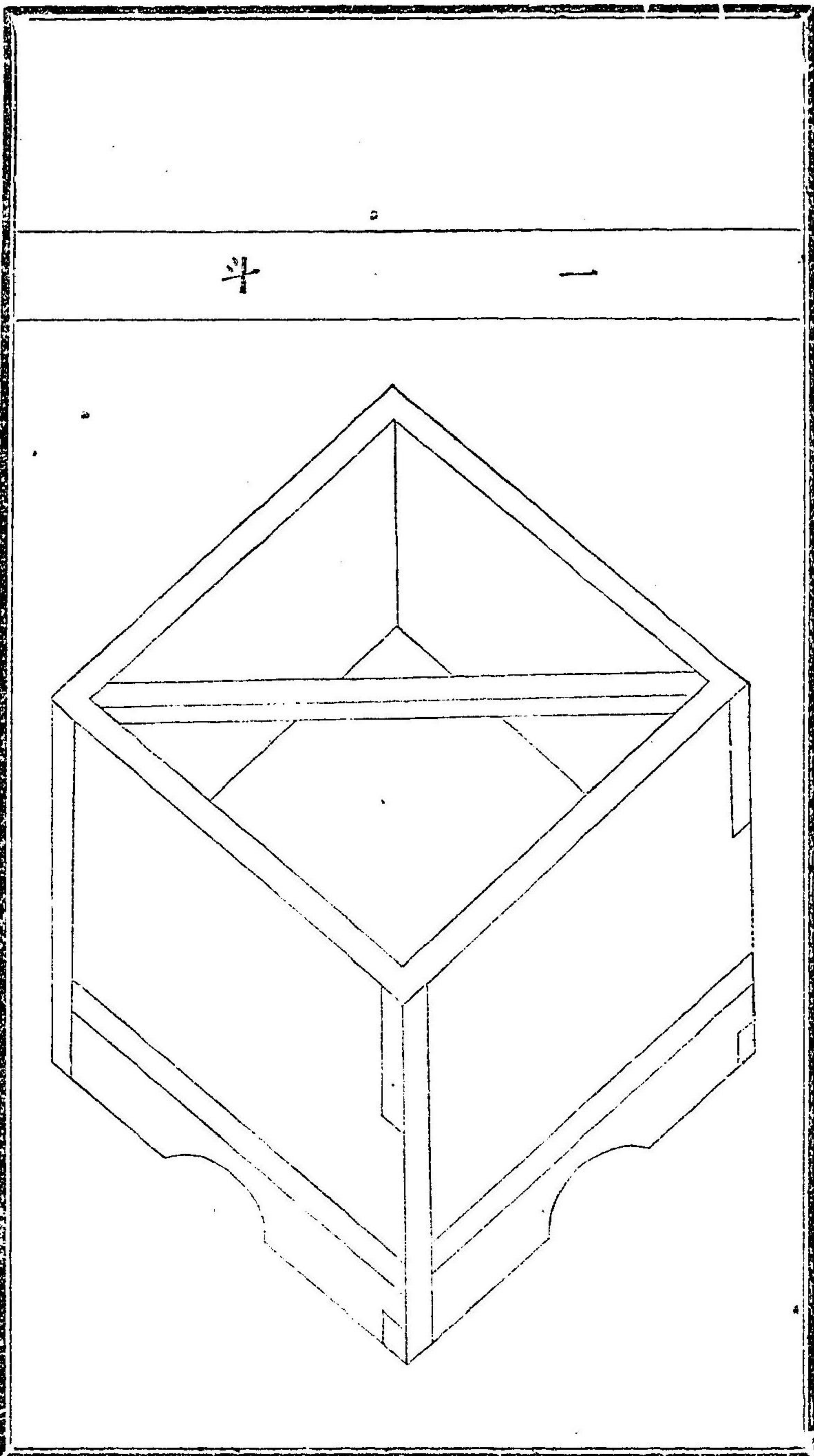
鯨尺一尺

曲尺一尺二寸五分

斗量種類表

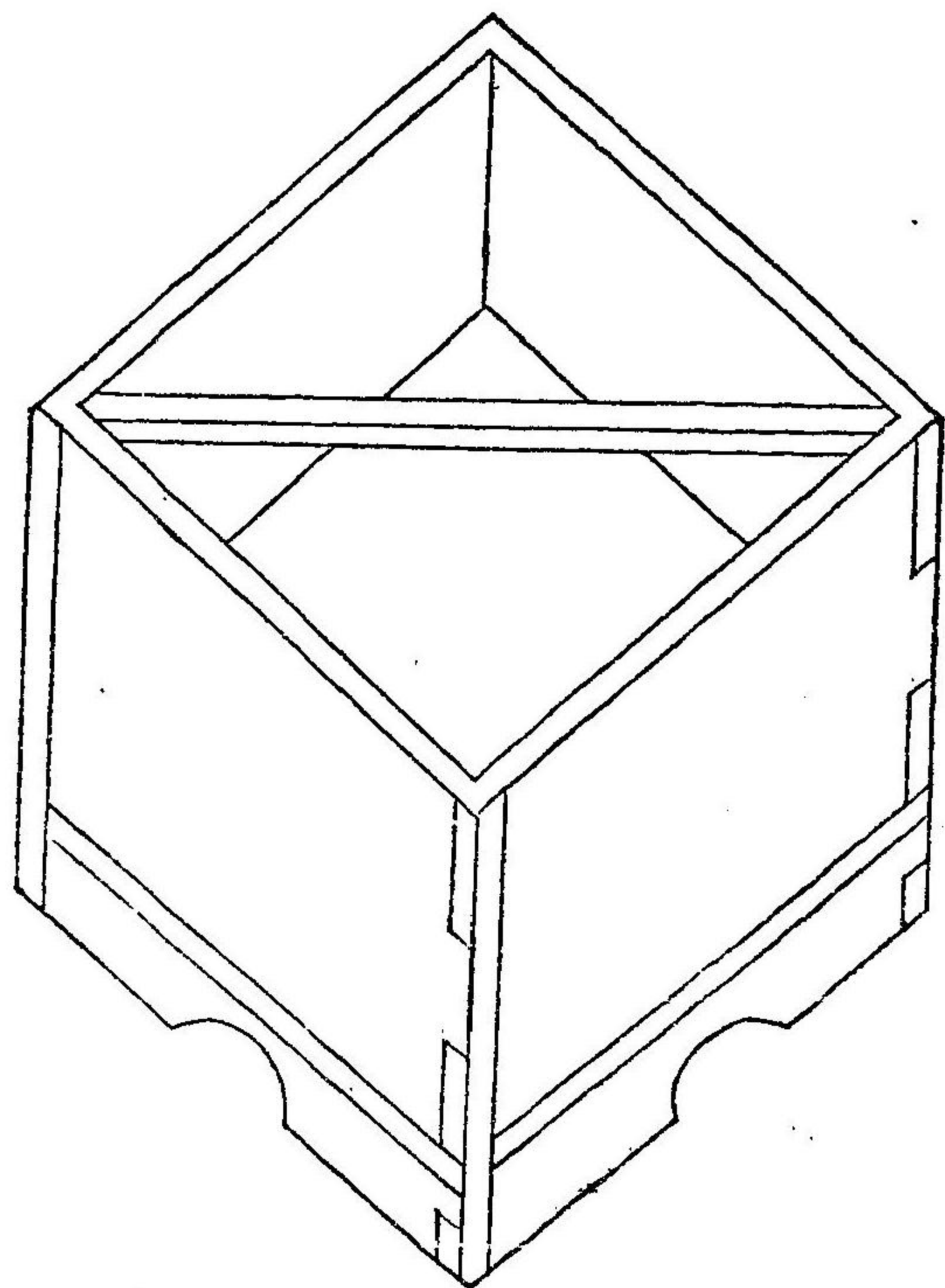
器器器量圖

(本尺四分本尺四分一之縮圖トアルハ原書ノ儘ヲ記)
 一之縮圖ス但本圖ハ原書ヨリ猶縮少セシモノナリ)



升

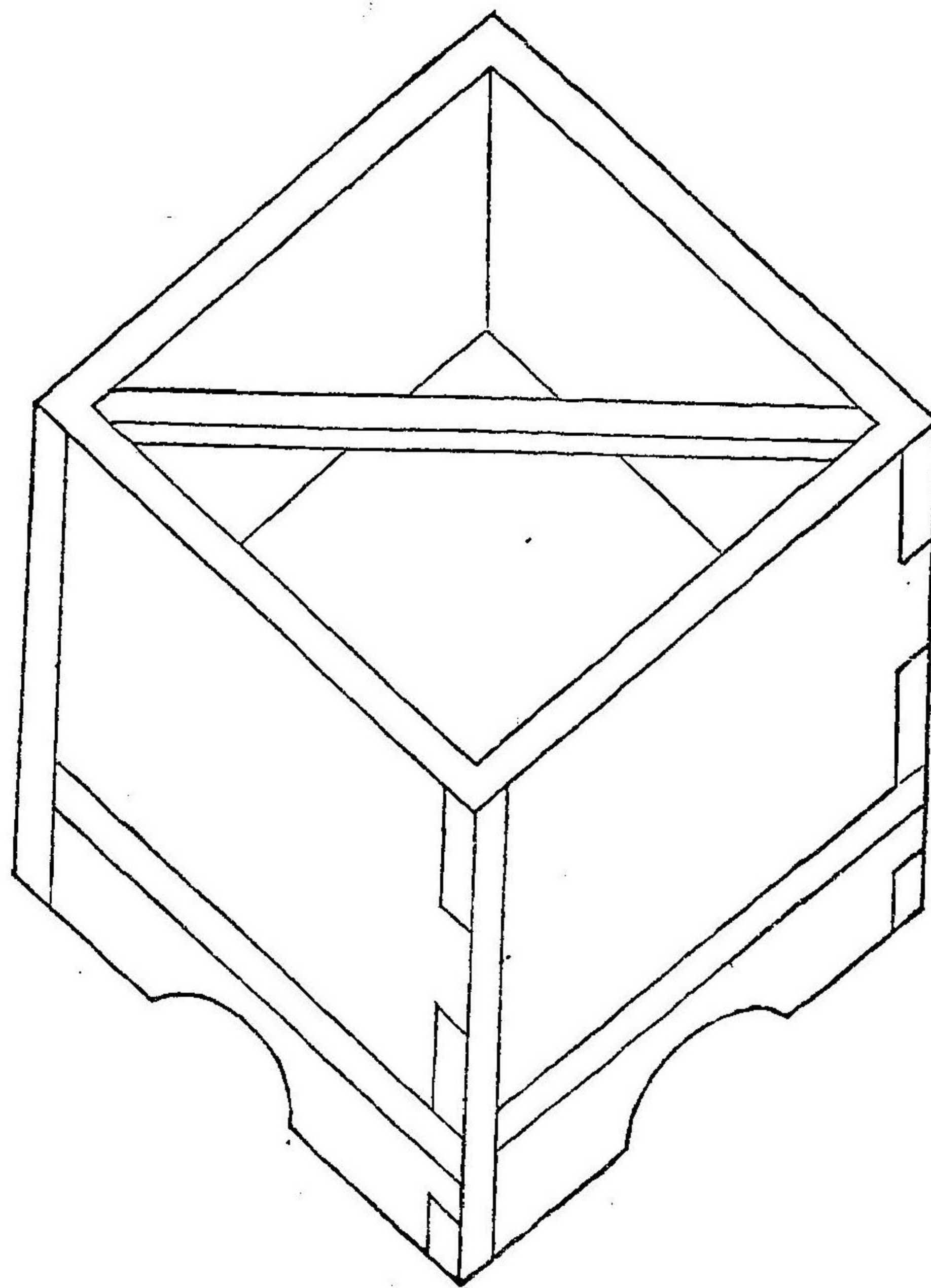
五



八五

斗

七



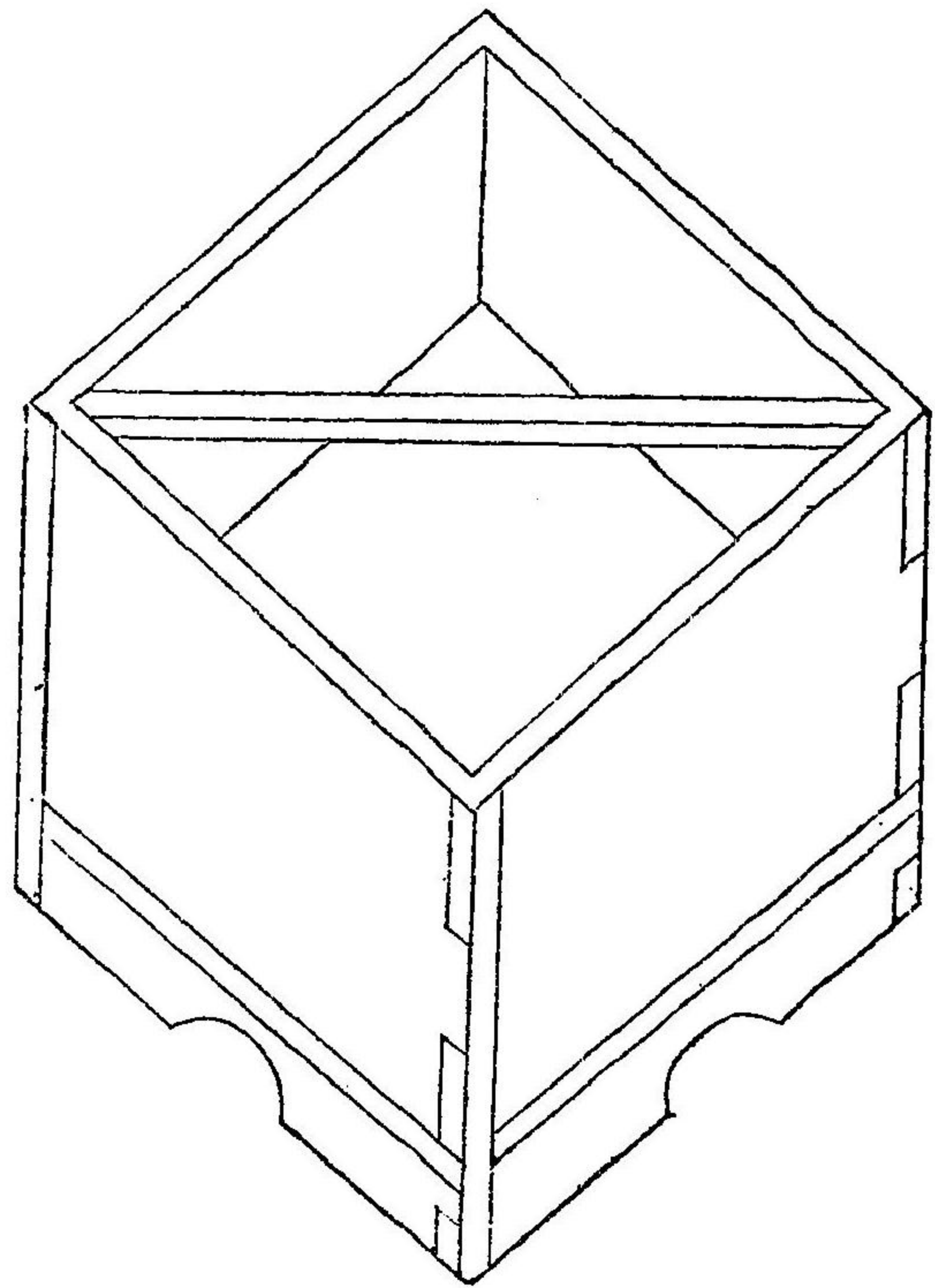
八四

<p>新器穀量圖</p> <p>本尺四分(本尺四分之一之縮圖トアルハ原書ノ儘ヲ記一之縮圖)ス但本圖ハ猶原書ヨリ縮少セシモノナリ</p>	五 二 勺 合	升 一
	合 一	合 五

<p>同水量圖</p> <p>本尺四分之一之縮圖(本尺四分之一之縮圖トアルハ原書ノ儘ヲ記)ス但本圖ハ猶原書ヨリ縮少セシモノナリ</p>	五 二 勺 合	升 一
	合 一	合 五

升

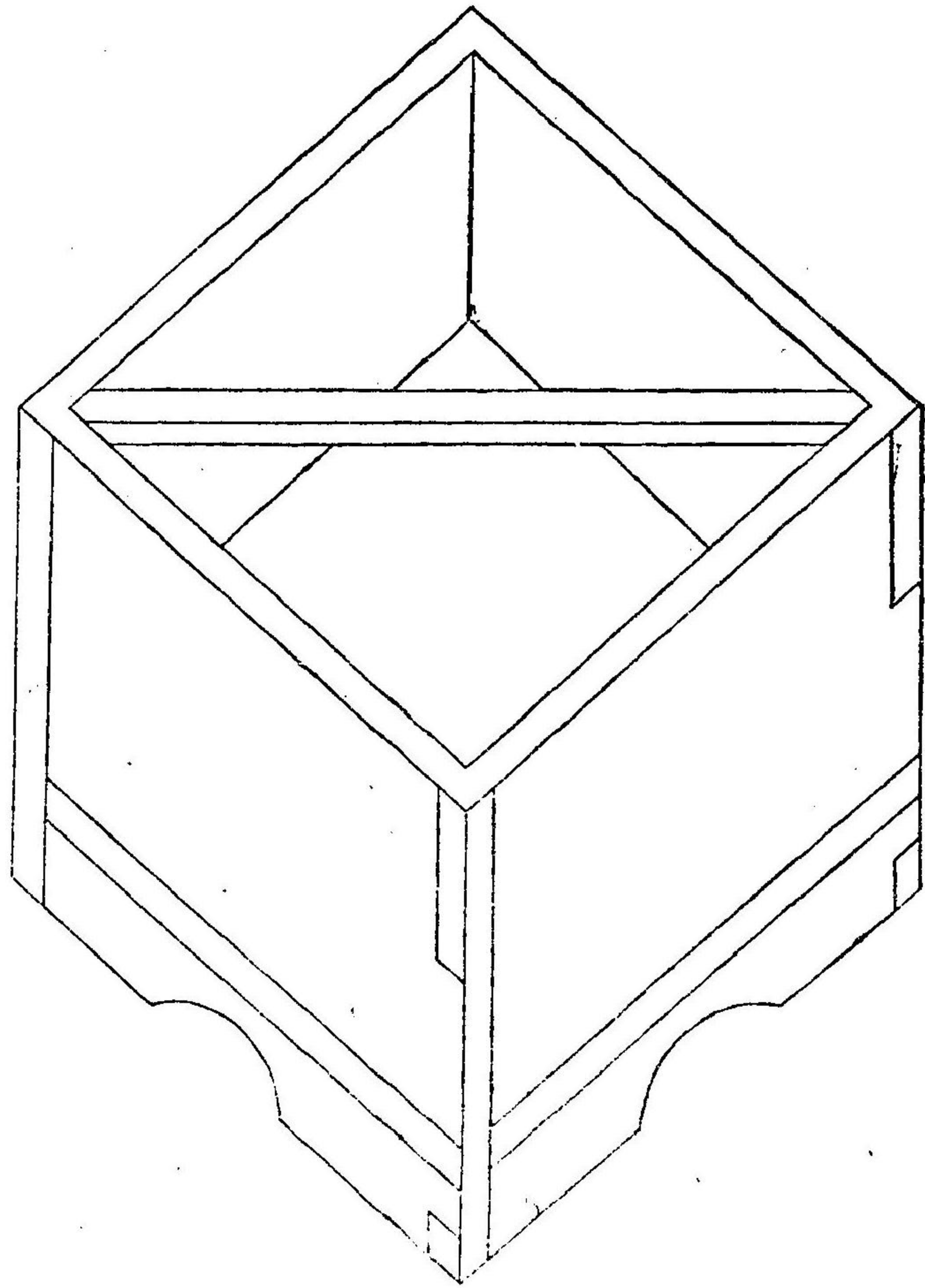
五



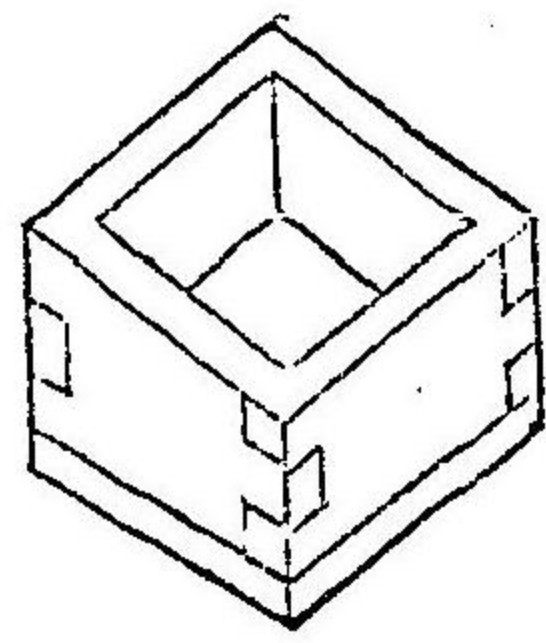
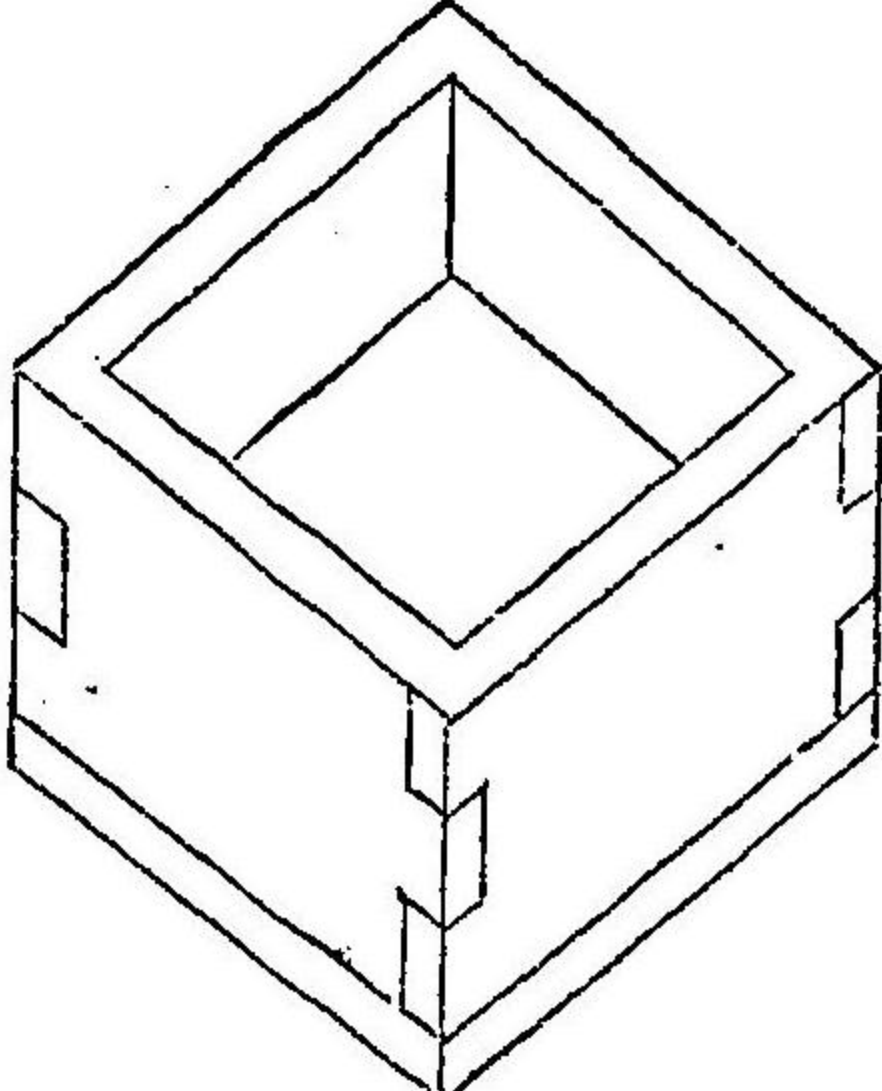
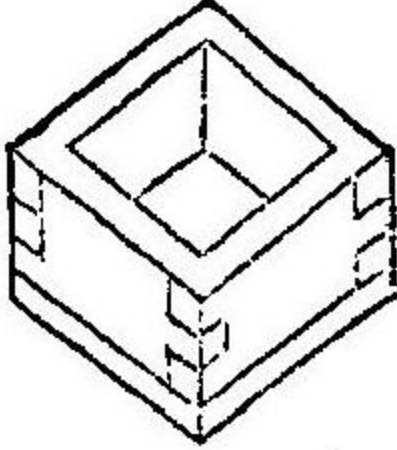
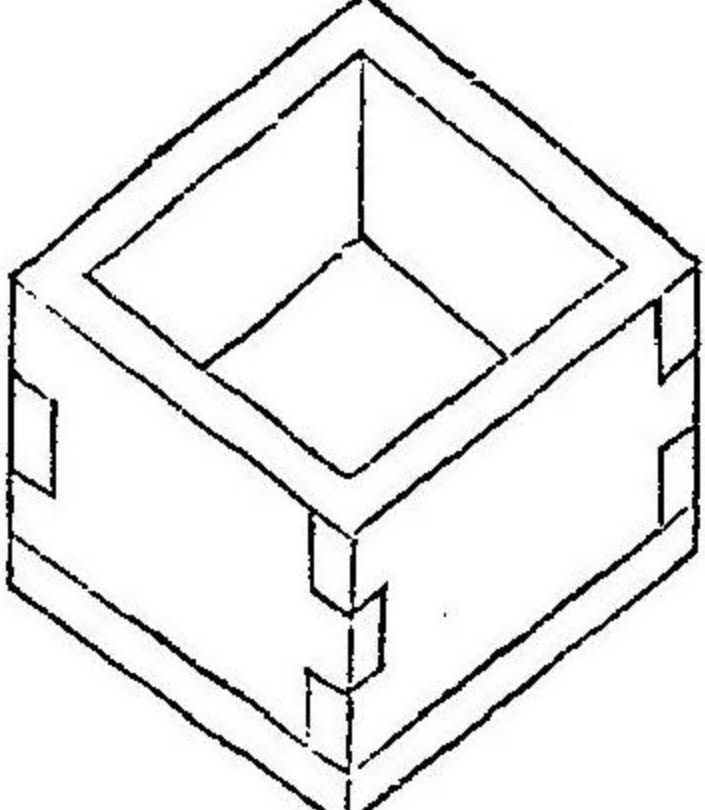
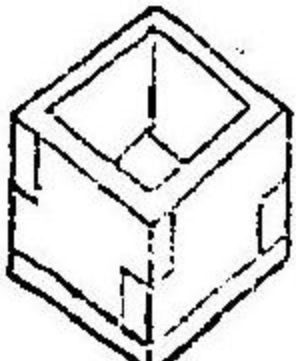
八九

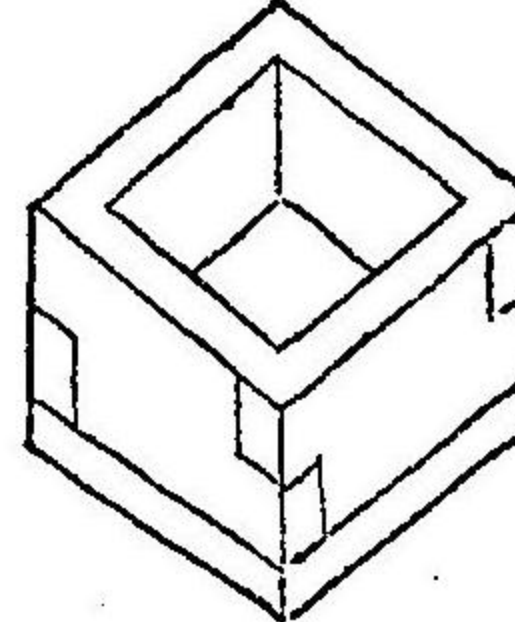
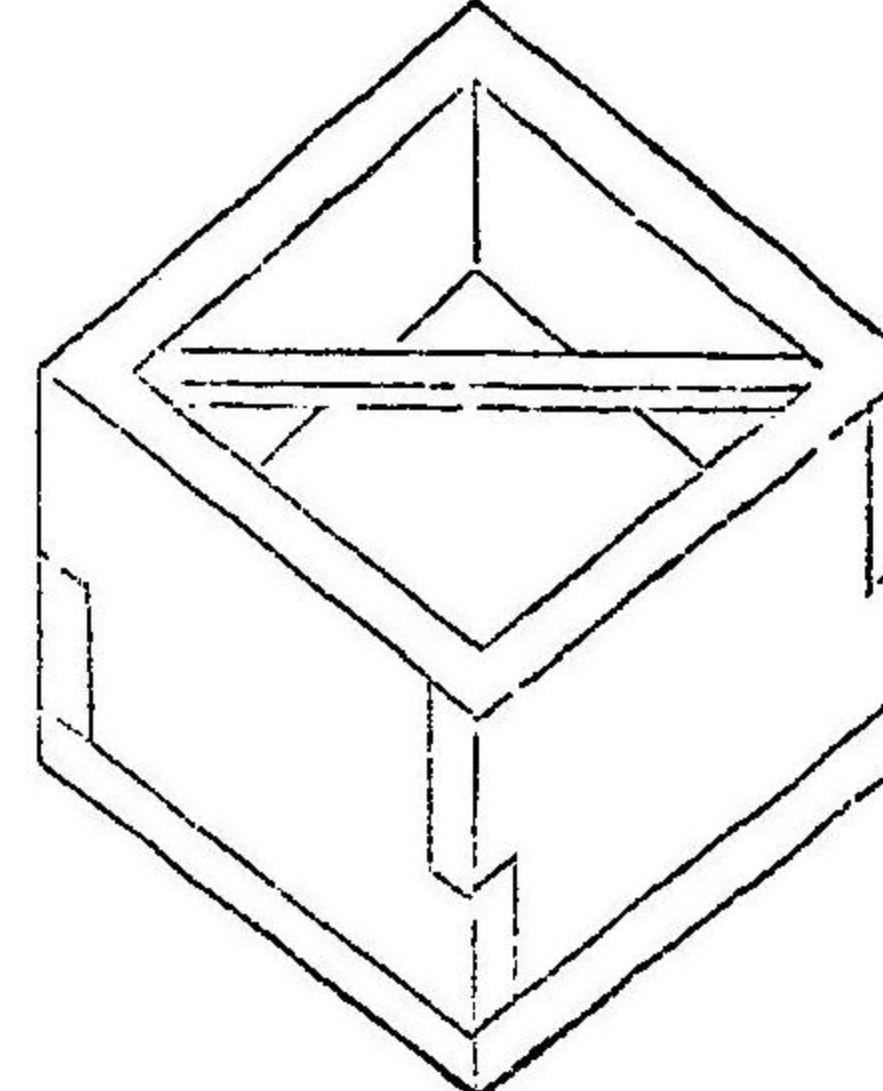
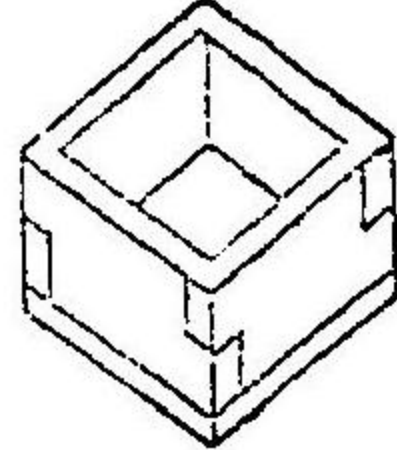
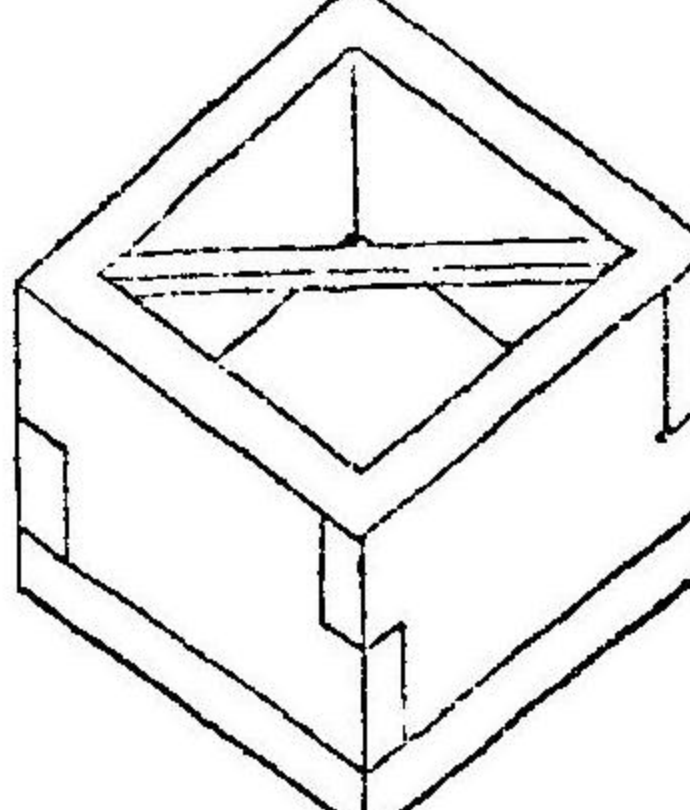
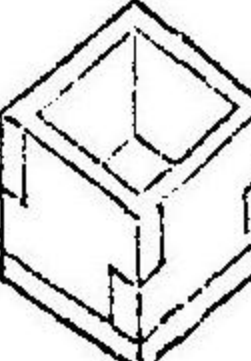
斗

一



八八

五 勺	二 合	升	一
			
合	一		
		合	五
勺	五		
			

五 勺	二 合	升	一
			
合	一		
		合	五
勺	五		
			

同水量圖 本尺四分一之縮圖
(本尺四分一之縮圖トアルハ原書ノ儘ヲ記ス但本圖ハ猶原書ヨリ縮少セシモノナリ)

舊器斗量寸積

穀量	寸法	積立方	弦	厚	弦積立方	引現積	木厚	製作品
一斗	方一尺〇五分	六十五萬五千	上下共 厚五分	二七	三千三百〇八	六十四萬八千二	六分	木厚 製作品
一斗	深五寸九分一厘	百七十七個餘	厚四分一厘二	七	百六十九個餘	六十九個餘	六分	木厚 製作品
七升	方九寸四分七厘	四十五萬六千	上下共 厚四分	八	二千二百三十	四十五萬三千七	五分三厘	同
七升	深五寸〇八厘五	二十七個餘	厚三分七厘八	八	九個餘	百八十七個餘	五分	同
五升	方八寸三分四厘	三十二萬六千	上下共 厚四分五厘	九	二千〇八十一	三十二萬四千百	五分	同
五升	深四寸六分九厘	二百十五個餘	厚三分九厘八	八	個餘	三十四個餘	五分	同
一升	方四寸九分	六萬五千〇六	上下共 厚一分八厘五	五	二百四十個餘	六萬四千八百二	三分五厘	同
一升	深二寸七分一厘	十七個餘	厚一分九厘五	五	十七個	十七個	三分五厘	同
五合	方三寸九分五厘	三萬二千六百	上下共 厚一分八厘	八	百九十五個餘	三萬二千四百十	三分五厘	同
五合	深二寸〇九厘	〇九個餘	厚一分九厘八	八	三個餘	三個餘	三分五厘	同
二合五勺	方三寸〇五厘	一萬六千二百	無弦				三分五厘	木品 半綠鐵
二合五勺	深一寸七分四厘	〇四個餘					三分五厘	同
一合	方二寸一分	六千四百八十	同				三分五厘	同
一合	深一寸四分七厘	二個餘					三分五厘	同

新器斗量寸積

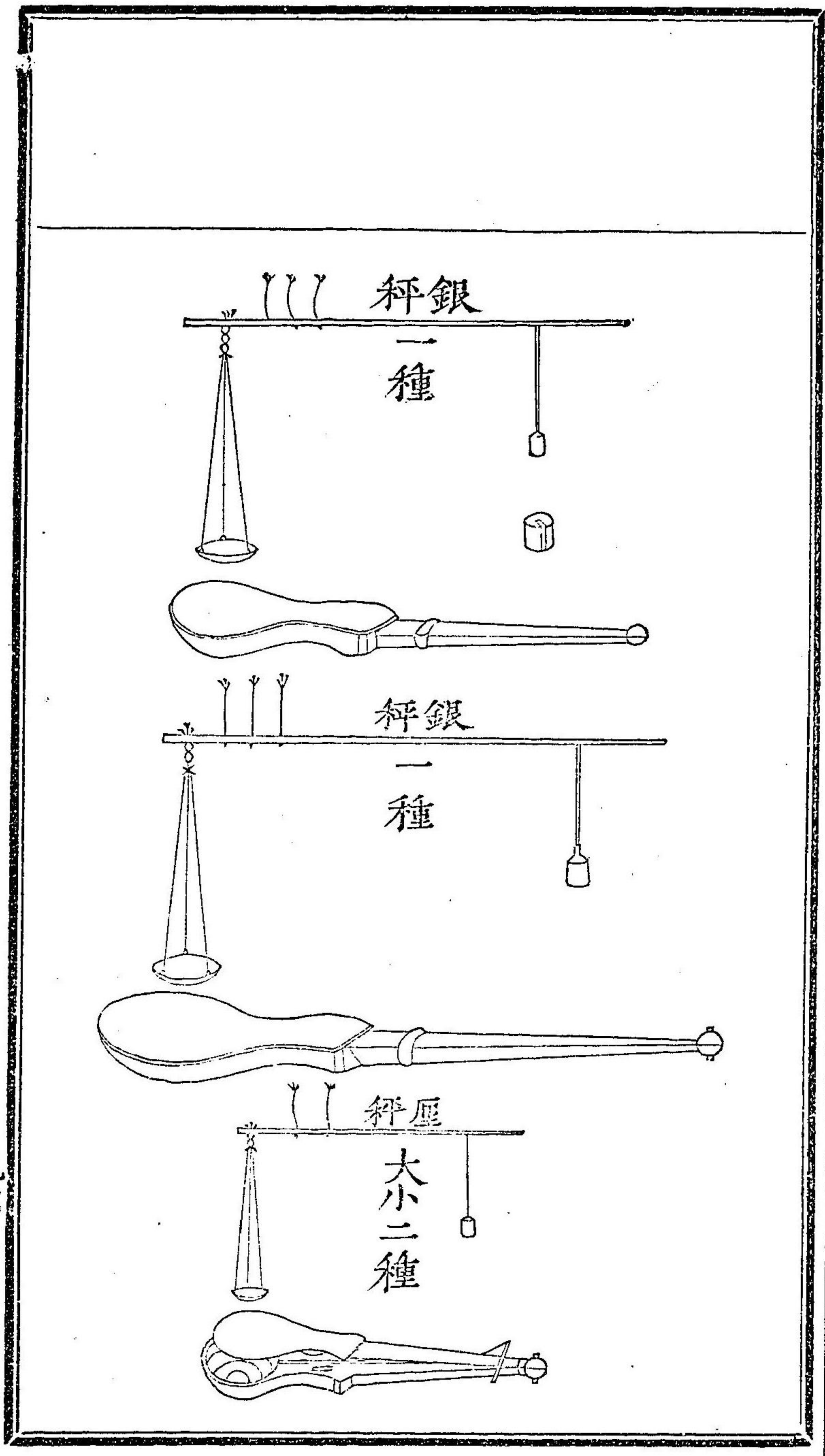
穀量	寸法	積立方	弦	厚	弦積立方	引現積	木厚	製作品
一斗	方一尺〇五分	六十五萬五千	幅五分五厘		三千三百〇八	六十四萬八千二	六分	木厚 製作品
一斗	深五寸九分一厘	百七十七個餘	厚四分一厘二		百六十九個餘	百六十九個餘	六分	木厚 製作品
五升	方八寸三分四厘	三十二萬六千	幅四分五厘		二千〇八十一	三十二萬四千百	五分	同
五升	深四寸六分九厘	二百十五個餘	厚三分九厘八		三十四個餘	三十四個餘	五分	同
一升	方四寸九分	六萬五千〇六	幅一分八厘		二百四十個餘	六萬四千八百二	三分五厘	同
一升	深二寸七分一厘	十七個餘	厚一分九厘五		十七個	十七個	三分五厘	同

五合	方三寸九分五厘 深二寸〇九厘	三方二千六百 〇九個餘	幅一分八厘 厚一分九厘八	百九十五個餘	三方二千四百十 三個餘	三分五厘 同	木品 同
二合五与	方三寸〇五厘 深一寸七分四厘	一万六千二百 〇四個餘	無眩			三分五厘 斗縁鏡	木品 同
一合	方二寸一分 深一寸四分七厘	六千四百八十 二個餘	同			三分五厘 同	同
五与	方一寸六分 深一寸二分六厘	三千二百四十 個餘	同			二分 同	同
水	寸	法	積	立方	木	厚	製
一升	方四寸九分 深二寸七分	六万四千八百二十七個	四分	木	品	繪	同
五合	方三寸九分五厘 深二寸〇七厘七五	三万二千四百十四個餘	四分	同	同	同	同
二合五与	方三寸〇五厘 深一寸七分四厘	一万六千二百〇四個餘	四分	同	同	同	同
一合	方二寸四分七分	六千四百八十二個餘	四分	同	同	同	同

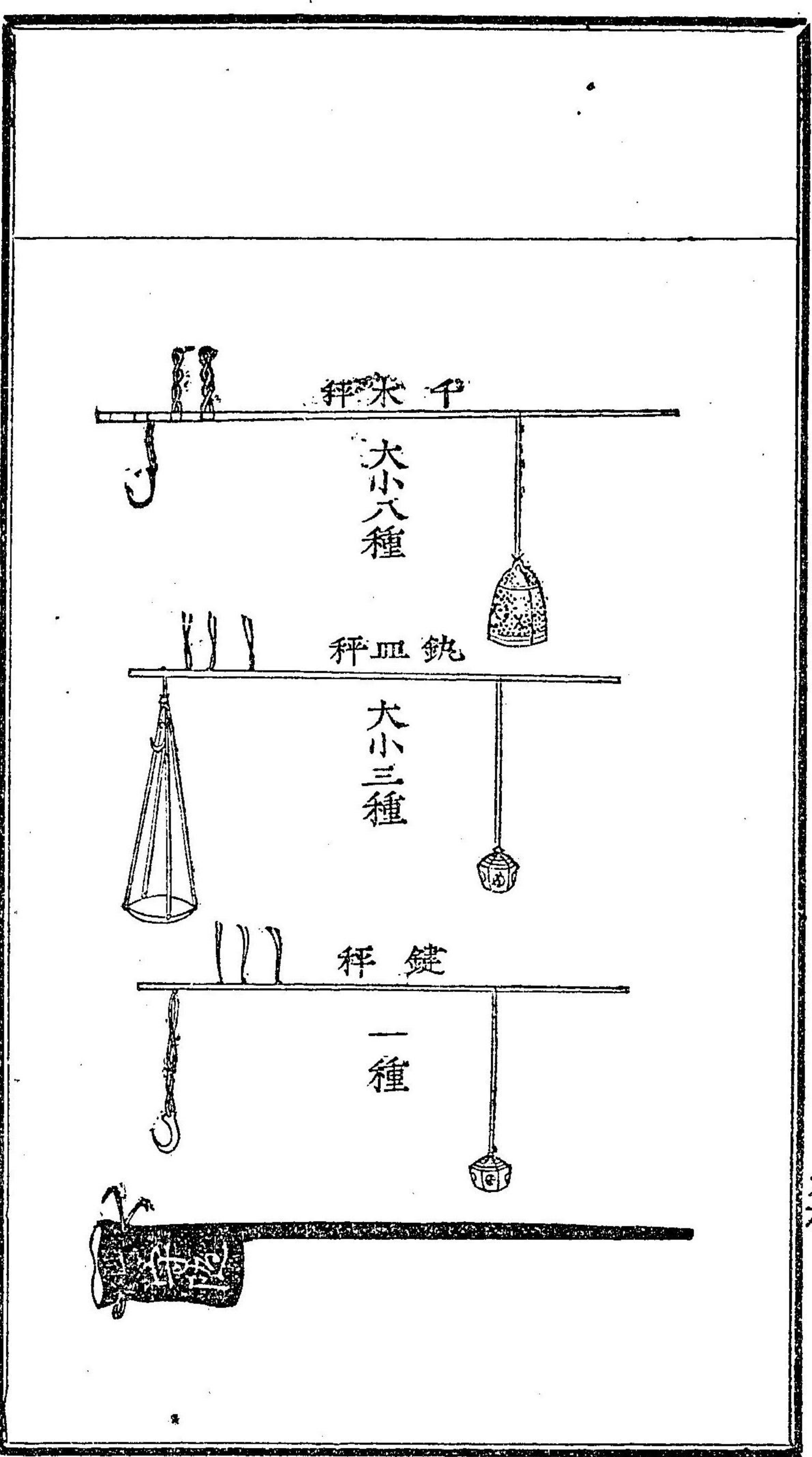
五与	方一寸六分 深一寸二分六厘六	三千二百四十個餘	二分	同
通計	舊器穀量七種 水盃四種 新器穀量七種 水盃五種			
新器斗概圖	本尺四分 一ノ縮圖	並寸法	<small>(本尺四分一ノ縮圖トアルハ原書ノ儘ヲ記ス) 但本圖ハ猶原書ヨリモ縮少セシモノナリ</small>	
種類	寸	法	製	作品
一斗兼用	圓徑二寸	木	品	繪
五升	長一尺三寸	以	網	包
一升兼用	圓徑一寸	同	同	同
五合兼用	長六寸四分	同	同	同
二合五与	圓徑五分	同	同	同
一合兼用	長三寸	同	同	同
五与	同	同	同	同

新器種類表

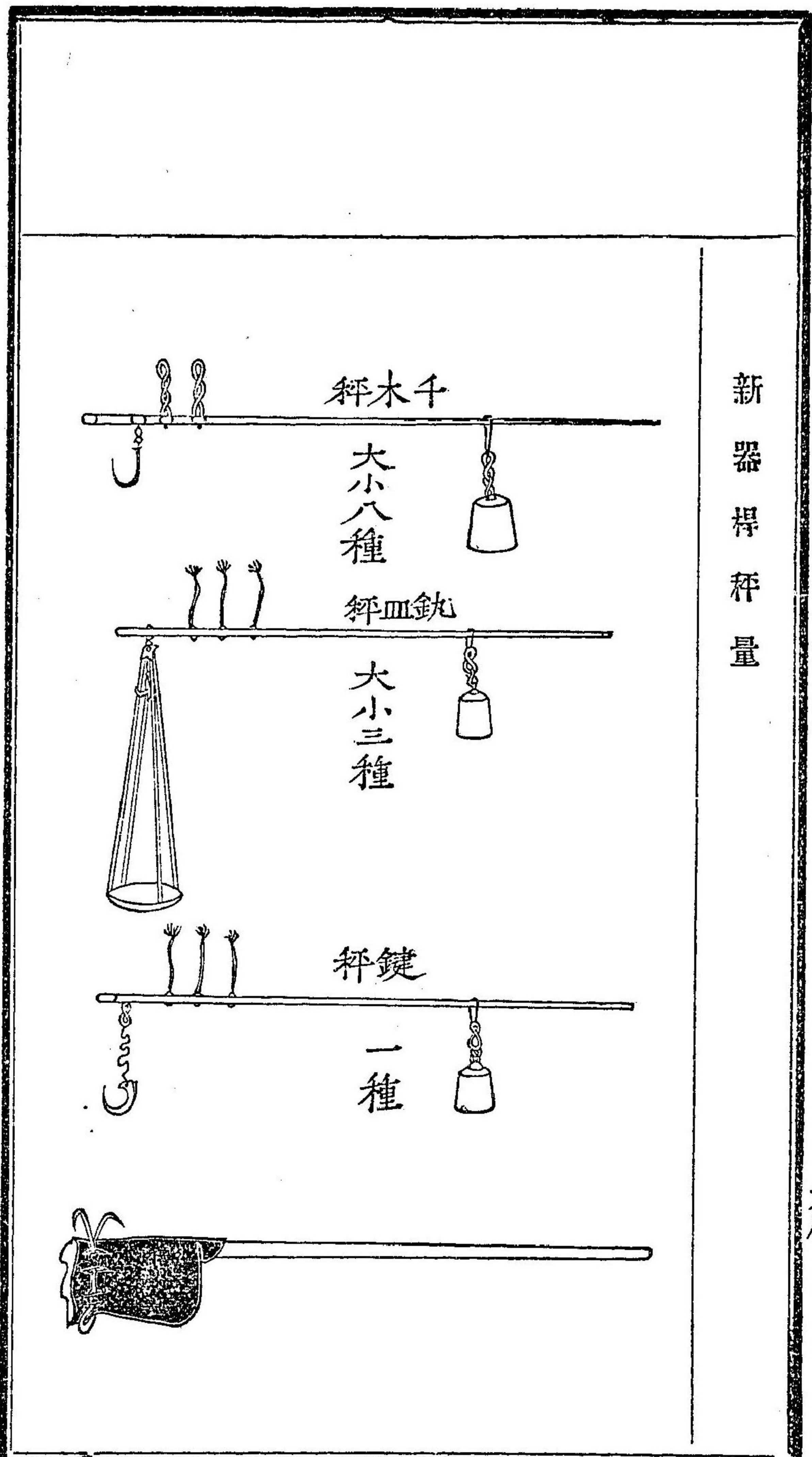
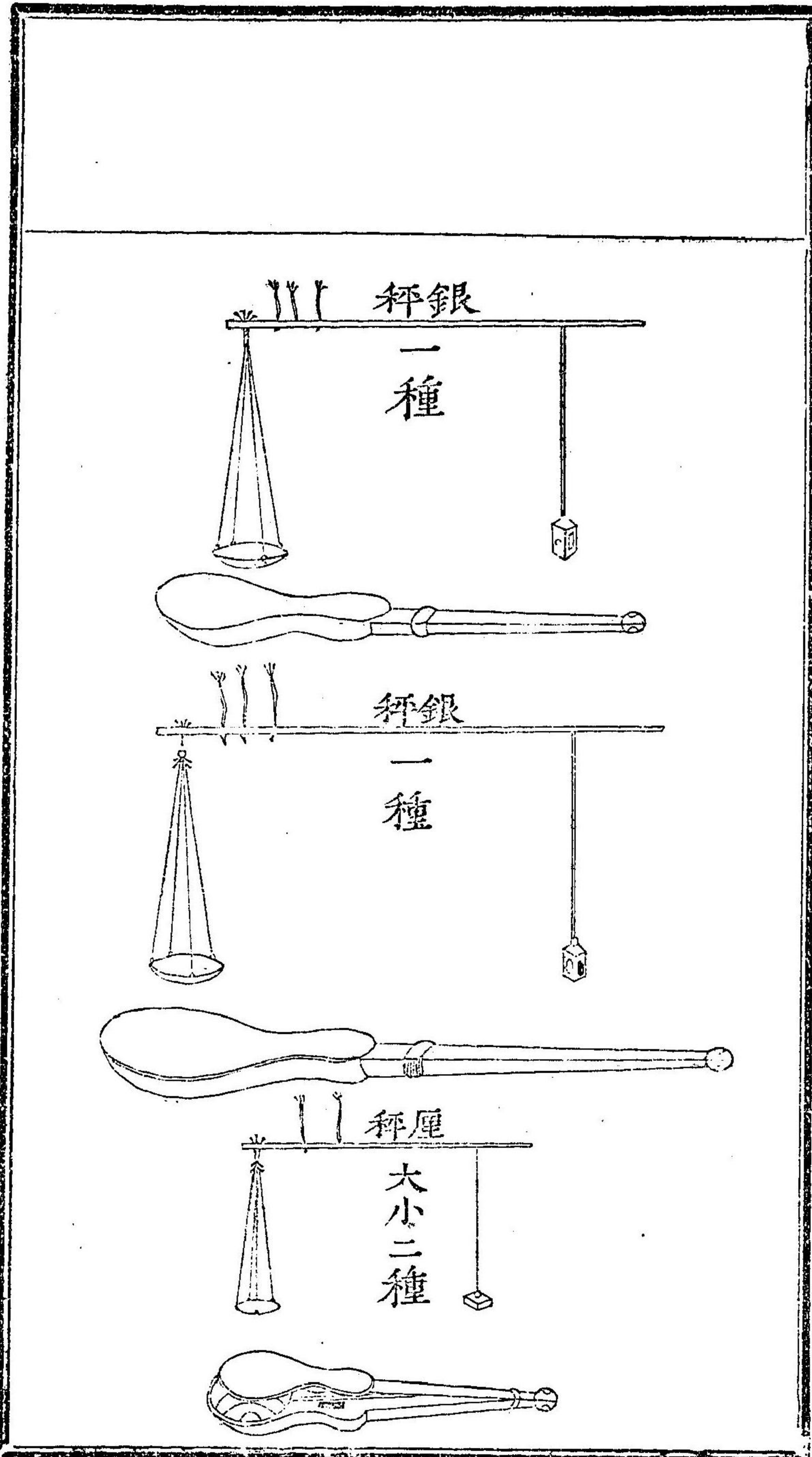
舊器桿秤圖



九七



九六



舊器秤圖

銚皿秤量	元上一貫二百	元上一貫二百	元上一貫二百	元上一貫二百	元上一貫二百	元上一貫二百	元上一貫二百	元上一貫二百	千木秤量
盛出	二直百	五直百	一直百	一直百	三直百	五直百	五直百	十直百	盛出
星點量	十二	二十	二十	百二十	百五十	二百	二百	二百	星點量
鍾量	百五十	百五十	三百	五百	七百	一貫	一貫五百	二貫	鍾量
衡長	二尺	二尺	二尺五寸	三尺	四尺	五尺五寸	六尺	六尺五寸	衡長
製作品	同	同	同	同	同	同	同	同	製作品

100

厘秤量	元前上五百六十	元前上五百六十	銀秤量	元前上一貫二百	元前上三百五十	元前上五百	元前上一貫二百
盛出	五十	五十	盛出	五百	百五十	百五十	五百
星點量	一一	一一	星點量	十五	十二	十二	十二
鍾量	十一	八	鍾量	六十	三十	六十	八十
衡長	一尺五分	七寸五分	衡長	一尺四寸	一尺二寸	一尺六寸	一尺八寸
製作品	鍾皿黃銅	鍾皿黃銅	製作品	鍾皿赤銅	製作品	製作品	鍾皿赤銅

舊器淨秤圖

鏡皿秤量	元上一貫二百	元上一貫二百	元上一貫二百	元上一貫二百	元上一貫二百	元上一貫二百	元上一貫二百	元上一貫二百	千木秤量
盛出	二直百	五直百	一直百	一直百	三直百	五直百	五直百	十直百	盛出
星點量	十二	二十	二十	百二十	百五十	二百	二百	二百	星點量
錘量	百五十	百五十	三百	五百	七百	一貫	一貫五百	二貫	錘量
衡長	二尺	二尺	二尺五寸	三尺	四尺	五尺五寸	六尺	六尺五寸	衡長
製作品	同	同	同	同	同	同	同	同	製作品

厘秤量	元前上五百七十	元前上五百七十	銀秤量	元前上一貫二百	錘秤量	元前上三百五十	元前上五百七十	元前上一貫二百
盛出	五十直十	五十直十	盛出	五百直百	盛出	百五十直十	百五十直十	五百直百
星點量	一一	一一	星點量	十五	星點量	十二	十二	十二
錘量	十一	八	錘量	六十	錘量	三十	六十	八十
衡長	一尺五分	七寸五分	衡長	一尺四寸	衡長	一尺二寸	一尺六寸	一尺八寸
製作品	錘血衡黃黑銅柿	錘血衡黃銅角	製作品	錘錫赤銅檉	製作品	同	同	錘血衡錫黃赤銅檉

101

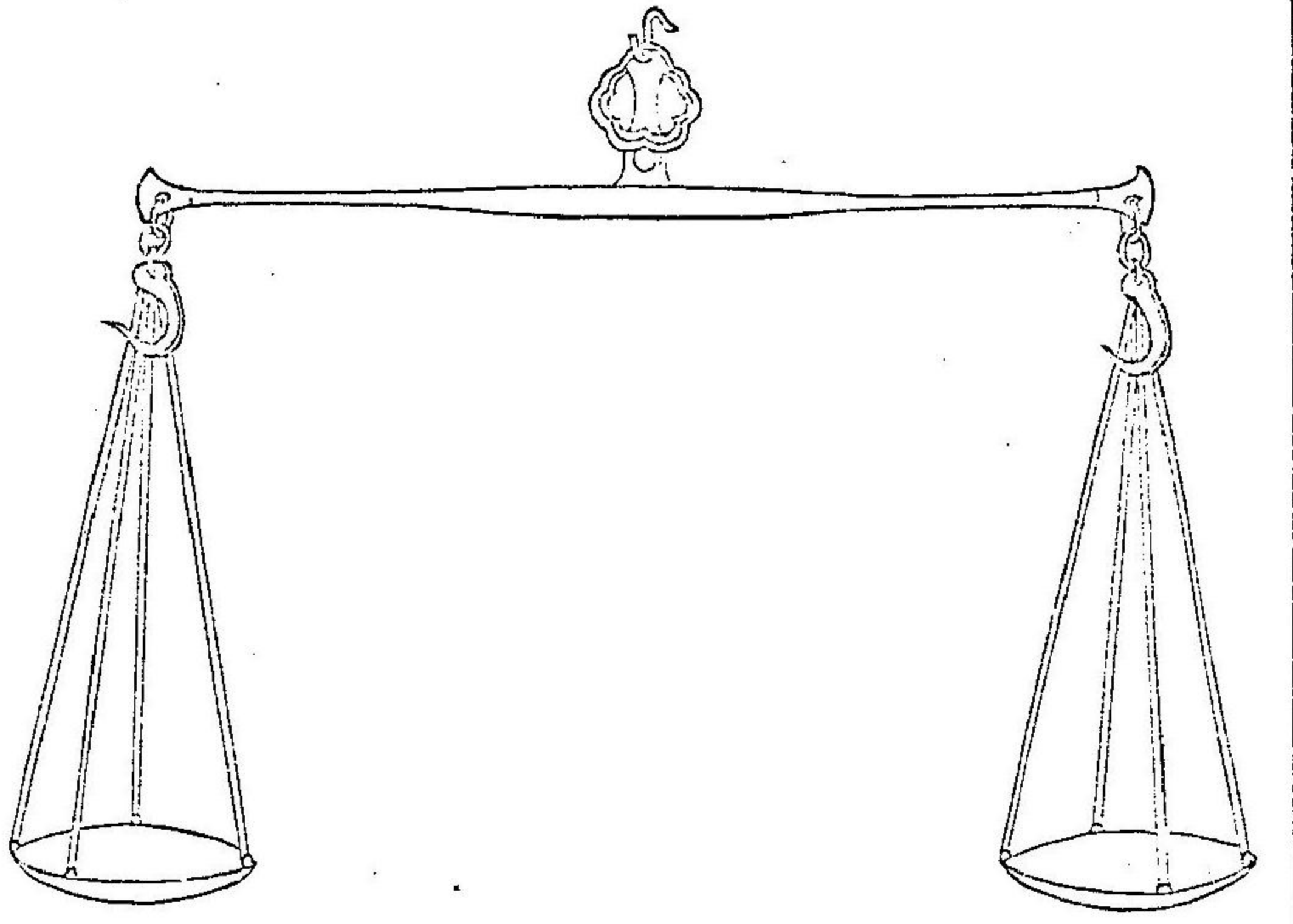
100

銀秤量	元前上 三五十七 百二十	銀秤量	元前上 一五二 百百	鎰秤量	元前上 三百五 百六十	元前上 五百八 百五十	元前上 一五二 百百	銚皿秤量	元上 一二 百
盛出	五十直 十	盛出	五百直 百	盛出	百五直 十	百五直 十	五百直 百	盛出	二直 百
星點量	二二一 分分	星點量	十五一 分分	星點量	十二一 分分	十二一 分分	十二一 分分	星點量	十二 分
鍾量	但增本 元緒掛 錘ヲ増ス 八七 分分	鍾量	六十 分	鍾量	三十 分	六十 分	八十 分	鍾量	百五十 分
衡長	七寸五分	衡長	一尺四寸	衡長	一尺二寸	一尺六寸	一尺八寸	衡長	二尺
製作品	錘皿 黃銅角	製作品	錘 黃赤 銅檜	製作品	同	同	錘皿 黃赤 銅檜	製作品	同

1011

元上 二一 貫貫 分分	元上 三一 貫貫 分分	元上 六三 貫貫 分分	元上 十一 貫貫 分分	元上 十八 貫貫 分分	元上 廿六 貫貫 分分	元上 三十六 貫貫 分分	千木秤量	元上 三六 貫貫 分分	元上 五 貫貫 分分
五直 百	一直 貫	一直 貫	三直 貫	五直 貫	五直 貫	十直 貫	盛出	五直 貫	一直 貫
二十 分	二十 分	百二 分	百五 分	二百 分	二百 分	二百 分	星點量	二一 厘厘	二一 厘厘
百五十 分	三百 分	五百 分	七百 分	一貫 分	一貫 五分	二貫 分	鍾量	一 分	一 分四分
二尺	二尺五寸	三尺	四尺	五尺五寸	六尺	六尺五寸	衡長	六寸	一尺五分
同	同	同	同	同	同	同	製作品	同	錘皿 黃銅角

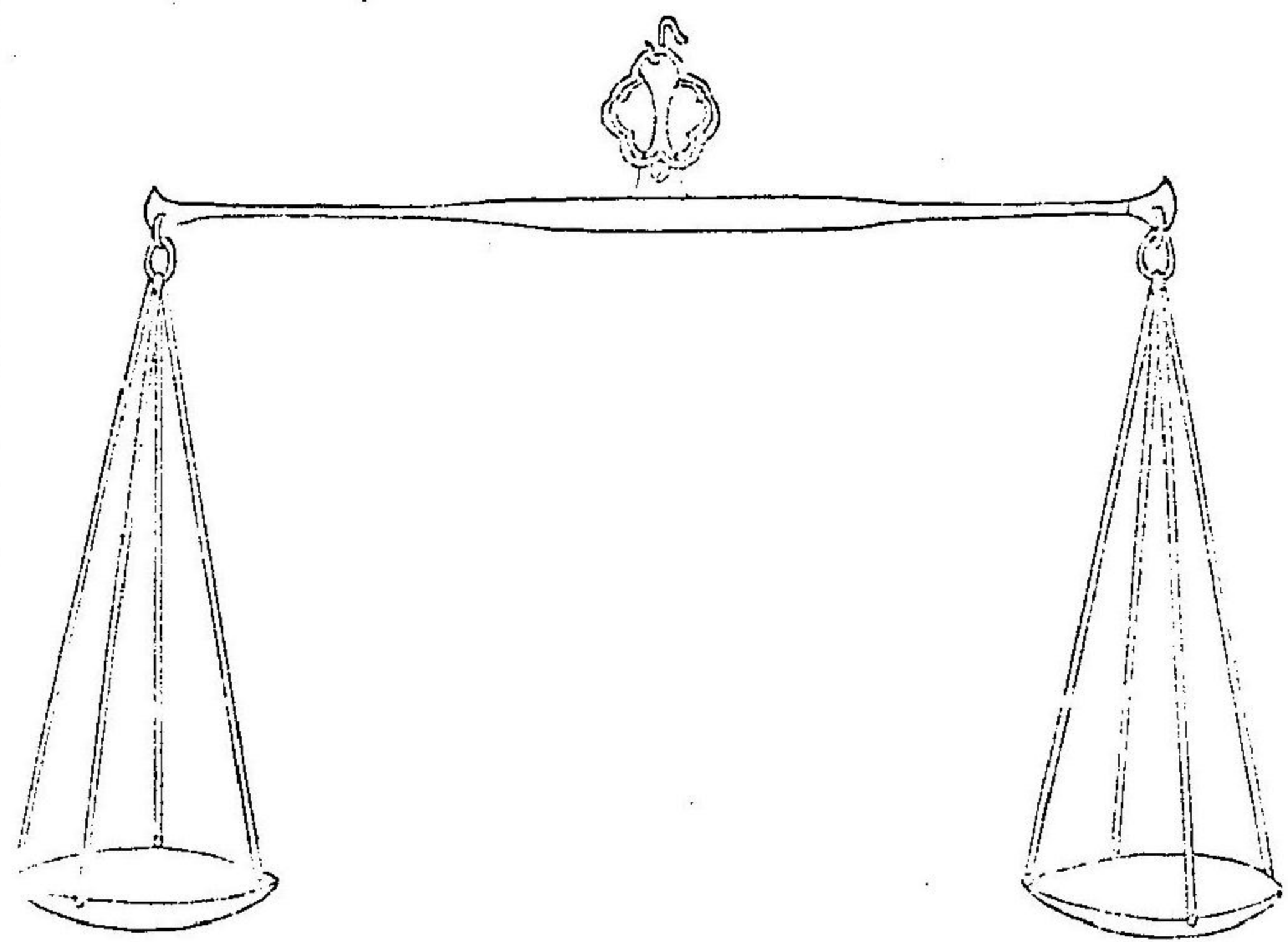
1011

										第一						
一貫 匁迄	一匁 ヨリ	一貫五百 匁迄	一匁 ヨリ	二貫 匁迄	一匁 ヨリ	二貫五百 匁迄	一匁 ヨリ	三貫 匁迄	一匁 ヨリ	五貫 匁迄	一匁 ヨリ	十貫 匁迄	一匁 ヨリ	分銅 量	衡 長	製 作 品
一尺六寸	一尺七寸	一尺七寸	二尺	二尺五寸	二尺五寸	二尺五寸	二尺五寸	三尺	三尺五寸	三尺五寸	三尺五寸	四尺五寸	全部黃銅			
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同				

新舊
天秤圖并量

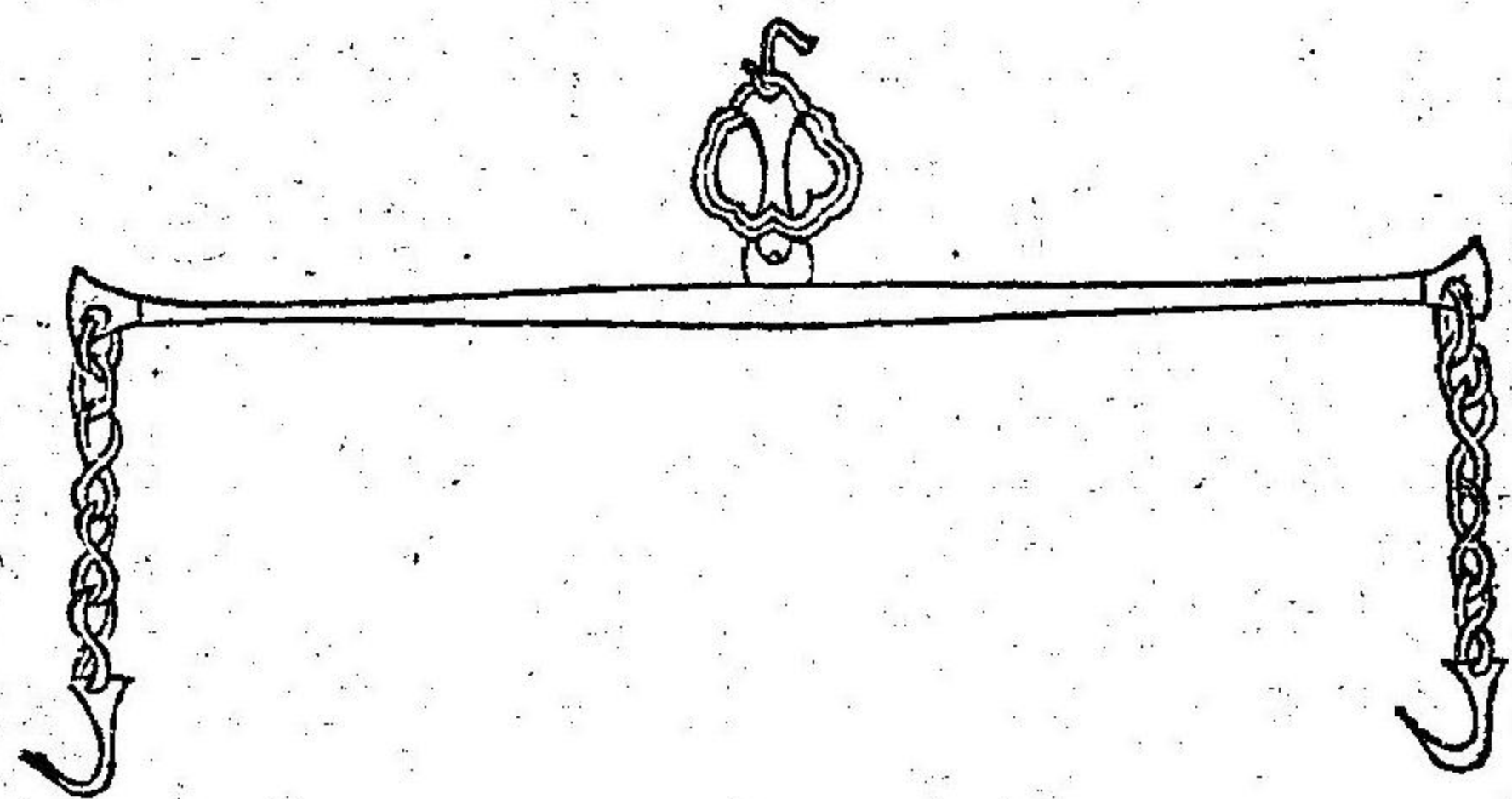
通計	元上 三六	元上 一五	厘 秤 量	元前 百五	上 五十七
	匁分	匁分	盛 出	匁分	匁分
新舊 器共一十六種	五直	一直	星 點 量	五 十	十 直
	分點	匁點	一 二	匁 點	一 二
	二一	二一	厘 厘	一 二	一 二
	厘厘	厘厘	鍾 量	匁 分	匁 分
	一 匁	一 匁四分	一 尺五分	十 一 匁	十 一 匁
	六 寸	一 尺五分	一 尺五分	一 尺五分	一 尺五分
	同	鍾 黃 銅	衡 角 品	鍾 黃 銅	衡 黑 柿

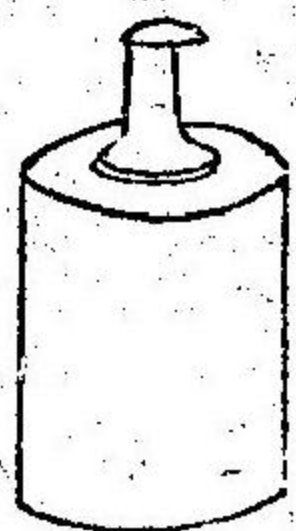
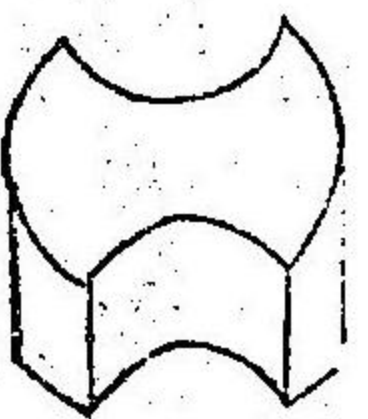
第二



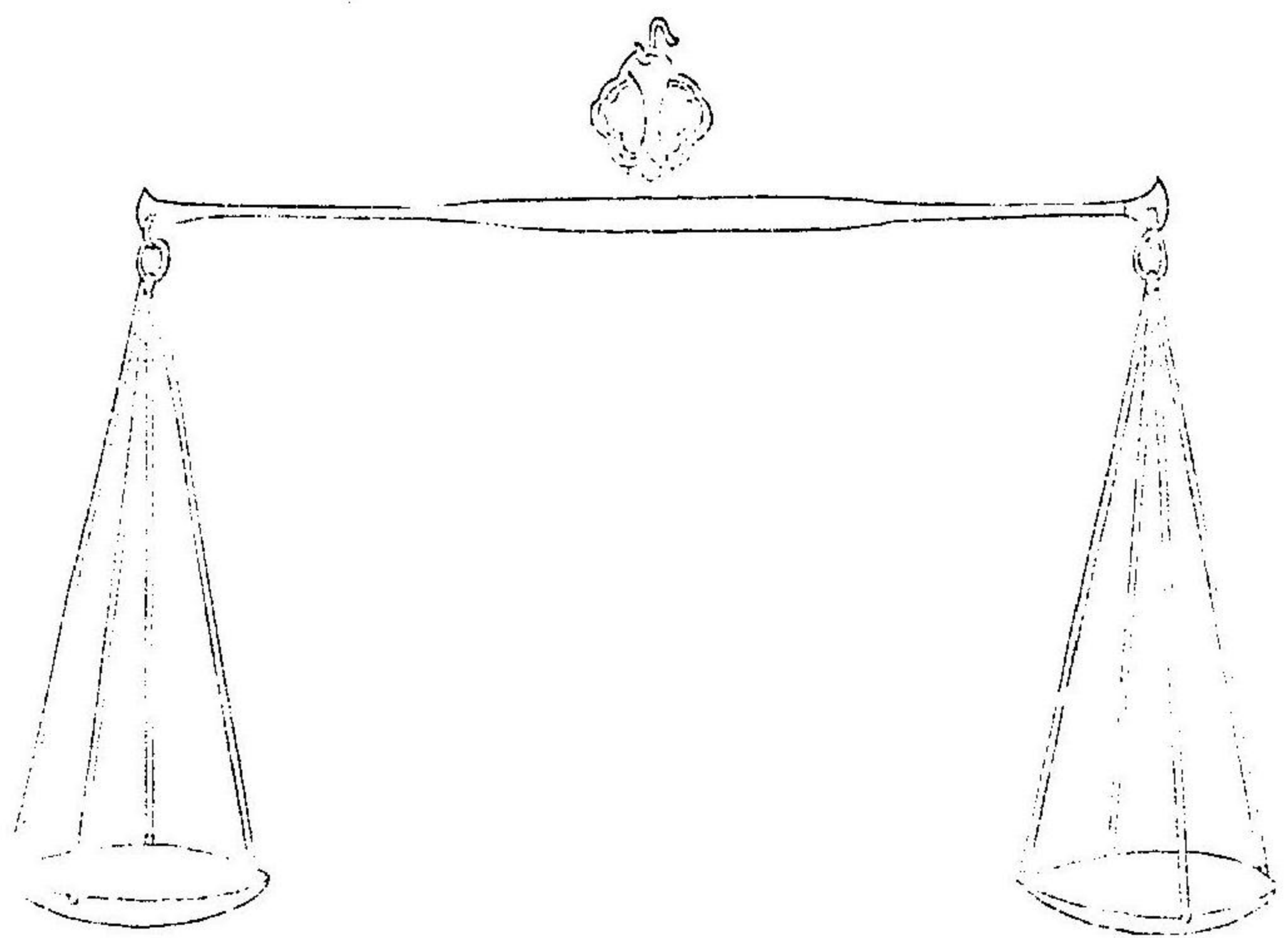
分銅量	一 分 ヨリ	一 貫 匁 迄	一 分 ヨリ	五 百 匁 迄	一 分 ヨリ	五 百 匁 迄	一 分 ヨリ	五 百 匁 迄	一 分 ヨリ	五 百 匁 迄	分銅量	一 分 ヨリ	一 貫 匁 迄	一 分 ヨリ	五 百 匁 迄	一 分 ヨリ	五 百 匁 迄	一 分 ヨリ	五 百 匁 迄
衡	一尺六寸	一尺三寸五分	一尺二寸	一尺五分	一尺二寸	一尺五分	一尺二寸	一尺五分	一尺二寸	一尺五分	衡	一尺六寸	一尺三寸五分	一尺二寸	一尺五分	一尺二寸	一尺五分	一尺二寸	一尺五分
長	全部黃銅	全部	全部	全部	全部	全部	全部	全部	全部	全部	長	全部黃銅	全部	全部	全部	全部	全部	全部	全部
製作品											製作品								

第三



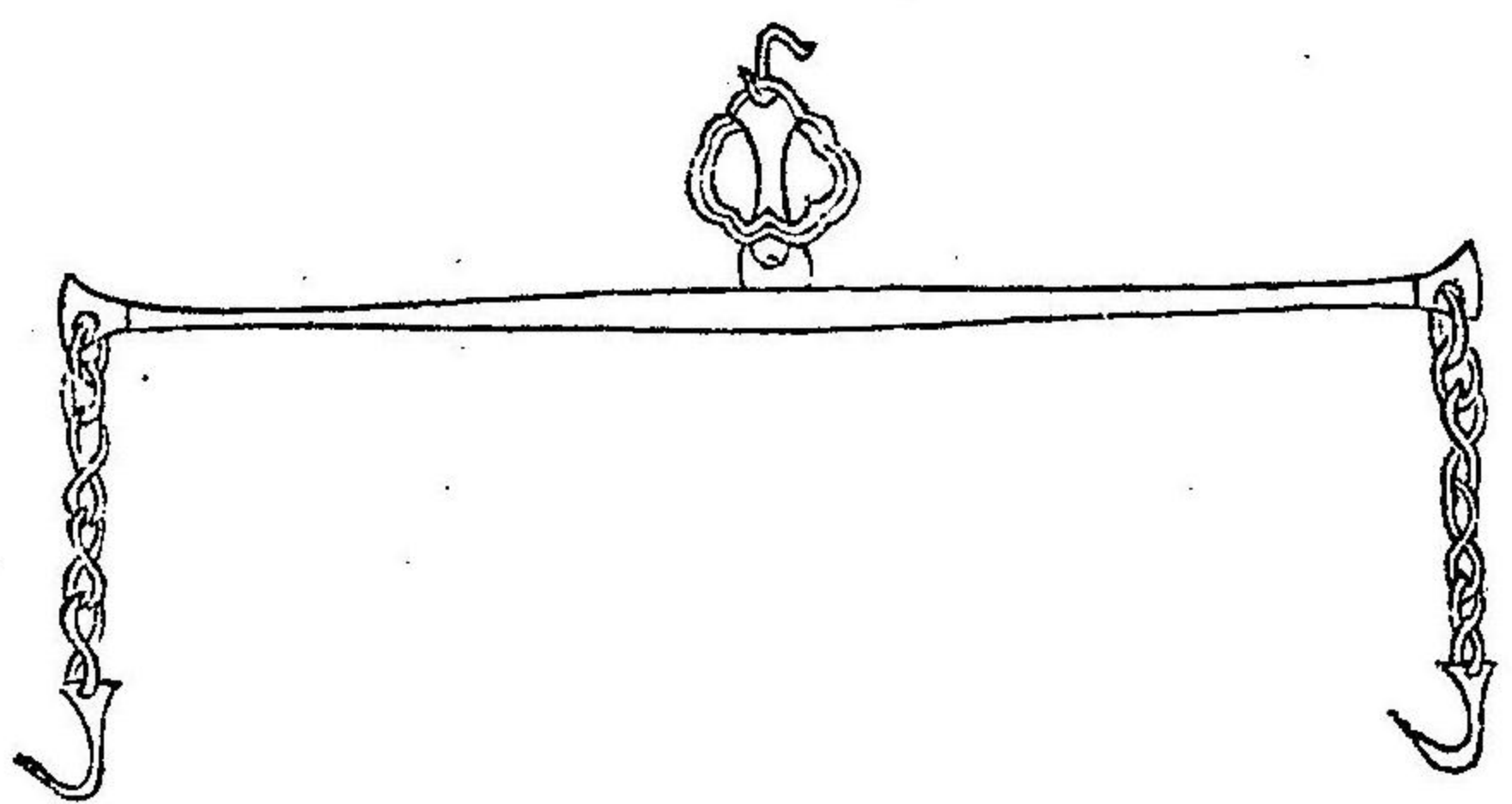
分銅量	一 匁 ヨリ	五 百 匁 迄	一 分 ヨリ	六 十 匁 迄	計通	新舊	新器	舊器
衡	一尺四寸	一尺	一尺	一尺	新舊器共一十六種	分銅圖		
長	全部黃銅	全部	全部	全部			黃銅製	褐銅製
製作品							種類若干	

第二



分銅量	一分ヨリ	一分ヨリ	一分ヨリ	一分ヨリ	一分ヨリ	一分ヨリ	一分ヨリ	分銅量
衡長	一尺六寸	一尺三寸五分	一尺二寸	一尺二寸	一尺五分	一尺二寸	九寸	衡長
製作品	全部黄銅	全	全	全	全	全	全	製作品
	一貫匁迄	五百匁迄	五百匁迄	五百匁迄	五百匁迄	五百匁迄	二百匁迄	
	五厘ヨリ	五厘ヨリ	五厘ヨリ	五厘ヨリ	五厘ヨリ	五厘ヨリ	五厘ヨリ	
	百二十匁マテ	百六十匁マテ	百六十匁マテ	百六十匁マテ	百六十匁マテ	百六十匁マテ	百六十匁マテ	

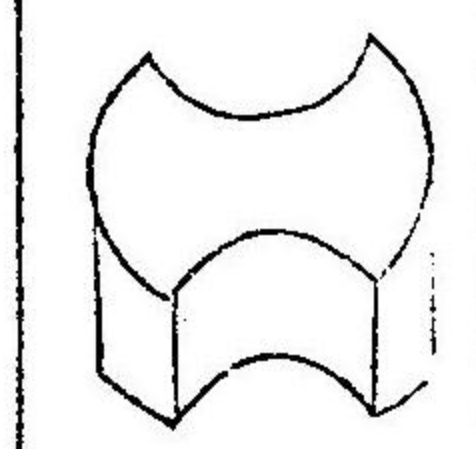
第三



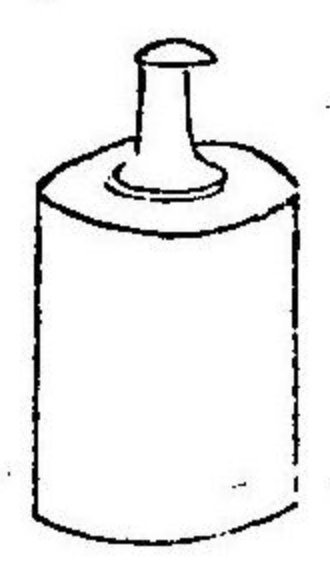
分銅量	一分ヨリ	一分ヨリ	一分ヨリ	一分ヨリ	一分ヨリ	分銅量
衡長	一尺四寸	一尺四寸	一尺四寸	一尺四寸	一尺四寸	衡長
製作品	全部黄銅	全部黄銅	全部黄銅	全部黄銅	全部黄銅	製作品
	五百匁迄	五百匁迄	五百匁迄	五百匁迄	五百匁迄	
	一分ヨリ	一分ヨリ	一分ヨリ	一分ヨリ	一分ヨリ	
	六十匁迄	六十匁迄	六十匁迄	六十匁迄	六十匁迄	

計通
新器共一十六種

新器
分銅圖



黄銅製



黄銅製

種類若干

●水量秤組

明治九年六月
大藏省達乙第五十三號

新器水量秤組ノ儀度量衡種類表ニ掲載有之候圖面ノ通り原器製作先般相渡候處其後右秤組儀切組底ニテハ製作ノ工拙ト木材ノ良否ニ依リ底部膨脹相開候弊モ有之哉ニ相開候條右底組ノ儀ハ打付底ニ製作致候分共取交相用不苦候條此旨相達候事

○第三章 大阪府諸規則

●度量衡取締規則

明治廿五年十二月
大阪府令第九十七號

- 第一條 此規則ニ於テ度量衡器營業者ト稱スルハ度量衡法ニ據リ免許ヲ受ケタル度量衡器ノ製作者修葺者販賣者ヲ云ヒ度量衡器使用者ト稱スルハ度量衡法ニ於テ指定セラレタル度量衡器ノ使用者及之ニ準スルモノヲ云フ
- 第二條 度量衡器營業者ハ様式第一號ニ依リ標札ヲ調製シ營業所ノ戶外ニ掲クヘシ
- 第三條 度量衡器營業者ハ其營業ニ係ル帳簿ヲ調製シ製作修葺輸入買入若ハ販賣シタル度量衡器ノ形狀物質種類箇數及其價格年月日ヲ記載シ當該吏員ノ臨檢ニ差支ナカラシムヘシ

明治廿六年三月府令第五十八号ヲ以テ第五條ヲ追加セラル

明治廿六年五月府令第九十四号ヲ以テ第六條ヲ追加セラル

第四條 度量衡器營業者ハ四月ヨリ翌年三月マテヲ一周年度トシ様式第二號ニ依リ毎年四月三十日マテニ前年度ニ係ル營業實況表ヲ調製シ市長（大阪市ハ區長以下之ニ倣フ）町村長ヲ經テ之ヲ當廳ヘ差出スヘシ

第五條 度量衡器營業者桿秤ノ緒紐及錘絲（金屬ヲ除ク）ノ修葺ヲ爲シタルトキハ様式第三號ニ依リ修葺實況表ヲ調製シ前條ニ定ムル期限ニ市長町村長ヲ經テ當廳ヘ差出スヘシ

第六條 度量衡法施行規則第四十四條ニ依リ届出ヲ爲サントスルトキハ其届書ニ器物ノ所有者又ハ使用者ノ職業住所氏名及桿秤ノ種類形狀物質記號年號番號并ニ差狂ノ点ヲ詳記スヘシ

第七條 度量衡器營業者其免許ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ開業セサルモノ又ハ休業三十日以上ニ及フモノハ市長町村長ヲ經テ其事由ヲ當廳ヘ届出ツヘシ

第八條 度量衡器營業者技師ヲ雇入又ハ之ヲ解雇シタルトキハ市長町村長ヲ經テ當廳ヘ届出ツヘシ但雇入届書ニハ其履歷書ヲ添付スヘシ

第九條 度量衡器營業者事故アリテ自ラ其業務ニ從事セサルカ又ハ旅行スルトキハ代理人ヲ定メ市長町村長ヲ經テ其族籍氏名ヲ當廳ヘ届置クヘシ

第十條 度量衡器營業者ノ身元保證金ニ對スル預リ證券ハ納入届書ニ添ヘ當廳ヘ

臺秤		天秤		分銅		種別	斗	計
〔キログラム〕 貫	〔キログラム〕 貫	〔キログラム〕 貫	〔キログラム〕 貫	〔キログラム〕 貫	〔キログラム〕 貫			
						衡器		
							越	
							高	
							製	
							作	
							修	
							覆	
							輸	
							入	
							買	
							入	
							販	
							賣	
							殘	
							高	

一一三

何々何々	何々何々	圓筒形金屬		形狀物質種別	量器	計	曲リ尺	鯨尺	鍵尺		
		リットル	升						メートル	尺	
					量器						
						越					
						高					
						製					
						作					
						修					
						覆					
						輸					
						入					
						買					
						入					
						販					
						賣					
						殘					
						高					

一一三

明治廿六年三月府令第五十八号ヲ以テ第三號様式追加セラル

計	木製桿秤		金屬製桿秤		備考
	〔キログラム〕	貫	〔キログラム〕	貫	
					表中製作修復輸入買入ノ欄ハ自己ノ營業ニ該當セザル欄ヲ除キ 製表スルモ妨ケンシ 様式 第三號 桿秤修復實況表

計	何々檉	何々紫	何々黒	種類物質	秤量	製作地	製作者			箇數	代價	修復ノ別	
							記号	年号	番号			緒紐	錘系
	全	全	全										

●市區長委任事項ノ内度量衡器検査之件删除

明治廿五年十二月
大阪府令第九十八号

明治廿二年十月 大阪府令第六拾四號市區長委任事項第五十三項度量衡器検査ノ件ハ
明治廿六年一月一日ヨリ删除ス

●度量衡法施行ニ付心得方

明治廿五年十二月
大阪府訓令第六十七号

第一條 市長(大阪市ハ區長以下之ニ倣フ)町村長ハ其市町村内ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ行ヒ及其檢定ニ關スル事務ヲ補助スヘシ

第二條 市長町村長ハ度量衡器營業者名簿ヲ調製シ府廳內務部ノ通知ニ依リ營業者住所氏名營業種別免許年月日及營業所ノ所在ヲ記載シ爾後異動アル毎ニ之ヲ訂正スヘシ

第三條 市長町村長ハ府廳內務部ヨリ交付シタル度量衡取締主任ノ證票ヲ保管シ若シ失却毀損シタルトキハ其事由ヲ詳記シ當廳ヘ報告スヘシ

第四條 特設度量衡檢定所ヲ設置シ又ハ度量衡法施行規則第四條ノ請求ヲ許可シ主任官吏ヲシテ出張檢定ヲ爲サシムルトキハ市長町村長ハ其需ニ應シ之レカ準備ヲ爲スヘシ

第五條 市長町村長ハ毎年一度以上度量衡器營業者及使用者ノ營業所其他ノ場所ニ臨檢シ其實況ヲ當廳ヘ報告スヘシ但市長町村長ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ臨檢ヲ行フヘシ

明治廿六年五月訓令第六十七号ヲ以テ第六條追加セラ

第六條 市長町村長ハ度量衡取締規則第六條ノ屆書ヲ受理シタルトキハ直ニ臨檢シ之レカ措置ヲナヘシ

第七條 市長町村長度量衡器營業者ノ帳簿ヲ檢閲シタルトキハ檢了ノ證トシテ年月日職氏名ヲ記入シテ捺印シ若シ檢了ノ證ヲ與フヘカラスト認ムルトキハ相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第八條 市長町村長臨檢ノ場合ニ於テ差狂アリト認メタル度量衡器ハ速ニ檢定ヲ請求セシムヘシ但度量衡法第十五條第三項ニ該當スルモノハ此限リニアス

第九條 市長町村長度量衡器ノ取締ニ關シ主任官吏ノ臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ速ニ之ヲ請求スヘシ

第十條 市長町村長度量衡器取締ノ關係他ノ市町村ニ及フキハ其措置ヲ當該市長町村長ニ囑托スヘシ囑托ヲ受ケタル市長町村長ハ速ニ之レカ措置ヲ爲スヘシ

第十一條 市長町村長前條ニ依リ檢定ノ請求ヲ命シタルキハ速ニ器物所有者又ハ使用者ノ住所氏名及器物ノ種類物質形狀記號年号番号並ニ差狂ノ点ヲ詳記シ當廳ヘ報告スヘシ

第十二條 市長町村長度量衡法及其他度量衡ニ關シ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シ之ヲ告發シタルキハ速ニ其旨ヲ當廳ヘ報告スヘシ

●常置度量衡檢定所開始

明治廿五年十二月 告示第二百七十四號

常置度量衡檢定所ハ當廳内ニ置キ明治廿六年一月一日ヨリ開始ス

●度量衡取締主任証票

告示第二百七十五號

度量衡取締主任ノ証票左ノ通り相定ム

明治廿六年五月訓令第六十一号ヲ以テ第十一條ヲ追加セラ

第何號

度量衡

取締

主任之証

朱印

朱印

●度量衡器ヲ免許者外ノ者製作修覆販賣スルモノアリ
不都合ニ付取締

明治廿六年五月
訓令第二十六號

度量衡法規定ノ度量衡器ハ免許者ノ外製作修覆販賣等不相成ハ勿論ノ處磅目洋衡製造者ニシテ磅目ノ外貫目又ハ斤目及「キログラム」目等ヲ盛添ヘタルモノヲ製造販賣シ又ハ古物商營業者ニシテ自店若クハ露店等ニ古度量衡器ヲ販賣スルモノ有之ヤニ相聞ヘ候處果シテ右様ノモノ有之ニ於テハ不都合ノミナラス度量衡法第十五條ニ依リ處罰セラルベキモノニ付右等心得違ヒノモノ無之様嚴重取締ルベシ

○第四章

編者管見

●檢定補助官吏ニ必要ナル事項

一 度量衡法第十一條第二項ノ市町村長ニ於テ檢定ニ關スル事務ヲ補助スル場合ハ種々アルヘシト雖モ概シテ府縣知事ノ命令ニ從ヒ之ヲ行フハ素ヨリ檢定官ノ需メニ應ジ之レカ補助ヲ爲シ又ハ定期間ニ於テ檢定施行ノ告示アリタル(施行規則第一條)トハ尙營業者ニ之レヲ告知シ其注意ヲ促カシ又ハ檢定官ト檢定場若シクハ其區域等ヲ定ムル協議ヲ爲ス等ハ尤モ補助ヲナスノ重ナルモノナルヘシ

一 取締ルヘキ度量衡器ハ「メートル」法(稱佛等)ノ三器及本邦目ノ度量衡器ニ限ル故ニ英米等ニ用ユル「フィート」「ガロン」「ポンド」等ノ目盛シタル度量衡器ハ規定外ノモノニ付關係ナキモノナリ

一 度量衡器取締ヲ爲ス市町村長ハ豫メ其臺帳ヲ調製シ爾後其増減ヲ加除シ之ヲ準據トシテ定期若クハ臨時ノ檢査ノ要ニ供スルヲ便トス而シテ臺帳ハ尤モ簡便ニシテ明瞭ナルヲ要ス左ニ其書式ヲ掲出ス

何々業 住所氏名

種類	物質	全長	製作地	記号	番号	年号	数量
計							

製表ノ心得

- 一 何々業トアルハ器物所有者ノ營業名ヲ記ス
- 二 住所氏名トアルハ器物所有者ノ住所氏名ヲ記ス
- 三 種類ノ欄ハ廿四年勅令第百七拾七號第壹條ノ表中種類ノ部ニ屬スル何々尺又ハ何々「メートル」ノ名稱ヲ記ス

- 四 物質ノ欄ハ金屬竹木ノ別ヲ記ス
- 五 全長ノ欄ハ度量器ノ長サ即チ何尺又ハ何「メートル」ト記ス
- 六 製作地ノ欄ハ器物ニ表記シアル府縣名ヲ記ス
- 七 記号年号番号ノ欄ハ器物ニ表記シアルモノヲ記ス
- 八 數量ノ欄ハ本又ハ個數ヲ記ス

以上ノ内六七二項ノ説明ニ係ル本表三欄ノ事項ハ舊器(本年一月以前ノ製品)ニハナシ故ニ其欄ノ空ナルハ舊器ニシテ空ナラサルモノハ新器ナリ是其新舊ヲ識別スル便ナル爲メ特ニ本欄ヲ設ケタリ

何々業 住所氏名

形状	物質	種類	製作地	記号	年号	番号	数量

計									

- 一 何々業及住所氏名ノ二項ハ度器ノ部ニ全シ
- 二 形状ノ欄ハ圓形若クハ方形ヲ記ス但斗概ハ大中小ノ別ヲ記ス
- 三 物質ノ欄ハ金属鉄葉又ハ玻璃木材ノ別ヲ記ス但斗概ハ鉄葉銅包ノ別ヲ記ス
- 四 種類ノ欄ハ斗升合勺等及何々「リットル」ノ別ヲ記ス
- 五 製作地以下ノ各欄ハ度器ノ部ニ全シ

何々業 住所氏名
衡器 (分銅及秤)

種類	物質	重量及秤量	製作地	記号	年号	番号	数量
----	----	-------	-----	----	----	----	----

計									

- 一 何々業及住所氏名ハ度器ノ部ニ全シ
 - 二 種類ノ欄ハ分銅天秤臺秤桿秤ノ別ヲ記ス
 - 三 物質ノ欄ハ金属及象牙、骨、黒紫檀、樺、ノ別ヲ記ス
 - 四 重量及秤量ノ欄ハ分銅ノ重量秤ノ全掛量ヲ記ス
 - 五 製作地以下ノ各欄ハ度器ノ部ニ全シ
- 「メートル」法度量衡器ノ構造ハ施行規則第二章構造ノ部ニ於テ制限スト雖モ度量衡法實施以前ニ使用シタルモノハ其検査ヲ省略セラレタルヲ以テ或ハ規定ノ構造外ナルモノニ檢定ノ証印ヲ附與セラレタルモノモアルヘシ是取締官

ノ尤モ注意スヘキモノナリ左ニ其訓令ヲ掲出シ尙其訓令ノ御旨主ヲ察シ併セ
テ之ヲ掲ク

農商務省訓令第三拾九号

明治廿五年十二月

「メートル」法度量衡器ノ檢定ハ度量衡法實施以前使用ニ係ルモノニ限り特ニ
明治廿六年六月三十日迄第二回檢査中構造ノ檢査ヲ省略スルヲ得

- 一 度量衡法實施以前ノ「メートル」法三器ハ製作販賣其營業ノ自由ニ任シ制法ナ
キヲ以テ其種類形狀物質等度量衡法ノ規定ニ違フ者多ク從テ檢定上十中八九
ハ其構造等ニ於テ不合格トナリ全ク廢棄ニ屬スヘシ然レモ之ノガ爲メ悉ク不
用ニ屬セシムルモハ實際不便尠ナカラザルノミナラス使用者ニ於テ大ニ差支
ヲ生スヘシ故ニ訓令ヲ以テ本年一月以前使用シ來リタルモノニ限り特ニ構造
ノミハ制規ニ違フモ檢定ノ上使用ヲ許サレタルモノナルベシト雖モ本年六月
三十日以後之ヲ許サス必ス規程ニ依ラシムルノ御主意ニシテ若シ違法ノ器
ヲ使用スルモハ嚴重ノ處罰ヲ受クルニ至ルベシ
- 一 度量衡器取締ノ爲メ各營業者及使用者ニ就キ臨時檢査スルニ當リ差狂若クハ
修復ヲ要スルモノアルモ度量衡器ヲ發見シタルモハ其差狂ト認メタルモノニ對
シテハ檢定ヲ修復ヲ要スルモノハ修復ヲ命スルモノナリ而シテ單ニ之ヲ命ス

- 一 定期又ハ臨時檢査ヲ行フ手續ハ其主任ノ適宜ナルベシト雖モ豫メ標準ナル
ヘカラス今其順序ノ二三ヲ左ニ列擧ス
但檢査ヲ行フ官吏及公吏ハ法律第十二條ノ証票ヲ携示スルヲ要ス

順序書

第一 營業者（製作修復及販賣者）

- 一 位置及構造ニ變更ナキ否
 - 二 度量衡器ノ形狀物質及種類ノ當否
 - 三 資本金相當ノ營業ヲ爲シ居ルヤ否
 - 四 技師職上員數變動ノ有無
 - 五 重ナル機械ノ部分ニ増減ナキヤ否
- 以上ハ本人ノ差出シタル設計ニ照合シ檢査ス

- 六 金屬外秤秤修覆者ノ修覆器械中分銅及架秤設備ノ有無
- 七 製作修覆原器保管上ノ良否
- 八 營業帳簿ノ整否 (大阪府令第三條參照)
- 九 前各項ノ外違犯ノ所爲ナキヤ否

第二 使用者 (營業ノ目的及之ノ
ニ準スル使用者)

度 器

- 一 証印ノ有無
 - 二 兩端磨滅シ若クハ曲撓シテ全長ニ差狂ヲ生シタルヤ否
 - 三 疊尺ノ鏈接部緩曲シ全長ニ差狂ヲ生シタルヤ否
 - 四 曲リ尺ノ内外直角ニ差狂ナキヤ否
 - 五 目盛又ハ全長ノ表記并ニ記号年号及番号ノ汚染若クハ磨滅シテ識別シ難キモノアルヤ否
- 量 器
- 一 証印ノ有無并ニ識別シ得ルヤ否
 - 二 形狀物質及種類ノ適否

- 三 内面ニ糟糠其他容量ヲ減スベキモノ、附着シ居ルヤ否
 - 四 構造ニ變狀ナキヤ又ハ四隅ノ分離及縁鉄ノ脱却セントスル物ナキヤ否
 - 五 斗概ノ曲撓若クハ側面ニ凹凸ヲ生シタル物ナキヤ否
 - 六 全量並ニ記號年號及番號ノ汚染磨滅シテ識別シ難キモノアリヤ否
- 衡 器
- 一 檢印ノ有無
 - 二 形狀物質及種類ノ適否
 - 三 構造ニ變狀ナキヤ否
 - 四 衡桿曲撓シ又ハ汚染シ若クハ錘ノ磨滅シ又ハ他物ノ附着シテ差狂ヲ生シタル物ナキヤ否
 - 五 桿秤ノ緒紐ニ不正ノ物ナキヤ否
 - 六 分銅磨損又ハ他物ノ附着シテ其重量ニ増減ヲ生シタルモノナキヤ否
 - 七 天秤ノ指針ニ屈曲ヲ生シタル物ナキヤ否
 - 八 秤量又ハ感量ノ表記及記號年號番號ノ汚染若クハ磨滅シテ識別シ難キモノアルヤ否
 - 九 前項ノ表記ナキモノハ其証書ノ有無

以上各項ニ準シ検査スト雖モ明治三十二年迄ハ舊度量衡器ノ存スルアルヲ以テ悉ク之レニ據リ難キモノアリ仮令ハ其構造又ハ度量器ノ全長量器ノ全量衡器ノ秤量及感量並ニ記號年號番號等ノ表記ハ舊器ニナキ所ノ物ナリ故ニ舊器ニアツテハ之レ等ヲ省キ檢印アルヲ証トシ其他ヲ検査シ以テ足レトス又差狂アル度量衡器ト認ムルモ稍精密ノ検査ヲ爲スニ非ザレハ其差仕ヲ確認スル能ハザル物アリタルハ左ニ掲クル二三ノ方法ヲ以テ便宜検査シ尙當然タルヲ認メ難キハ其器物ノ所有者又ハ使用者ノ住所氏名及該器ノ形狀物質種類個數等詳記シ直ニ常置檢定所ニ申報シ處分ヲ乞フノ外ナカルベシ

一度器及量器ハ正確ナル度量器(新法ノ規程ニ依リ)ヲ以テ度量器ハ其全長及目盛量器(方形)ハ四隅ノ寸法ヲ量リ大ナル差ナキハ合格トスルモ差支ナカルベシ

一 衡 器
桿秤ハ其直点(ムダメ)ニ錘ヲ掛桿ノ水平ヲ得タルハ一度目(假令ハ桿ノ目盛一匁ナリハ一匁ハ一匁十匁ナリ)ニ相當スル量ヲ鍵若クハ皿ニ入レ感動ヲ檢シ次ニ各取緒ニ就キ一々水平ヲ計リ同様ノ検査ヲ爲シ感動ヲ起スモノハ合格トシ差支ヘナカルベシ尤モ尙確實ヲ認メントスルハ全掛量ノ重サニ相當スル分銅ヲ掛ケ水平ヲ得タルハ一度目ノ重量ヲ入レ感動ヲ試ミルヲ要ス

天秤

臺ノ高低(水準器ヲ以テ)ヲ精密ニ計リ可成重量ノ分銅ヲ左右ノ皿ニ盛り動搖ノ鎮靜スルヲ待テ其指針正直シテ編重大差ナキ物ハ合格トシテ差支ナカルベシ

分 銅(天秤ニ附屬スルモノ)
天秤臺ノ高低ヲ計ル方法前項ノ如クシ而シテ検査スル所ノ分銅ヲ左ノ皿ニ入レ之ト同量ノ分銅ヲ右皿ニ盛り針口ノ正直ニ至リ編重ナキハ即チ合格ナリ

臺 秤
平面ノ地若クハ臺ニ据ヘ之レヲ檢スベシ而シテ其検査ノ方法ハ桿秤同一ト心得然ルベシ

以上ノ順序ニ依リ検査スルハ稍々正確ヲ得ルナルベシト雖モ舊度量衡器ハ舊検査規則ノ有アリ宜シク之ト照合スルヲ要ス

一 西洋形權衡ノ舊検査方法ハ左記ノ如クセシモノナリト聞ク然レモ今茲ニ掲クル必要ナキモノ、如シト雖モ取締上檢印捺捺ノ個所又ハ其摸樣等ヲ知ルハ尤モ必要ニ付特ニ之ヲ掲ク

手 續 書
一 検査ノ際定錘ノ量ヲ増減スルニ便ナラシメンカ爲メ豫メ錘ノ上而若クハ側面ニ

穴ヲ穿テ鉛屑ヲ納レテ螺旋ヲ以テ其口ヲ塞キ置クベシ而シテ檢印ハ其螺旋ノ合目ニ打込ムベシ

但錘質鉄ナレバ上面若クハ側面ノ一部ニ黃銅片ヲ埋メ茲ニ穴ヲ穿テ其内ニ鉛屑ヲ納ル、ト本文ノ如クスベシ又錘形小ニシテ穴中ニ鉛屑ヲ納ル、ト充分ナラザル物ハ穴ハ唯錘量ヲ増スル鉛屑ヲ納ル、ノ豫備ニ供スルノミトシテ初メヨリ鉛屑ヲ納レ置カズ而シテ其量ヲ減セントスルキハ錘底面ヲ削リ取り然ル後檢印ヲ押スベシ

一 檢査ノ際増錘ノ量ヲ増減スルニ便ナラシメンガ爲メ豫メ錘ノ表面ニ穴ヲ穿テ鉛屑ヲ納レ螺旋ヲ以テ其口ヲ塞キ置クベシ而シテ檢印ハ其螺旋ノ合目ニ打込ムベシ但増錘質鉄ナレバ表面ニ黃銅片ヲ埋メ云々前項但書ノ通

一 増錘ヲ載スル臺モ亦錘ト同シ

一 増錘ヲ付スル繼衝ノ檢査ハ第一星点量ヲ檢シ第二最大星点量ニ於テ感シテ檢シ第三各錘ヲ懸ケテ其量ヲ檢スベシト感シハ最小目盛り量ニ拘キ分銅ヲ以テ之ヲ檢スベシ但臺秤ニアリテハ其最大星点量ヲ檢スルキ檢査分銅ヲ逐次臺ノ四隅ニ轉置シテ桿ノ水平ヲ檢スベシ

(定錘及増錘圖ハ略之)

●營業者(製作修覆)ニ必要ナル事項

一金屬ニ非ザル桿秤ノ取緒若クハ錘系ノ修覆ヲ爲シタルキハ檢定ヲ受クルヲ要セスト雖モ若其修覆シタル器物ニ差狂アリト認メタルキハ(施行規則第四十四條)市町村長ニ其旨ヲ届出ツルモノナリ其届出ヲ爲サザルキハ(施行規則第四十五條)貳拾五圓以下ノ罰金ニ處セラルベシ

一 衡器販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ法律第八條ニ依リ金屬外ノ桿秤ニシテ其取緒錘系ノ修覆ヲ爲スヲ得ルト雖モ特ニ左ノ事項ヲ詳記シタル修覆設計ノ承認ヲ受クルニ非ザレハ之ヲ爲スヲ得ス若シ其承認ヲ受ケズシテ修覆シタルキハ(施行規則第四十五條)貳拾五圓以下ノ罰金ニ處セラルベシ

- 一 修覆場ノ位置及構造
 - 二 桿秤ノ物質
 - 三 資本金(固定ト流動ノ區分ヲ要ス)
 - 四 職工ノ員數
 - 五 諸機械ノ種類(分銅秤架ハ必ス設備スルヲ要ス)
- 一度量衡器ノ製作修覆及販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ施行規則第三十七條ニ依リ免

許相當ノ身元金ヲ國立銀行へ預ケ入ルベキ規程ノ處其銀行ハ日本銀行ニテモ無論差支ナキモノナリ

又身元金ハ公債ヲ以テスルヲ得ルモノニテ其公債ハ獨リ政府發行ノ公債ニ止マテ大阪市發行ノ公債(假令大阪市公債ノ如キ)ヲ以テスルヲ得ルモノナリ

一製作修覆及販賣ノ免許有効年限ハ十五ケ年ナルヲ以テ其年限中本人死亡スルモ有効満期ニ至ル迄ハ相續者ニ於テ繼續營業シ得ラル、者ノ如シト雖モ已ニ本人死亡セハ其効モ總テ消滅スルモノニ付更ニ出願許可ヲ得ルニ非ラザレハ營業シ能ハザル者ナリ

●使用者(營業ノ目的ニ使用スル者及ヒ之ニ準スル者)ニ必要ナル事項

一從來ノ度量衡器即チ明治廿六年一月度量衡法實施以前ノ物ニシテ檢印アル物ハ明治三十二年十二月卅一日迄ニ更ニ檢定ヲ受クベキモノナリ若シ其期限内ニ檢定ヲ受ケザルキハ之ヲ販賣シ又ハ使用スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處セラルベシ

一營業ノ目的又ハ之ノニ準スルモノ、使用スル度量衡器ハ明治三十二年ニ於テ更ニ檢定ヲ受ケ示後五ケ年目毎ニ檢定ヲ受ケザレバ販賣又ハ使用スルコトヲ得ス

犯ス者ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處セラルベシ

一無檢印若シクハ差狂アル度量衡器ヲ販賣シ又ハ使用スル者ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處セラルベシ

一從來所有セシ無檢印(メイトル法ノ三器又ハ天秤等々カルベシ)ノ度量衡器ヲ營業ノ目的ニ使用セントスルキハ法律第九條ニ豫メ檢定ヲ受クベシトアルヲ以テ隨時其所有者ヨリ檢定ヲ請求スルキハ檢定セラル、モノ、如シト雖モ無檢印ノ物ハ製作修覆若シクハ輸入販賣者(輸入品ニ限ル)ノ外檢定請求スルモ其器物ノ良否ヲ問ハス總テ不合格トセラレベシ何トナレハ若シ之ヲ許スルハ免許者ニ非ラザル者ノ製品ヲ以テスルモ其之レヲ知ルニ由ナク遂ニ法律ハ其功ヲ奏スル能ハザルニ至レバナリ

一ホンド目臺秤(俗ニカン)ト云フ桿ノ傍ラニ日本目ヲ盛リタル物ハ其表面ノ目ガ「ホンド」ナルヲ以テ規定外ト心得之レヲ販賣又ハ使用スル者ナキヲ保セズ然レモ已ニ本邦量ニ相當スル目ヲ附シタルモノニ付即チ度量衡法範圍内ノモノナリ尤モホンド目ト日本目ト併セタル目盛ハ規定ノ構造ニ叶ハザル物ナリ故ニ表面ノ目ガ「ホンド」ナルト否トヲ問ハズ無論販賣使用ノ出來ザル物ナリ犯スモノハ貳百圓以下ノ罰金ニ處セラルベシ

因ニ云フ判然日本目トシテ盛添ヘズ暗ニ日本目ニ適合スル線ヲ彫付シタルモ

ノアリト聞ク此等ノ器ヲ使用販賣スル者亦同シ注意スベシ

一 檢定所ニ差出難キ度量衡器ハ施行規則第四條ニ依リ其所在地ニ於テ檢定ヲ受クルヲ得ルモノナリト雖モ此場合ニハ其差出シ難キ事由ヲ詳記シ尙左ノ事項ヲ具シタル願書ヲ地方長官ニ出シ其許可ヲ得ルヲ要ス

一 檢定ヲ受ケントスル場所

一 度量衡器ノ形狀物質種類及其個數

一 常置檢定所ヨリ受檢場迄ノ里程

前項ノ如ク所在地ニ於テ檢定ヲ受クルキハ檢定官吏ノ旅費及檢定器具運搬其他總テノ費用ハ受檢請求者ニ於テ自辨スベキモノニシテ其費用ハ豫納スル規程ナレハ之ヲ地方廳ニ納メ地方廳ハ雜部金ノ取扱ヒヲ爲スヲ至當ナルモノ、如シト雖モ右金ハ國庫歲出入ニ關セザルモノナレハ請求者ヨリ直接該官吏ニ差出スモ妨ケナカルベシ

一 度量衡器ノ檢定ヲ受ケントスルキハ施行規則第二條ニ依リ其請求書ニ第九條ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ檢定所ニ差出スモノナリ左ニ其印紙ノ種類及貼用方法ノ規則ヲ掲ケ參者ニ供ス

大藏省令第十三號

(明治廿一年十月)

今般勅令第六十六號登記印紙規則第三條ニ依リ登記印紙ノ種類定價ヲ定ムルヲ左ノ如シ

但印紙ノ見本ハ別ニ之ヲ頒布ス

登記印紙ノ定價	印紙ノ種類	印紙定價	印紙種類	
貳錢五厘	茶褐色	壹錢	茶褐色	明治廿三年十月大藏省令第廿六號追加
五錢	全	參錢	全	
拾錢	全	壹厘	綠色	明治廿五年一月大藏省令第一號追加
五拾錢	全	五厘	全	
壹圓	青色			
貳圓	全			
五圓	全			

大藏省令第三號

(明治廿五年二月)

明治廿四年十二月勅令第二百四十五號ニ依リ登記印紙ヲ以テ手帳料ヲ納ムルキハ其金額ニ相當スル印紙ヲ願書其他ノ書類ニ貼用シ署名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケ消印スベシ

一布若シクハ革製ノ度器(卷尺ニシテ)ハ爾來販賣使用スル能ハザル物ナリ從テ其檢定料ノ規定ナシ然レモ舊器ニハ之ノ等ノ物質ヲ以テ製造シタルモノ多シ其舊器ハ明治三十二年迄使用シ得ル物ニシテ其修葺ヲ要シタルモ檢定請求スルニ當リ檢定料金ノ算出ニ迷フモノ、如シ然レモ金屬ノ部ニ入ル可キ物ニ非ラザルヲ以テ無論竹木骨象牙ノ率ニ依ル可キモノナリ

一疊尺ハ其全長十五尺以下若クハ五「メートル」以下ノ規定ナリ然ルニ檢定料ニハ七尺以下ニ「メートル」以下(金屬トアリテ其以上即チ七尺ヨリ十五尺迄ニ「メートル」ヨリ五「メートル」迄ノ料金ナシ然レモ此等ハ七尺以下若クハ二「メートル」以下ノ率ニ依リ其同額ヲ徴セラル、物ナルベシ

一度器ハ每段ニ依リ其檢定料ヲ納ムヘシト勅令第九條ニ明文アルヲ以テ曲リ尺ト雖モ二段以上ノ目盛ハ其每段ニ依リ納ム可キモノ、加シト雖モ本器ニ限リ檢定料表中ニ各種トアルヲ以テ仮令二段以上アルモ其段數ニ依ラス同一ノ料金ヲ徴スルモノナリ

現行 度量衡法規全書終

明治廿六年九月十二日印刷
 明治廿六年九月廿一日發行

定價金三十拾錢

大阪府島下郡茨木村大字茨木第七百拾一番屋敷

發行者 奥野賢 二

大阪府島下郡茨木村大字茨木第五百九拾番屋敷

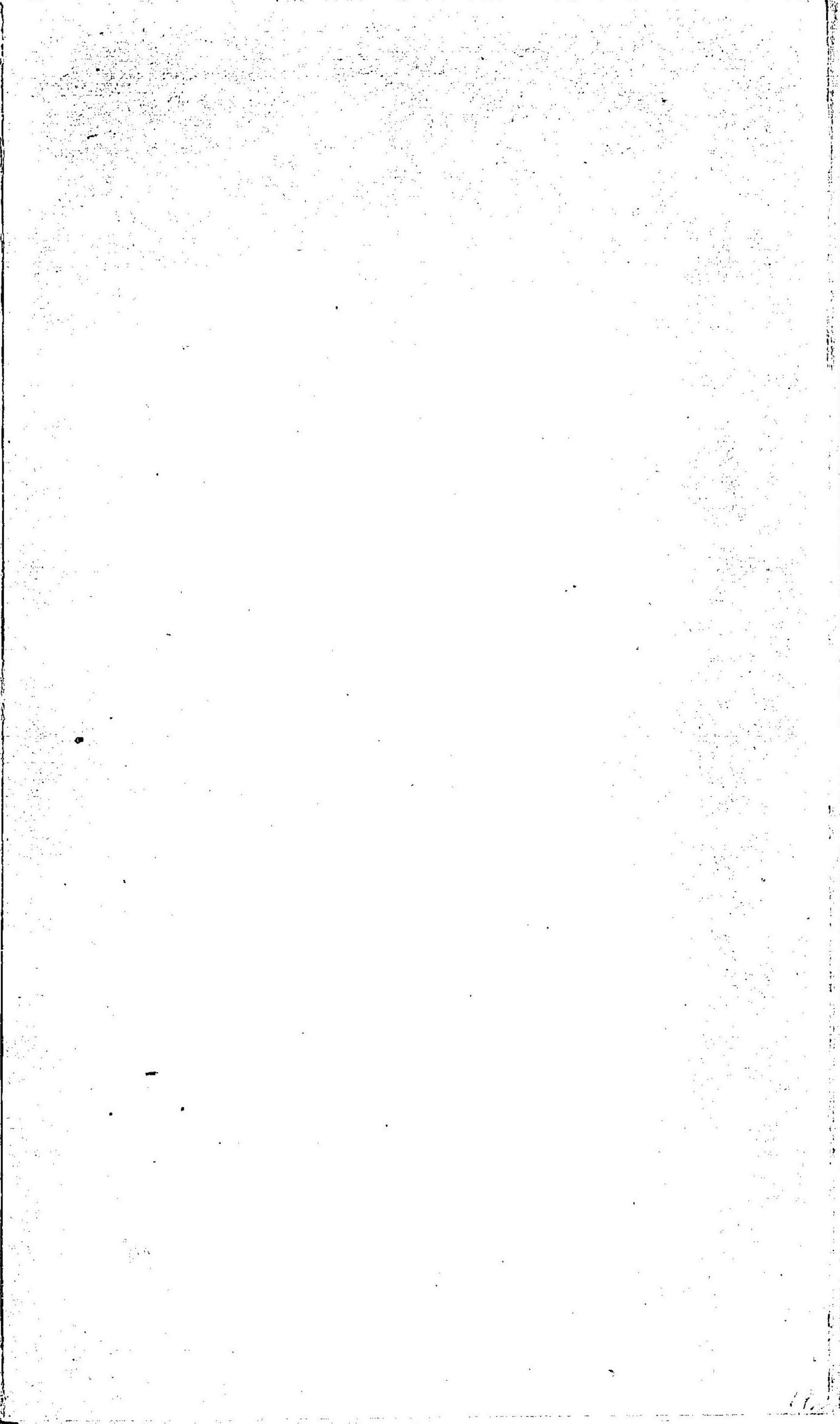
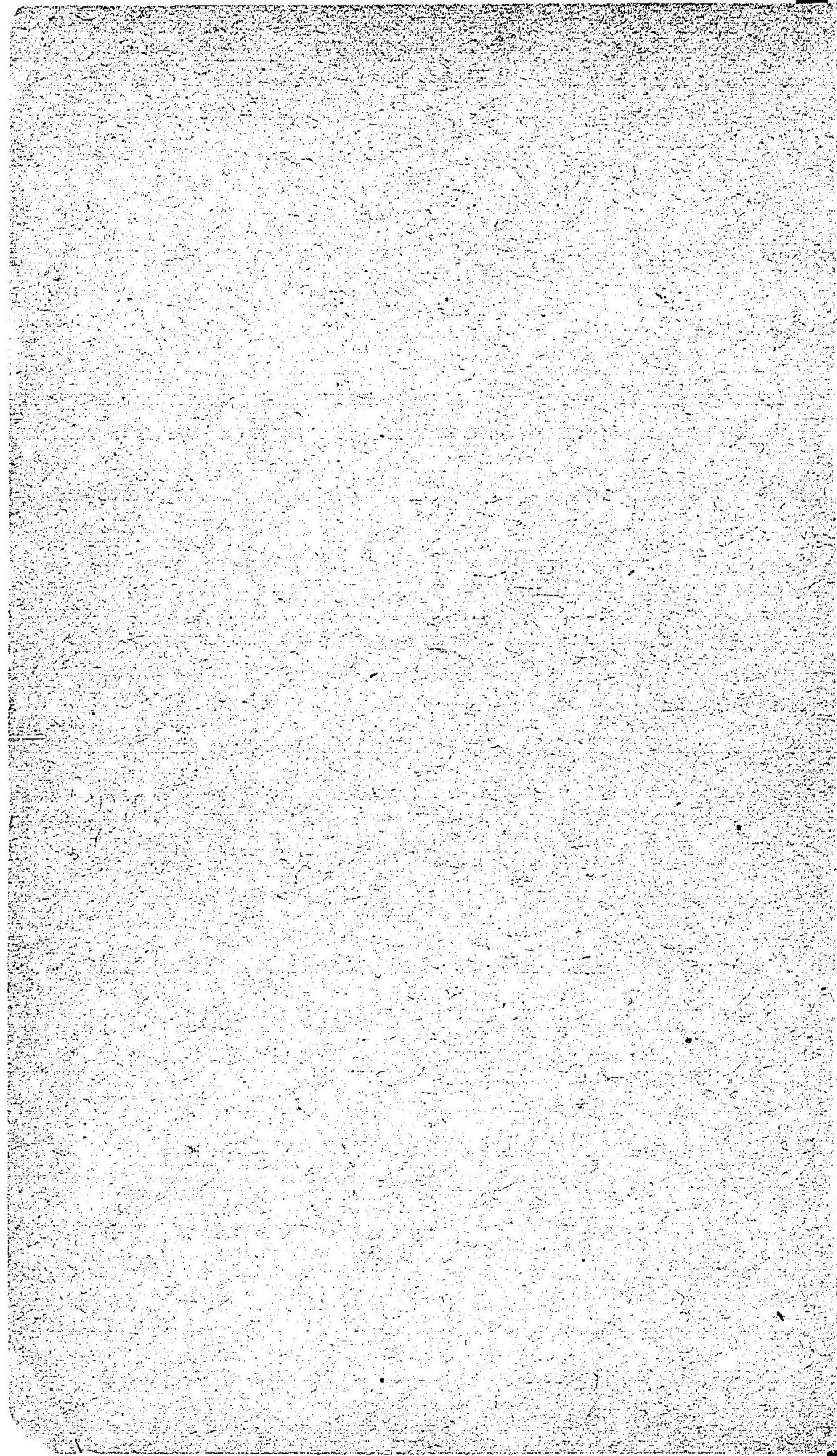
印刷者 吉田常三郎

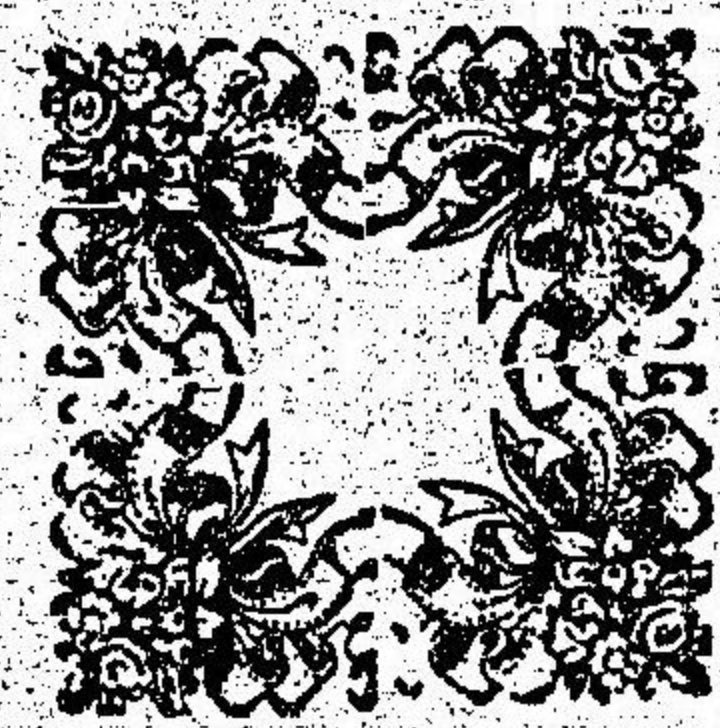


攝津茨木書林

賣捌所

周山堂





150
312

現行度量衡法規全書

奧野賢二君編纂

周山堂藏版

037508-000-9

CZ-1462-73-01

現行度量衡法規全書

奧野 賢二 / 編

M26

BBU-0119

